

自転車は止まると倒れてしまう 吉田菁風

四月はフレッシュという言葉がよく似合います。

新入生、進学進級、そして新入社員いずれも生き生きと前を向いて歩きだす姿を想像します。五十年前、わたしも張り切って千葉房総の海岸沿いにある一学年三学級の小さな農業高校に赴任しました。農村、漁村の子弟が多く素朴な生徒達でした。休み時間に屋上に行ってみると



嘯風

眼前は太平洋の大海原、遙か水平線を眺めるといくらか丸くなっているように感じました。その初任校でスポーツ大会があり、面白い職員レースがありました。スタート地点で一斉に自転車に乗り、一番遅くにゴールした人が勝利するというもので選手はハンドルを左右に振りながらゆっくり走るのですが、つい足を地面につけてしまふ。するとその選手はそこで失格。わたしも参加しましたがゴールした覚えはないので途中で失格になったのだと思います。自転車は止まると倒れてしまうのです。

さて、わたしはある時しばらく筆を持ってない事がありました。久しぶりに筆を持つてみると、手が震えて満足に字が書けないのに驚きました。転折では思わぬ方向に筆が走ったり、縦画は右に左にと曲がったりして散々な思いをしました。腕が錆びついてしまったようで、調子を取り戻すのに相当紙を無駄にしてみました。筆から長く離れてしまうとこんな目をするようになります。

自転車は走り続けないと倒れてしまうように、書も継続して筆を持つことの大切さを知りました。

全書芸四月号目次 通巻八七二号

○表紙図版 秦・権量銘より

○表2 「金石文字之美」……………伊藤 滋

口 絵 写 真

- ・鑑賞ルーム 副島蒼海……………服部 大超
- ・古碑法帖研究 智永 千字文……………水越 幽峰
- ・古筆の研究 本阿弥切……………榑崎 華祥
- ・役員習作……………松山紀雨・板倉里佳・風巻鐘峰
鈴木幸風・北見瑠紅・杉本善子
鈴木艶子・久田房子・内津観空
- ・参考作品……………堀 天鶴・福山 行雲
高市乾外

本 文

- 巻頭言「自転車は止まると倒れてしまう」……………吉田 菁風 1
- 全国書初作品大会……………山口 萱雨 2
- 学書の友 古典を深める……………吉田 菁風 4
- 書道を普段の字にいかす！ かな編……………吉田 菁風 6
- 手本と解説……………吉田 菁風 6

- 「臨書講座」智永 千字文……………水越 幽峰 8
- 漢字部条幅講座……………目良 丹崖 10
- かな部条幅講座……………坂東 保枝 11
- 「五級」新規「九成宮醜泉銘」……………奥村 静香 12
- 「二級」四級「孫秋生劉起祖等造像記」大久保樹心……………14
- 「運営」準初段「風信帖」……………金子 閣亭 16
- 「7級」新規「近衛本和漢朗詠集」平澤 璇子……………18
- 「5・6級」近衛本和漢朗詠集……………平澤 璇子……………19
- 「3・4級」深窓秘抄……………奥山裕美子……………20
- 「1・2級」深窓秘抄……………奥山裕美子……………21
- 「かな半紙放書」……………坂東 保枝……………22
- 「かな料紙創作」……………榑崎 華祥……………23
- 「細字部臨書A」美人董氏墓誌銘……………吉田 菁風……………24
- 「細字部臨書B」熟語……………小泉 移山……………24

二〇二三年

第七十四回

全国書初大会

時・2月5日(日)
所・池袋サンシャインシティ
文化会館四階展示ホールB

運営総務

山口 萱雨

明るい春の陽射しに恵まれ、真つ青な空の下、「全国書初大会」がサンシャインシティ文化会館で開催され、全国から多くの方が足を運ばれました。コロナへの対応は緩和されつつありますが、多くの方が集う行事ゆえに人と人の距離や消毒に充分に配慮しての大会となりました。

十時半の開場と同時にたくさんの方の笑顔と楽しく賑やかな雰囲気にもまれる会場。毎年の本当に嬉しい心躍る瞬間です。

作品展示

全国から応募された作品六四八三点の中から、一月二十一日の審査会を経て、以下の作品が展示されました。

- 学生部 全賞以上 一三四七点
- 一般部 特選以上 一五三三点
- 師範部 秀作以上 一二九点
- 総務部 五四点

また、会場中央の壁面には総務部代表賞、師範部特別大賞の作品が軸装の上展示され、美しく映えていました。



席書大会
本年はコロナ以前と同じ、午前（揮毫者三十一名）午後（二十六名）の二回の席書大会を行うことが出来ました。
入場行進。少し頬が上気して緊張感が深いです。

大会委員長の吉田青風代表より「書初は日本の伝統文化。正月二日に家族揃って筆を執り、その年の目標等を記す。大事に続けていきたい。これまでの練習の総まとめとして元氣よく書いてください。」との言葉がありました。司会は服部大超先生、揮毫指揮を加藤泰玉先生、小泉



移山先生がそれぞれ務められました。保護者の方はもちろん、多くの来場者、役員の先生方に見守られる中での揮毫。とても落ち着いた姿に日々の積み重ねと自信が窺えました。完成した作品を披露した際には賞賛の拍手が惜しみなく送られていました。

授賞式

受賞者皆様の晴れやかな笑顔が溢れる表彰式です。

大会委員長吉田菁風代表が「皆さんは今波に乗っている。いい作品が書けるときなので思いきり学んでください。古典の臨書は学びの宝庫です。一緒に勉強しましょう。」とお祝いの



詞がありました。
 続いて、文化院賞受賞者代表の小学部・近藤菜穂さん、中学部・吉田真希さん、高校部・高橋駿樹さん、一般漢字・工藤良延さん、一般かな・岸田裕香さん。師範部特別大賞、漢字・佐藤煌果さん、かな・塚本玲子さん。総務代表賞漢字・江坂溪鶴さんに賞品と賞状が授与されました。最後に受賞者を代表して、ひろ支部佐藤煌果さんより心のこもった謝辞があり、式は終了しました。
抽選その他
 会場入り口に設けられた三角くじの抽選会。歓声のため息が交錯し楽しい場でした。景品を



ご提供頂きました玉川堂様、一照堂様、ジョイ様に御礼申し上げます。報道関係では藤樹社様、書道芸術社様から取材がありました。
特設コーナー
 会場に着くと真っ先に飛び込んでくるこの壁面。今年は皆さんからのうさぎ年の年賀状。「卯」の字を中心に構成され、一枚一枚の可愛らしさとアイデアの素晴らしさに目が釘付けでした。
 素晴らしい作品群。それを見つめるキラキラの目。弾む声。今年も笑顔あふれる一日となりました。

《学書の友》 古典を深める

今年度の「学書の友」は二〇二一年度に引き続き「古典を深める」と題し、古典・古筆の筆路、解字を中心とした内容を掲載していきます。皆様の学書の一助となれば幸いです。

集王聖教序（集字聖教序）（二）

はじめに：「古碑法帖研究」の課題に前回この集王聖教序が取り上げられてから十年が経過しています。行書の手本として有名な書聖

王羲之の書を集めて作り上げられたこの手本を、何回も繰り返し習うことは学書の方向として間違いないことかと思えます。

集王聖教序：唐・咸亨三年（672）の刻で、もと長安の弘福寺に建てられたが、今は西安碑林にある。

集王（集字）とは、興福寺の僧、懷仁が、碑

文の文字すべてを王羲之の行書で集めて作ったもので、二〇年前後を費やしたと言われる。その後の集字碑の初めである。

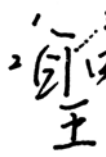
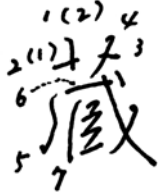
聖教序・記とは、玄奘三蔵法師がインドから将来した聖教（仏典）を、新たに漢訳して太宗に奉じこの序文を請願し「大唐三蔵聖教序」が下賜され、併せて高宗からも「述三蔵聖記」を賜った文章をさします。

（解字・解読の見方）

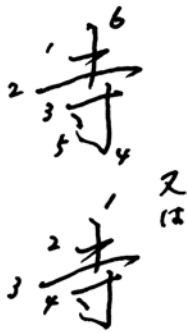
◎法帖は、天来書院シリーズ・書の古典・10、集王聖教序（集字聖教序）を使用。

◎数字は、頁数と行数を示しています。

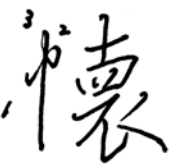
（例） $\frac{3}{1}$ は、3頁の1行目を現します。◎蘭亭序から採取したと思われるものを（蘭）で示した。



衣の一画め
省略



又は



衣の一画
省略

窮

窮

數

數

然

然

易

易

洞

洞

陽

陽

賢

賢

罕

罕

窺

窺

端

端

明

明

明

明

像

像

無

無

潛

潛

是

是

義

義

諸説考えられ...
こゝは一例を
示した。

儀

儀

書道を普段の字にいかす!

【かな編】

今年度の企画は、日々の書の学びを日常生活の中で書く文字に生かせるように漢字・かなのそれぞれの分野から、「書道を普段の字にいかす」と銘打って、基本の基を皆様と一緒に考えていきます。

まずは、書いた時に漢字よりも字数が多い「ひらがな」の整え方についてみていきましょう。

中国から伝来した漢字に一音を当てて表記したものを「かな」といいます。つまり同じ音に対して複数の文字表記が存在しました。明治33年に「かな」の中から一音につき一文字に統一されたものを「ひらがな」とよび、それ以外の「かな」を変体かなとして区別するようになりました。

多数ある変体かなに対し、「ひらがな」は四十八文字。ひらがなの字形を掴み、記憶して表現することが『整えて書く』ことの鍵となるでしょう。

整った字と言ってもその表現方法や文字の姿は十人十色。正解がひとつということもありません。ひらがなについていえば、字源を知ること外(概)形をとらえることが容易になることも多くあります。

ここでは字源の文字の姿を、和様字典を用いてみていきます。

凡例

とりあげる
ひらがな

字源

お
於

改善点のある字形(例)

和様字典(二玄社)より抜粋

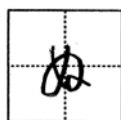
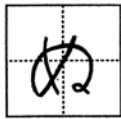
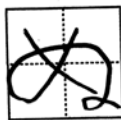
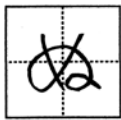
整えるためのポイント(二例)

中学校教科書より

◎字源を知ることにより外形がつかめるひらがな

「ぬ」は□、「め」は□を意識して表現すると整えやすい。

ぬ
奴



奴

琴歌譜

奴

藤原佐理
藤原命帖

ぬ

桂宮本萬葉集

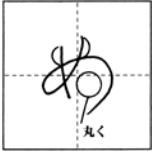
奴

元暦萬葉一

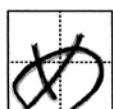
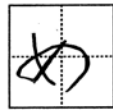
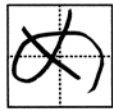
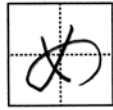
奴

元暦萬葉六

め
女



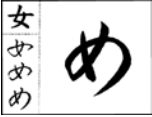
如 桂宮本萬葉集
如 慈慈遺告



女 藤原佐理
女 国申文帖

如 雲紙本朗詠集
如 伊豫切第二種

如 藤原道長
如 御堂閔白記



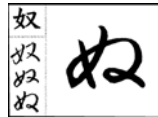
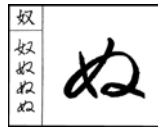
ぬ 元暦萬葉十二

ぬ

ぬ 元暦萬葉十三

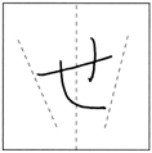
ぬ 元暦萬葉十七

ぬ 尼崎萬葉十六



せ
世

「せ」は ▽ を意識して表現すると整えやすい。



世 伊勢集(卅六)

世 是則集(卅六)

世 元真集(卅六)

世 卷子本古今集

世 大和物語

世

世 粘葉本朗詠集

世 近衛本朗詠集

世 元暦萬葉四

世 元暦萬葉十四

世 日本紀
世 竟宴和歌

世 藍紙萬葉九

世 小島切

世 大字朗詠集切

世 和歌體十種

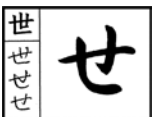
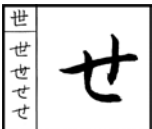
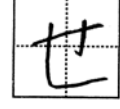
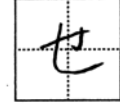
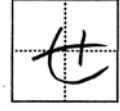
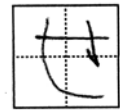
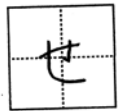
世

世 平等院鳳凰堂
世 屏絵色紙形

世

世

世 関戸本朗詠集

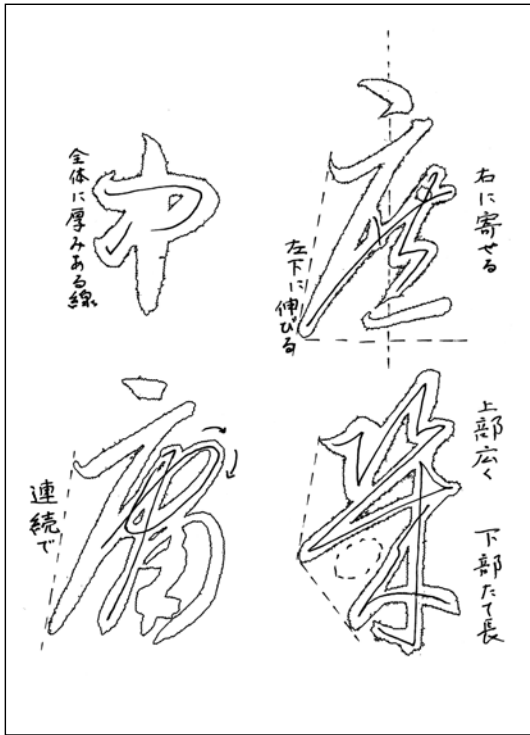


(隋) 智永 真草千字文

千字文は、中国はもとより日本においても、古くから学書の手本として学ばれてきました。

梁の武帝(四六四〜五四九)が八人の王子のために、殷鉄石に命じて蒐集した王羲之の書から、重複しない一〇〇〇字を集めて手本を作らせました。しかし、それが雑然として順序もなく、一字ずつの断片的なものであったので、当時の官僚で文章家の周興嗣が、整然とした韻文にまとめました。

周興嗣は一字も重複しない千字を用い、僅か一晚で



(一) 解説 水越幽峰

毎回四字、二五〇句、一二五韻の文を作り上げました。その心勞で周興嗣は一夜にして頭髮が真っ白になったといわれています。内容は、天地自然のあり方から始まり、身近なこと、生き方など広く論じています。

この智永の千字文は、真(楷書)と草書を並べて書いてあります。今回は草書を学びます。

庶

横画の角度と長短に留意。軽快に運筆するが、線の太細を見逃さず。

幾

長横画を左に長く出す。連綿線を効果的に生かし、弱々しくならないように。

中

肉厚でポリユーム感ある運筆で、字の大きさは、他の三字との兼ね合いで判断する。

庸

斜めの直線と曲線でメリハリをつける。運筆に緩急遅速の呼吸が大切。

参考臨書



(原帖)

文字解説

聆…偏と旁の間の点は紙の汚れ。

貌…隷書では(貌)この形にも作る。

辯…筆順はㄣㄣㄣㄣ

色…まを点は最後。

猷…旁に汚れあり。

處…隷変によってできた筆写体で草書も同じ。

求…一画目をノとし、右上の点は省略する。

慮…二画目の右肩の一折れする箇所をなだらかに書いている。

魚

◎ 作品制作に適した語句

二字…積文をもとに、四字句を上下二字ずつにすると最小単位の句となる。

四字…千文字は四字ずつの句であるので、四字で区切ればよい。

八…聆音察理。索居閑處など

十二…字…四字二句で対を成す。庶幾中庸。勞謙謹勅。など。

十六…字…変則 四言三句でもよいでしょう。解組誰遍く沈黙寂寥。など。

二十四…十六…字…四言を四句。庶幾中庸く鑑貌辯色。など。

三十二…二十四…字…四言を六句。兩疏見機く散慮逍遙。など。

四十…三十二…字…四言を十句。庶幾中庸く林宰幸即。など。

六十…四十…字…四言を八句。庶幾中庸く寵増坑極。など。

水越幽峰臨

◎ 臨書条幅を

書くときの注意

毎月の古碑法帖研究のページには、筆路が骨書きされ、そして参考作品も掲載されています。予告ページには、ペン書きの作品草稿例と骨書きが載っています。臨書学習においては、千字文に限らず筆路の確認が肝要です。これらの毎月の資料を参考にし、迷いのない明快なリズムの運筆を習得してください。



庶幾中庸。勞謙謹勅。聆音 察理。鑑貌辯色。

【出品方法】

臨書作品1点、創作か做書のどちらか1点の合計2点が出品できる。半切たて書きとする。出品券にバーコードシール、条幅出品シールを貼付のこと。

参考創作



目良丹崖書

課題語句① 閑中信歩花留住 醉後高歌月送歸（毛宗文）

大意 Ⅱ つれづれに足の向くままに歩めば、花はひきとどめてくれ、一杯きげんで高らかに歌えば、月は帰りを見送ってくれる。

参考做書



目良丹崖書

課題語句② 造化鍾神秀（杜甫）

大意 Ⅱ 造物者は最高にすぐれた気を集めてこの泰山を作ったのであろう。

【出品方法】

臨書作品1点、創作か做書のどちらか1点の合計2点が出品できる。半切たて書きとする。出品券にバーコードシール、条幅出品シールを貼付のこと。

創作做書部は、規定課題語句による創作または做書の作品のみとする。

（做曹全碑）

◎創作条幅を

書くときの注意

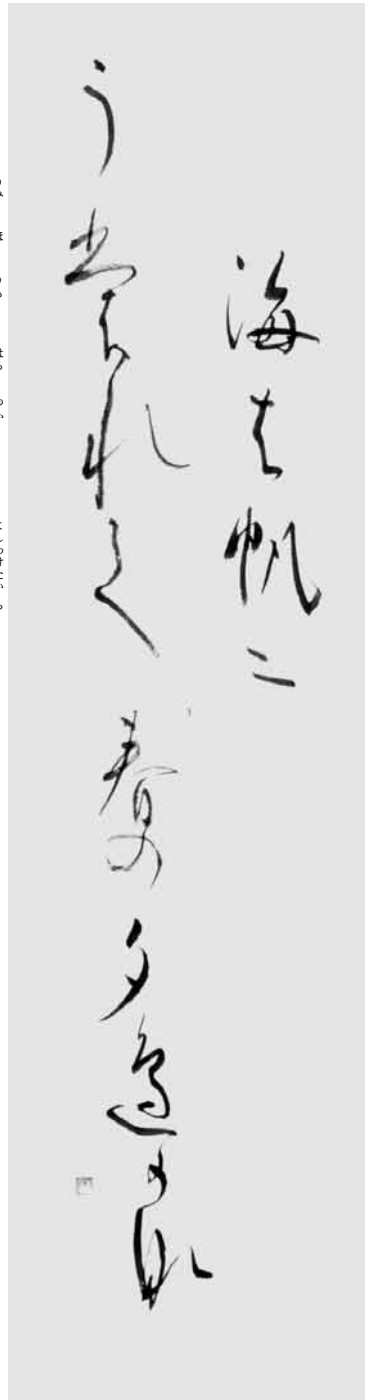
澄んで温かい線の曹全碑の做書作と並ぶことを考え、骨太でねばりのある線の楷書をイメージし、鄭道昭の線に肉付けした風を考えました。しつこくなり重苦しくならないよう気をつけましたが、難しく苦労しました。イメージした作品を創っていくことが大事であることを痛感。

◎做書条幅を

書くときの注意

この隷書は捉えやすい古典の一つと考えています。自分の呼吸を入れるとこわれてしまうものがあります。素直に丁寧にじっくり筆を運ぶことが大事だと思います。無心になって細部まで意を運ぶことが大事です。無心になることを学ぶ古典だと考えました。

参考創作



坂東保枝書

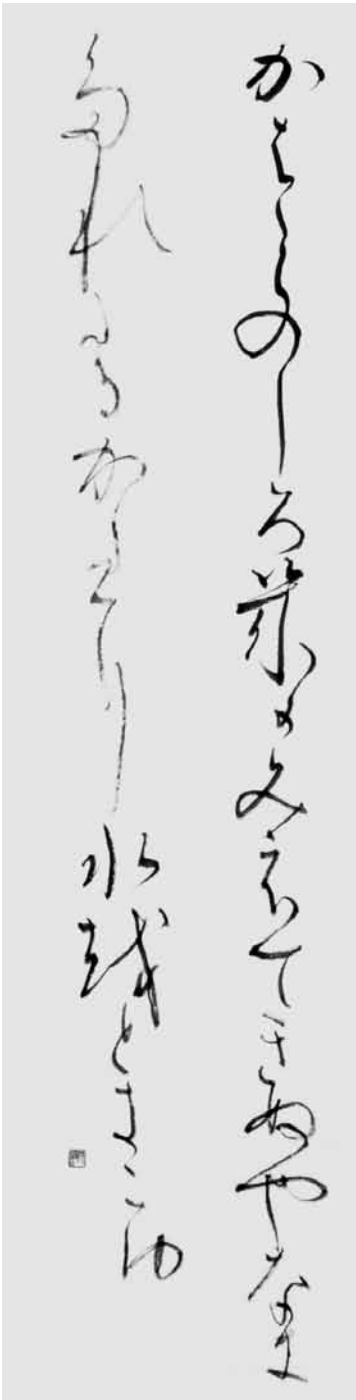
短歌課題①

海は帆に埋れて春の夕べかな (吉分大魯)

課題よみ

海は帆にうもれて春の夕べかな

参考倣書



坂東保枝書

俳句課題②

河原の白きがみえてきぬやなぎ垂れたる方に水音きこゆ (松村英一)

課題よみ

かはらのしらぎがみえてきぬやなぎたれたるかたに水をときこゆ

【出品方法】

臨書作品1点、創作か倣書のどちらか1点の合計2点が出品できる。半切たて書きとする。出品券にバーコードシール、条幅出品シールを貼付のこと。

◎創作条幅を

書くときの注意

「海」「帆」は硬い字なので「うもれて」を大きく大胆に、本阿弥の雰囲気を取り入れました。

◎倣書条幅を

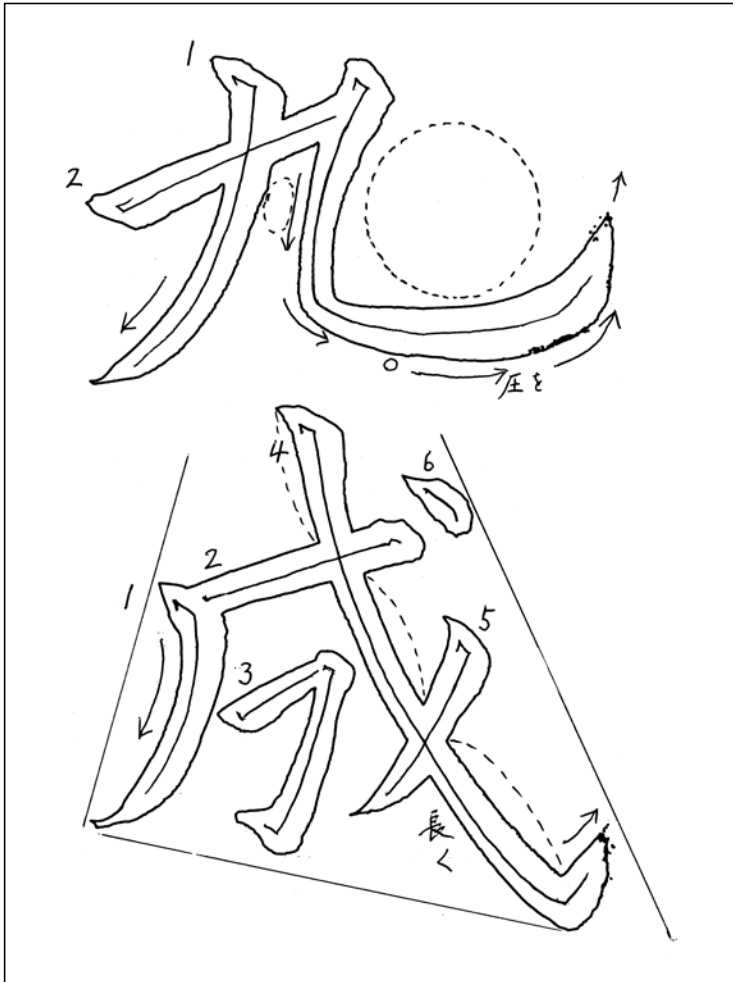
書くときの注意

本阿弥切は漢字が少なく、文字数が多くなり苦労しましたが、原帖の意を表現したく、そのまゝにしました。河原や音などに漢字を用いるのも良いでしょう。

(唐) 欧陽詢・九成宮醴泉銘

六三二年

今月から初唐の三大家の一人、欧陽詢の最高傑作の一つとされている九成宮醴泉銘を学びます。一点一画をゆるがせにしない周到な配慮と厳正さを極めているので、古来より「楷法の極則」と言われ、現在においてもなお、高く評価されています。字粒は一字の天地(約二〜三センチ)縦長な字形の整齊さは大変見事です。次ページの下段に掲載されている原帖をよく観察し、楷書の美しさを学んでいきましょう。



(土) 解説 奥村静香

◎書くときの注意

使用する筆については、穂はやや硬めで兼毫筆(中鋒三号か四号くらい)がおすすめです。筆の開閉が出来るように鋒の三分の二ほどおろして使用するとよいでしょう。筆の弾力を使って自在に運ぶ事が大切です。



単鉤法



双鉤法

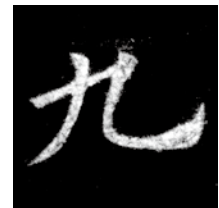
一般漢字Ⅱ五級ノ新規 規定手本

唐・欧陽詢 九成宮醴泉銘

奥村静香臨 (一)

九きゅう成せい

九成



最終画は筆圧を加えてのびやかに。ハネは押し出すよう、方向に留意。



「反り（四画め）」は角度を稍立てて頭部を長く突き出す。五画目と点の位置に注意。



支部名

級・新規

氏名（姓号）

※はじめて出品する方は必ず新規と記入 ※バーコードシールは作品の左下に添付

※全書芸ホームページにて

編集部による動画配信中

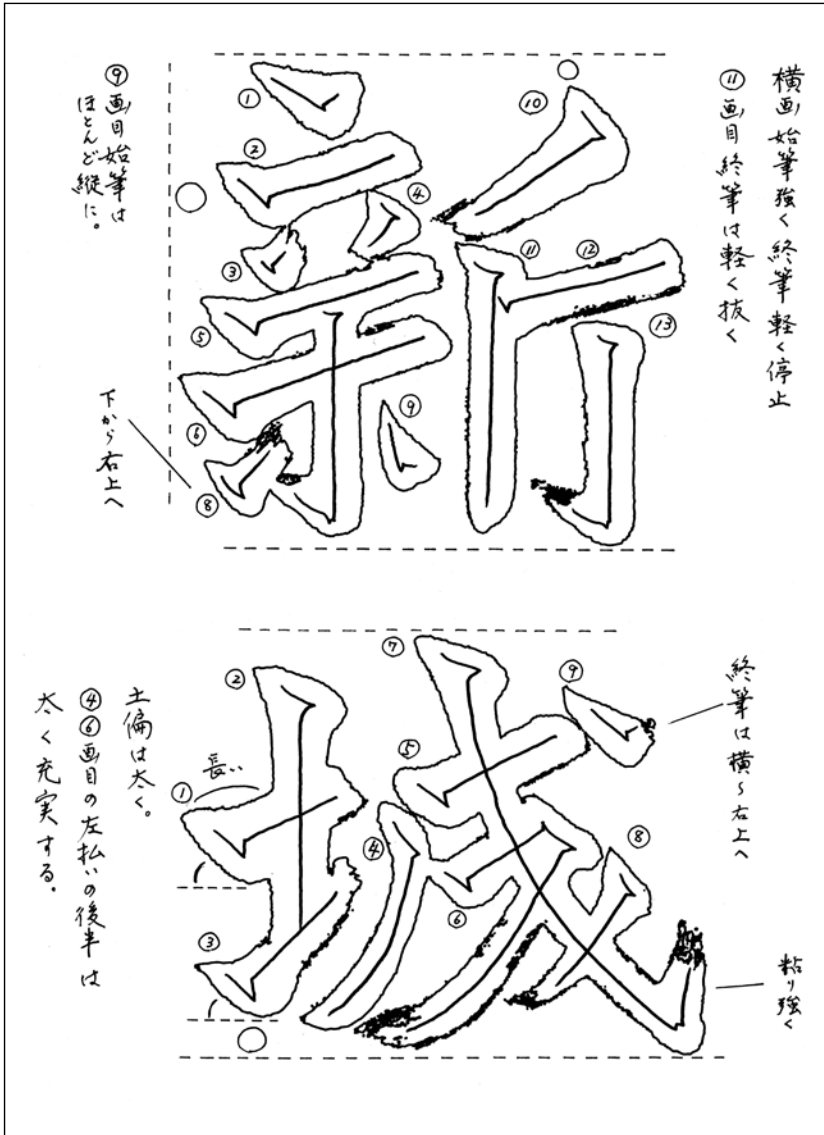
(北魏) 孫秋生 劉起祖等造像記 五〇二年

孫秋生造像記について

孫秋生造像記は、孫秋生と劉起祖のほか、二百人ほどが集まって国家安寧・仏法盛隆・一族繁栄等を祈願して釈迦像一軀を作ったことが刻されています。完成まで約二十年を要した大プロジェクトでした。

孫秋生造像記は、龍門四品に数えられる造像記の精華で、撰文者と書者が記名されている珍しい造像記です。

心を開放して、大胆な運筆を心がけましょう。なお、龍門二十品の法帖の購入をお勧めします。



(一) 解説 大久保樹心

◎書くときの注意

孫秋生造像記の字形は、やや扁平く正方形を基本とし、用筆法はほぼ次の通りです。

- ① 始筆は遠くから鈍角に打ち込む
 - ② 停止後突き返すように圧力をかける
 - ③ 筆毛をS字状にして押し出すように運ぶ
 - ④ 転折は横画の終筆後に改めて縦画を打つ
 - ⑤ 払い・ハネは粘り強く長い
- 大胆豪放な運筆を心がけましょう。
- 三号の兼剛く剛毫筆、やや濃墨を薦めます。

新

三画目から四画目への動きに行意あり。始筆は鈍角に。偏・旁は緊密。

城

偏・旁は緊密に。左払いは後半太く粘り有。七画目はやや曲線的に。

一般漢字Ⅱ一級～四級 規定手本

北魏・孫秋生

劉起祖等造像記

大久保樹心臨

(一)

新城しんじょう

新城

城

新

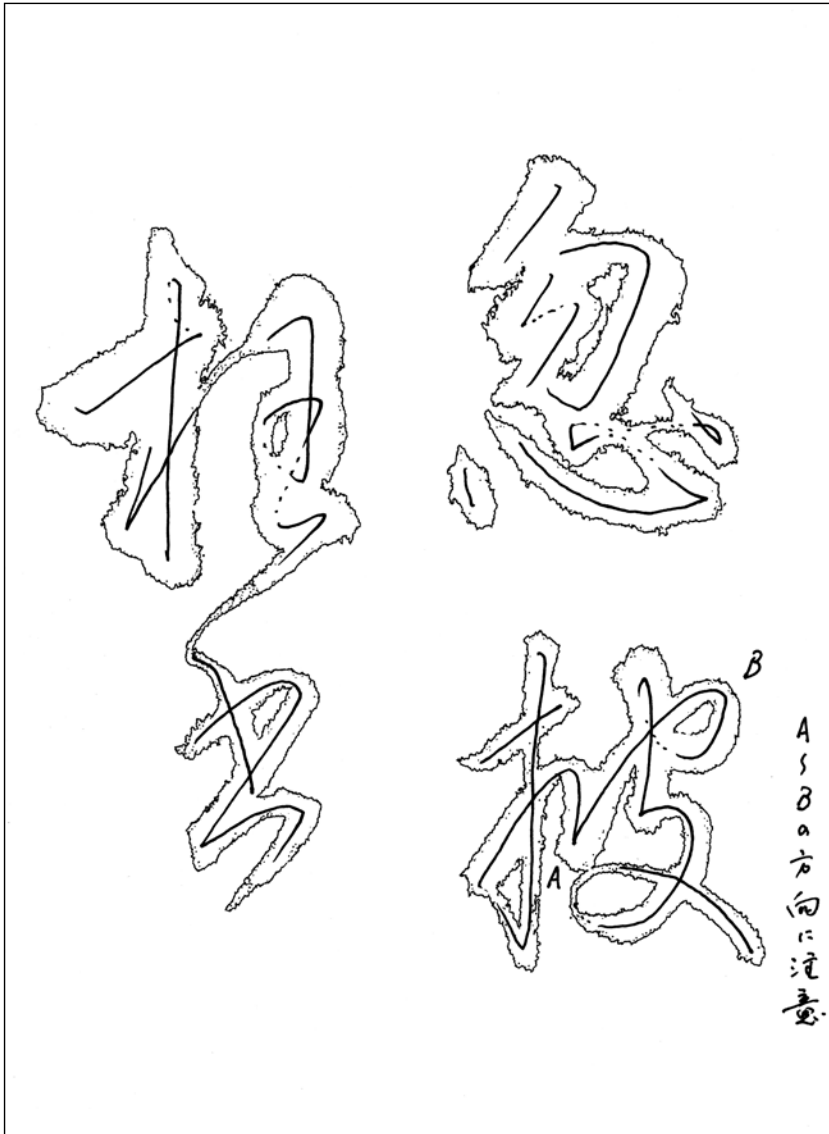
支部名

級

氏名(姓号)

(平安) 空海・風信帖 (忽披帖)

空海は平安初期の三筆 (空海・嵯峨天皇・橘 逸勢) の一人として特に有名である。空海は、俗姓は佐伯氏、讃岐国 (香川県) に生まれた。十八歳で京の大学で儒教を学ぶも飽きたらず、その後仏教に志し出家した。そして密教経典中の疑問を解き明かしたく、延暦二十三 (804) 年、留学生として渡唐。この時一緒だった者に橘 逸勢や最澄がいた。



(一) 解説 金子閣亭

◎書くときの注意

忽披帖は、太めの線で力強く書かれている印象があります。点画の重なっている所の筆路を正確に習っていく必要があります。

全書芸誌、二〇一八年八月 (十月号、学書の友、「古典を深める」を参照下さい。

たちまちおうしよをひらく



忽

勿と心の重なっている部分に注意して習います。太さと心の幅に注意。

枉

木偏なので三画め左下に下がる部分を書き、折り返し旁へ移りたい。

披

手偏から旁への連続とAとBへの右上がりで作り出す空間の広さが大切。

書

上の字からの連続で一画めへ、二画めの右上がりがかかり急です。

支部名

段

氏名(姓号)

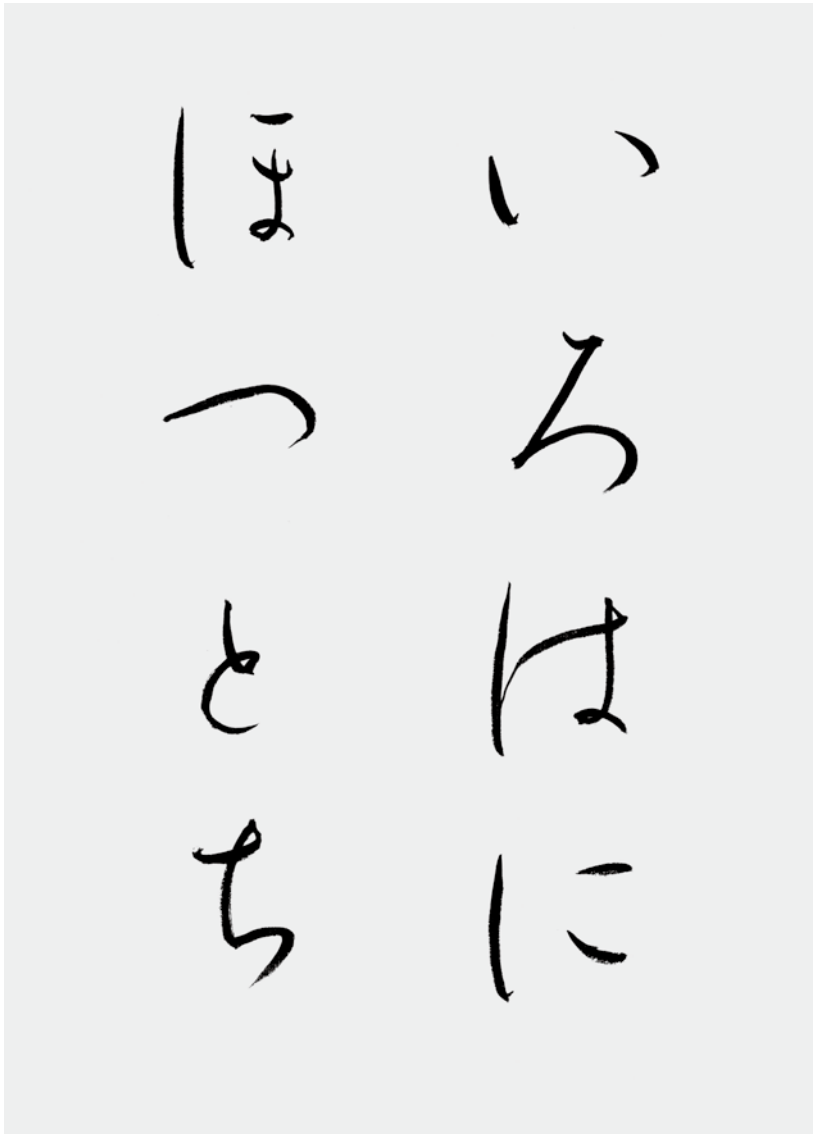
筆の持ち方

支部名

級

氏名(姓号)

※はじめて出品する方は必ず新規と記入 ※バーコードシールは作品の左下に添付



ちんわん 枕腕法



ていわん 提腕法

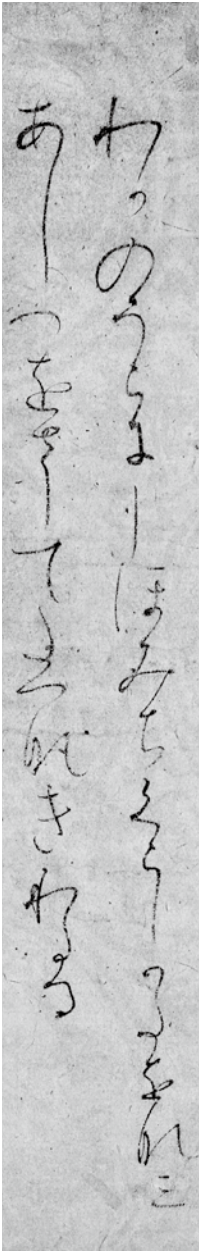
筆路



※全書芸ホームページにて 編集部による動画配信中



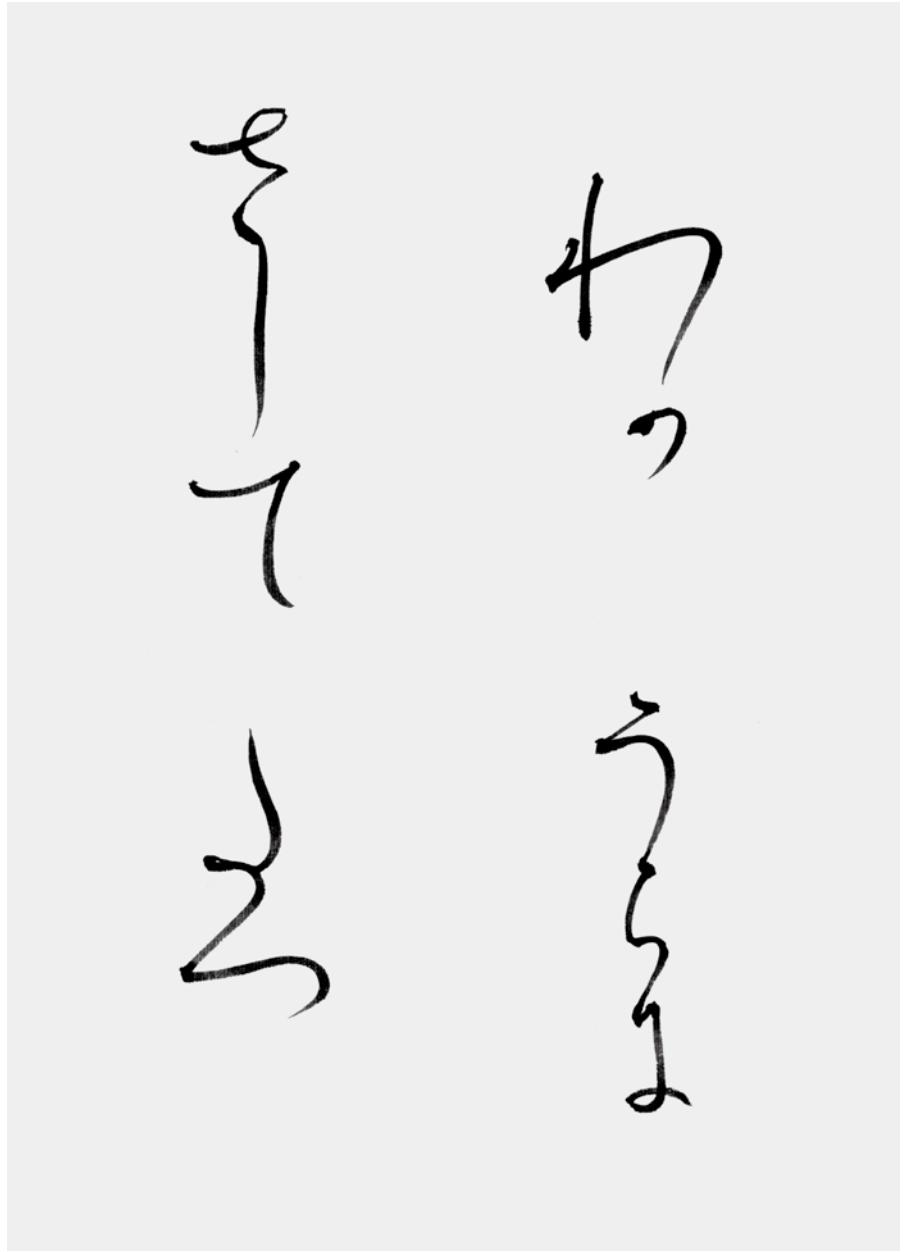
よみ^可わかのうらに^可しほみちくらし^可かたを^可なみあし^可べを^可さして^可たづ^可なき^可わたる^可
大意 和歌の浦に潮が満ちてきて干潟がなくなるので鶴は蘆のしげる岸辺の方へ鳴きながら飛び去ってゆきます。



支部名

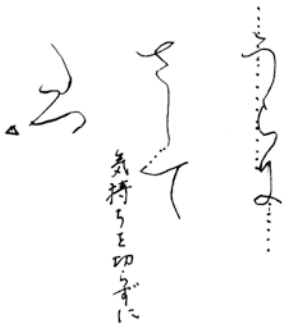
級

氏名(姓号)



※全書芸ホームページにて

編集部による動画配信中



◎筆路・書き方の注意

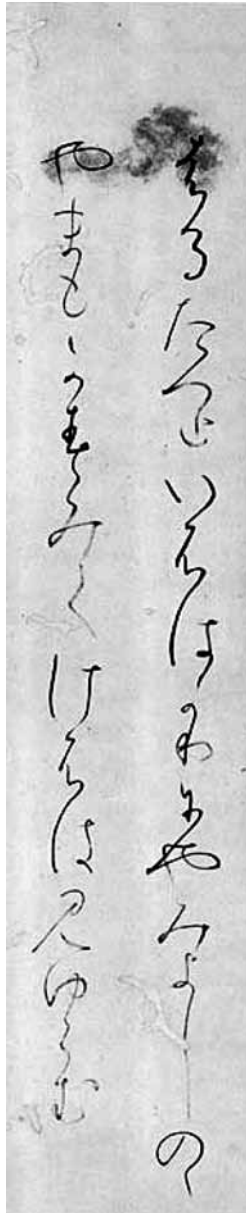
◎よみ

わか^可 うらに^可

さして たづ^多

◎書くときの注意
文字を続けて書くことを「連綿」と言います。「わか」はわの終筆がかの始筆です。「さして」はさの終筆で筆を立て、しを深い線で書きましょう。

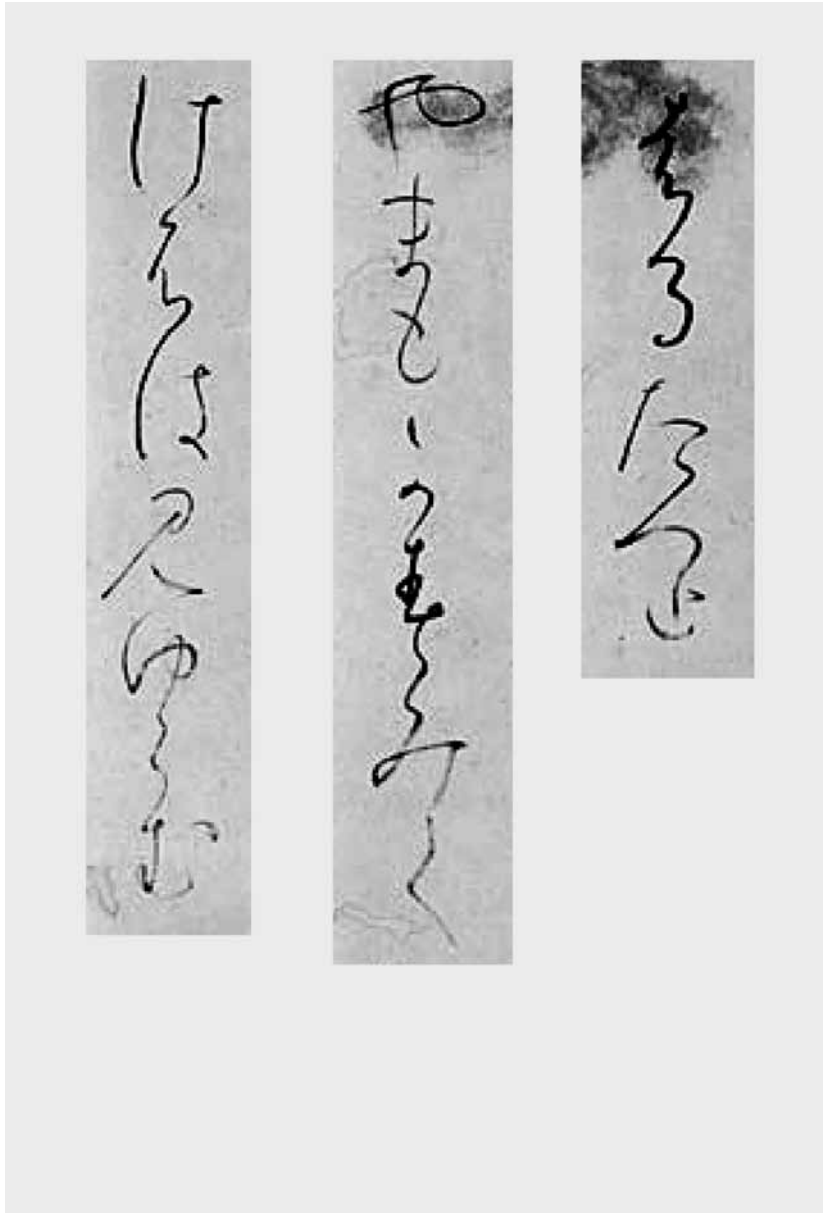
(一) 平澤 璇子



支部名

級

氏名(姓号)



(一) 解説 奥山裕美子

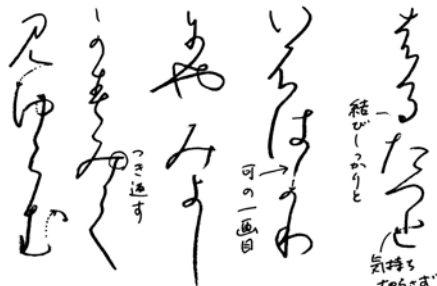
◎解説

深窓秘抄は、春・夏・秋・冬・雑・恋に分かれた全一〇一首の秀歌集。藍と紫の飛雲とびぐもと呼ばれる装飾を施した料紙に書かれている。

◎書く時の注意

字と字をつなぐ連綿線が途切れている箇所も筆路切らさずに。

◎筆路

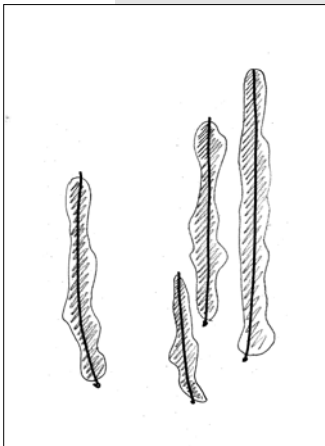
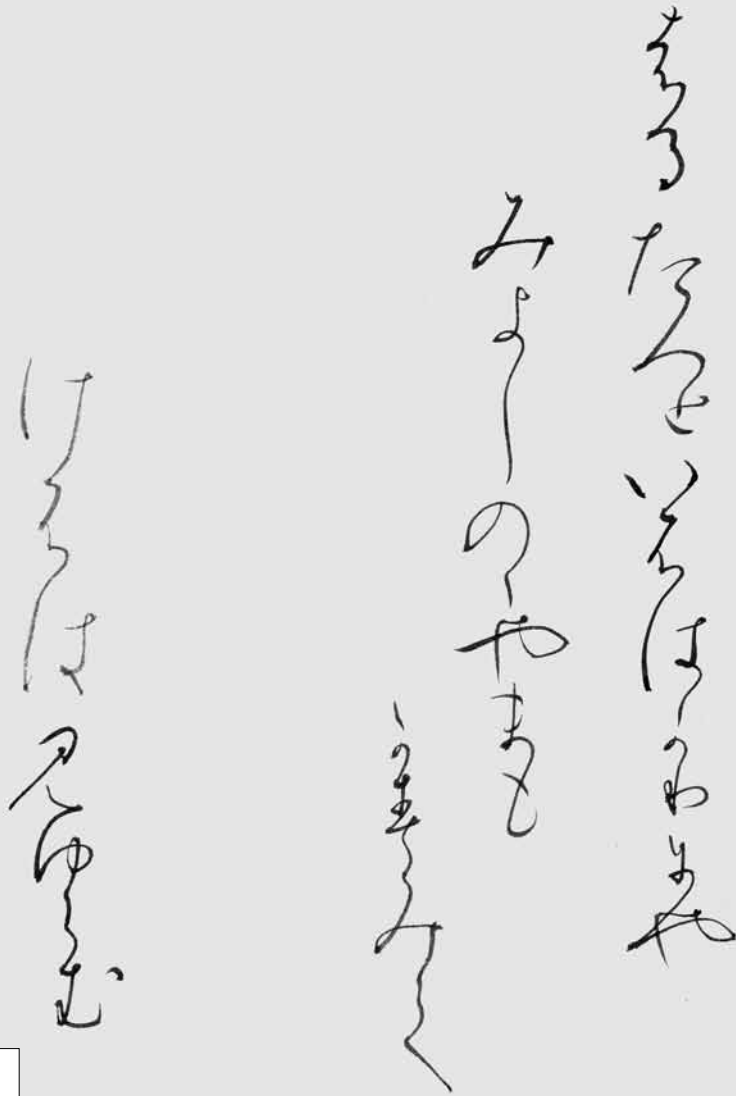


よみ^者はるたつといふ^不ばかり^{可利}にやみ^解よ
 し^の、やまもかす^{可春}みてけ^不はみ^見
 ゆらむ
 大意|| 暦の上では立春になったというだけで、吉野山も今朝は霞んで見えるだろうか。

支部名

級

氏名(姓号)



※書く時の注意 何度も墨継ぎしないようにしましょう。書き出しでやや多めに墨を含ませ、渴筆になってきたら筆をゆっくり動かします。「見ゆらむ」で墨継ぎをしましたが、「けふは」でも良いです。

◎倣書作品制作手順

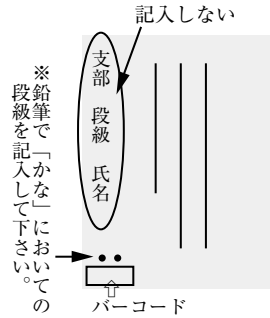
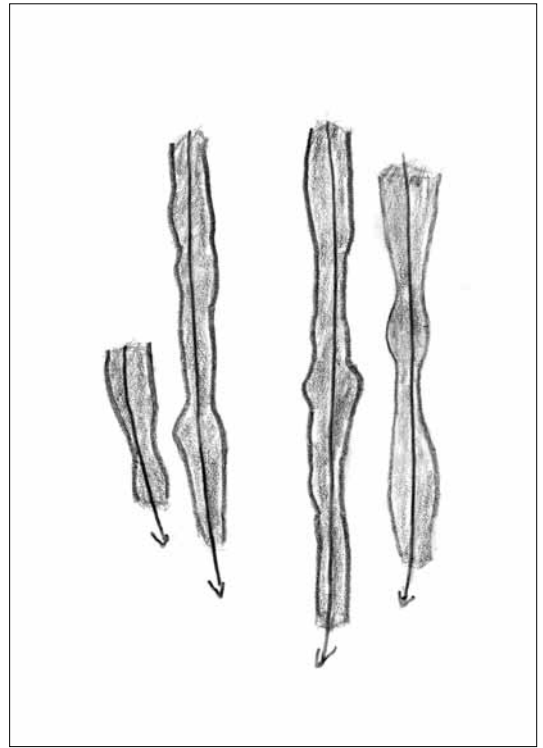
- ①原帖（今月から本阿弥切古今集）をコピーする
- ②原帖から歌の文字に合わせて探す（下図使用可）
- ③文字を用紙に貼る
貼った文字が流れに合っているか吟味する
（この時、連綿はつながらなくてよい）
- ④大体の形が出来ていない時は別の文字に置き換える
流れが悪い所を修正する
流れを意識しながら書き直す

◎倣書する時の注意

今月から四ヶ月、本阿弥切古今集の倣書をいたします。

倣書する前に、何度も臨書をしましょう。それにより原帖の特徴を捉えることができます。

切り貼りでは、表現することがむずかしいが回転のリズムで書くと良いでしょう。

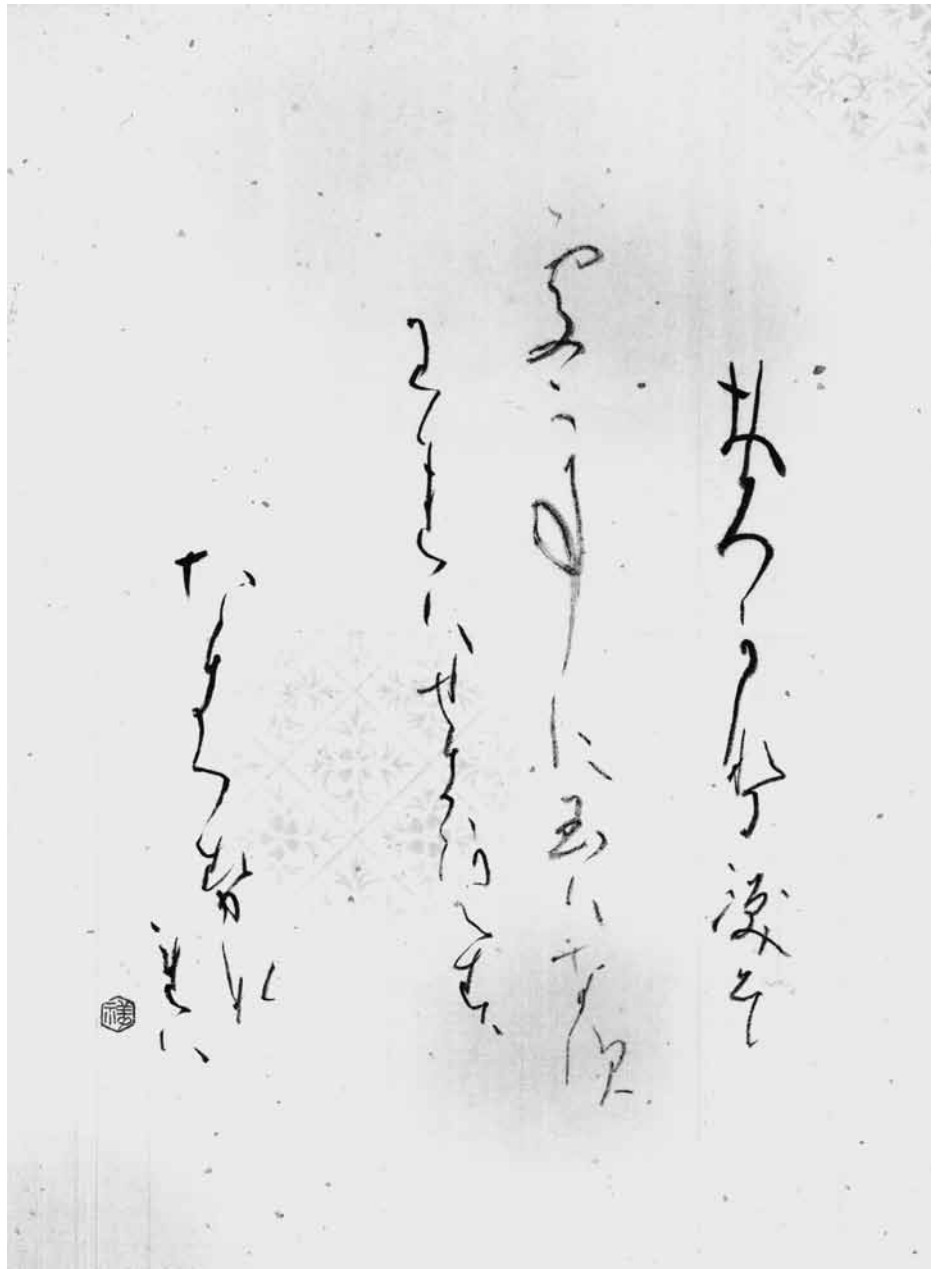


【参考までに選んだ文字】

上部に貼っている文字は参考までに載せています。必ずしも使う必要はありません。

※二ヶ月間同じ課題語句で倣書してください。課題倣書の参考例は次号に掲載。ちらし方・選んだ文字は変えても変えなくても可。

淡
 夏
 花
 香
 花
 香



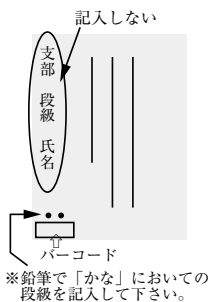
よみおろかなる涙ぞそでに玉
八須王通八支阿春
 はなすわれはせきあへず
支勢那連八
 たぎつせなれば

◎書く時の注意

オートドックスな四行ちらしに
 しました。三行目を主軸にして、
 行間に変化をもたせます。墨つ
 ぎは「せきあへず」

◎出品規定

- ・半紙判料紙に創作(半紙も可)
 - ・雅印又は□□かく
 - ・散らし方は自由
 - ・左下にバーコードシールを貼付
 - ・段級はバーコードシールの上段へ鉛筆で記入
 - ・段級毎の審査及び昇段昇級はありません
- ※色の濃い料紙は使用不可



漢字細字部A

(半紙半分縦書き)

〓 運営総務

新規 規定手本

隋・不詳

美人董氏墓誌銘

(五九七年)

(一) 解説

吉田菁風

墓誌銘は長い間地中に埋蔵されていたので、風雨に侵されず文字の鮮明なものが多く、細字楷書を習うには最適な作品です。



※準初段以上は図版部分全てを2行で臨書。新規1級は1行目のみを臨書。

有九無救於
三無無救於

釈文〓春秋一十有九。農皇上藥。竟無救於秦醫。
読み〓春秋一十有九。農皇の上薬も、竟に秦医を救う無く、

漢字細字部B

(半紙半分縦書き)

〓 運営総務

新規 規定手本

熟語

小泉移山書

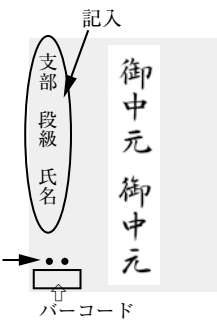


祝入学

祝入学

●課題〓たて24cm よこ4.5cmの罫線を鉛筆で書き、その中に体裁よく収めてください。

- ・左下にバーコードシールを貼付
- ・段級毎の審査及び昇段級はありませ



〔漢字部条幅批評分〕

總務臨書 評 水越 幽峰

幽峰君 緩急自在の線で氣脈一貫の三行書。映桃君 大きな連腕で線よく仰ぐ雄大な作。土龍君 余白が充実に、堅実な筆致が光る。

常任臨書 評 水越 幽峰

天峰君 字の大小が調和し、明るい灌頂記。煌果君 筆力ある書線で揺るぎない李嶠詩。取山君 潤濁の書線が生き氣脈に貫く。書譜。柳峰君 強弱な書線が紙面にくい込む。

理事臨書 評 水越 幽峰

眞子君 波磔の特徴を見事に捉え明るい作。祥苑君 前月に続き快作。流麗で温かい作。加扇君 調りのある線が躍動し波磔も見事。朴谷君 潤い落ち着いた作。逆入稍軽。三峰君 波磔が美しい。「征」一画目一考。翠衣君 抑揚のある作。「衰」横画稍狭。露舟君 瑞々しい線が魅力。稍慎重すぎ。加風君 暢意十分の作。字中に細線も必要。緑和君 丁寧な臨。庭還「最終画を伸ばす。清玄君 氣脈一貫の作。字中の太細が不足。泉流君 書線強く充実の作。後半字粒稍大。

師範臨書 評 水越 幽峰

華月君 書線に弾力あり。余白も美しい作。華徳君 強い線な書線で一貫した灌頂記。聡美君 隸法に忠実な臨。細線も加えたい。竹峰君 流麗な温かい線の作。更に筆力を。越山君 筆線強く規模大。波磔は力みすぎ。

創作・做書 評 吉田 青風

鳩宗君 見事な隸書作。「壺」字確認を。彩水君 規模大きく暢快な筆運びである。蘭惠君 線質良好。文字に大小の変化を。映桃君 暢達した書線で堅実な筆致の作。詠香君 大小、潤濁など大胆な筆致の作。小穂君 古朴な結体の隸書。温雅な作。紫玉君 練磨された書線。下部墨量多し。東月君 懐抱大きく、躍動感に溢れる作。花瑤君 おだやかな筆致の作。墨量に差を。鳳春君 篆書。や、整然さに欠ける。響山君 上部三文字は線質、結体良好なり。西風君 快適な筆運びで線が筆力横溢。天峰君 いつものながく楽しめる作で敬服。晃石君 形式共に充実した隸書作である。香葉君 墨量豊かに、安定感抜群の作なり。麗月君 力強い書線だが、行間に工夫を。志津君 六朝風の楷書。入念慎重な作なり。

準師範 評 大久保樹心

務君 用意可。上下部の大小に差、残念。白雲君 用筆可。結体可。落隸の研究を欲す。芳泉君 用筆可。や、文字が左傾、注意。華瑛君 用筆結体可。落款含め墨量や多。紫月君 線の太細可。全面的に墨量や少。眞子君 線の細可。縦画の安定を欲す。優月君 形意捉え安定。伸びやかさ欲す。湘龍君 穏やかな中に形意安定。表筆欲す。黎山君 用筆可。上部や詰まった。印も。悠山君 用筆可。本文は落款離れした。富美子君 用筆結体可。落款は落款離れした。正美君 線質円く穏やかな作。落款研究を。節代子君 強い線可。横画筆で過大欲す。青風君 丁寧な筆に捉えた作。二行目左過ぎた。

特選 評 片根 菱雨

加那君 整然と調和のとれた字々美しい。美風君 確かな運筆引き締った配字見事。惠風君 調和のとれた各字、一貫した筆致。惠春君 ゆつたり運んだ線が生きて安定作。涼花君 重厚さの強調した。落款が生きた。璃西君 重厚さを強調した。落款が勝った。正泰君 確かな筆致悠然とした運びが見事。紗那君 含墨豊かな中に繊細さも加った。美佐君 原帖の特徴を表現充実にした紙面。鶴舟君 少しパラつきがあるが力強さ魅力。藍天君 各字の特徴を観察し安定した紙面。操天君 形意各線の強さで氣力充実した紙面。文代君 無理なく原帖の姿を捉え氣力充実。

二 評 片根 菱雨

良延君 字形整い堅実に取り組む姿勢佳。弘美君 雄大に伸びやかに原本を捉えた作。文華君 波磔丁寧で力強い筆致で進んだ作。政月君 重厚な各線豊かな構築が魅力の作。香子君 やや小ぶるが堅実な筆致で安定。

初段以下 評 石川 升心

特選 評 石川 升心

惠美子君 筆の開閉がスムーズで力強い作。敏博君 素直な筆使い、線よく爽やかな作。睦男君 温かく清楚な筆致の一行書。睦子君 伸びやかに重厚な一行書。弘子君 丁寧な筆運び、縦長に注意。采里子君 無理のない自然な運筆良。

〔かな部条幅批評分〕

總務臨書 評 原田 弘琴

石丸君 渴筆抱懐大良。先長い連綿急がず。上川君 潤濁自然で筆先効く後半動き小。荒川君 丁寧な臨書。字幅の変化が欲しい。

常任臨書 評 原田 弘琴

松原君 渴筆息長く美しい。墨線後線弱惜。谷君 色の变化で三行書を爽やかに見せた。遠藤君 滲み紙で臨書。独自の精彩を放つ。

理事臨書 評 原田 弘琴

宮崎君 線澄み墨色佳。字間詰まり過ぎ惜。幸福君 軽やかだが強い線や肉厚な線も欲。幸山君 三行構成長。結句やや潤筆部長。井口君 運腕大きく明るい作。行間白活きた。八田君 苦心の三行纏まる。行間白活きた。前島君 真面目な臨書。墨濃すぎて動き硬。林君 縦の動きは流麗ながら左右動かし。佐藤君 筆法良いので力まず腕を動かして。今田君 穏やかな臨書作。大きい字を加欲。横山君 結句が特に美しく。渴筆擦らずに。横木君 一や「横画が効果的。渴筆大きく。鈴木君 書出し大らか。自信持つて最後迄。

師範臨書 評 原田 弘琴

岩田君 曲線活かしおっとりとした作品。鈴井君 意欲の三行書も原帖から遠ざかる。大久保君 動き大きく氣骨ある線で立体感有。南部君 実直な臨書。渴筆部はより大きく。吉野君 素直な線で章法良。線の強さ加欲。

創作・做書 評 杉浦 華柱

齋藤君 紙面に食い込む動い線は変化あり。佐々木君 嫺々たる響き、墨線も効果的。古瀬君 知的センス光る。線強弱心地良い。吉田君 三行作成功。墨色の变化欲しい。大嶋君 抱懐大きく雄大。墨線後や単調。丸田君 線の相豊か。縦画の左傾惜しい。笠原君 前半の強さ魅力有。繊細さも欲し。井出君 七オリーに魅了した散し。パンチ必。長波君 流れる美しき逆形式纏まる。名田君 墨量や多いが逆形式纏まる。為田君 奔放な表現。優美にして品格あり。伊藤君 効果狙って字形を歪めたは残念。八尋君 文字幅変化原則に忠実。疎密も欲し。井上君 文字の大小・連綿に実力を見る。小山君 停滞した箇所が流れを阻害せぬ様。児玉君 行間を作れば大きさが映えよう。

準師範 評 大野 幸子

小倉君 小振りながら原帖を大切に臨す。坂本君 連腕大きく豊かな臨。転折部一考。日江井君 紙背に通る線見事。始筆大切に。蘇木君 快活な書。潤濁の変化有れば尚可。高木君 構成に工夫有。渴筆の筆遣いに注意。岡田君 字幅の捉え方上々。疎密に配慮を。岡中君 字幅の捉え方上々。疎密に配慮を。高森君 強弱な線で表現。行の揺れは必須。Aクラス

井邊君 伸びやかな臨。始筆の細さ目立つ。井上君 潤濁美しい臨。空間の抱き方一考。今泉君 真面目に臨す。曲線表現に重視を。倉品君 温かみのある書。行間は大切に。引戸君 多彩な線に魅力有。字幅は大切に。櫻井君 書線に生氣有。二行目は左過ぎた。多田君 温雅な筆致。細やかな臨書を望む。

三 評 田原 芳琴

中野君 四行書を巧みに表現文字の組合せ佳。石田君 爽やかに全体を一貫して書かれ佳。佐藤君 原帖を忠実に表現しパラッとした。佐藤君 澄んだ運筆に墨色表現し。終筆強く。山口君 自然の流れの中に原帖の特長見れる。尾崎君 濃墨で大胆な運筆がリズムを生む。Aクラス

二 評 田原 芳琴

佐藤君 紙面の余白充分。全体の気配り佳。井出君 小粒ながら清々しき感じ品格あり。對馬君 線の細さに潤濁の変化が美しい作。

初段以下 評 高宮 陽子

特選 評 高宮 陽子

吉本君 墨色少し濃いが一気に進めた。平野君 大きさはないが流れが美しい。金子君 遊が線がながいながい。森田君 墨色濃過ぎるが力強く抜け目ない。近藤君 流れが美しいが、線の強弱に欠ける。

初段以下 評 高宮 陽子

吉本君 墨色少し濃いが一気に進めた。平野君 大きさはないが流れが美しい。金子君 遊が線がながいながい。森田君 墨色濃過ぎるが力強く抜け目ない。近藤君 流れが美しいが、線の強弱に欠ける。

※雅号の届けがないと、名前で掲載されます。届出をお願いいたします。

※かな部で、落款・印のない作はCクラスとなります。

総・曹全碑

懿明后徳義章貢王庭征
鬼方威布烈安殊宐

幽峰・島崎 秀葉 〓 しなやかな中に、キリツとした骨力を蔵し、暢意も十分。

総・曹全碑

貢王庭征鬼方

石蘭・小作 塘石 〓 無理のない筆致で波磔も見事に表現した。温かさある作。

常・争座位稿

行百里者半九十と言
晚節未晚之難也

玉堂・高橋 玉堂 〓 練度ある書線で原帖の筆意を十分に捉え、余白充実の作。

常・曹全碑

其辭曰懿明后徳義章貢
王庭征鬼方威布烈

蘭芳・小助川蘭芳 〓 着実な運筆で一貫し、字形、用筆ともに捉えて明るい作。

常・曹全碑

貢王庭征鬼方威布烈安
殊宐還陟旅臨槐里

古谿・木下 紅蘭 〓 軽重・太細のリズムある運筆で暢意十分。波磔も美しい。

常・曹全碑

懿明后徳義章

関石・駒形 晃石 〓 字形安定し、規模の大きい実に伸びやかな書線の一行書。

理・曹全碑

貢王庭征鬼方威布烈安
殊宐還陟旅臨槐里

長友・二川 加隆 〓 充実した余白が実に美しい。波磔も曹全の特徴を捉えた。

理・曹全碑

威布烈安殊宐還陟旅臨
槐里盛孔懷赴邑紀

柝堀・斉藤 文恵 〓 軽量太細を見事に表現し流麗な趣がある。伸びやかな作。

漢字総務・常任・理事・師範臨書条幅作品(2)

評 水越幽峰

理・曹全碑

還 陟 林 臨 槐 里 感 孔 懷
赴 壘 紀 嗟 送 賊

芳池・山本 照葉 II 力感のある暢意十分な運筆で、字形安定し、揺るぎない作。

理・曹全碑

其 辭 曰 懿 明 后 德 義 章 貢 王 庭
非 鬼 方 威 布 烈 安 殊 疋 還 陟 旅
臨 槐 里 感 孔 懷 赴 壘 紀

蘭雪・中仙道花洪 II 三行を明るく纏めた。線充実し揺るぎなく、暢意も十分。

理・曹全碑

石 紀 功 其 辭 曰 懿 明 后 德 義
章 貢 王 庭 非 鬼 方 威 布 烈

久能・久能 廣洋 II 自然な運用筆で明るく情懷豊か。文意は(刊)石と続く。

理・曹全碑

還 陟 林 臨 槐 里 感 孔 懷
赴 壘 紀 嗟 送 賊

旭川・今田 彩水 II 丁寧な運筆し字形を捉えた。字中に太細の線を入れたい。

師・曹全碑

德 義 章 貢 王 庭 非 鬼 方
威 布 烈 安 殊 疋

春峰・佐藤 玲花 II 隸法に忠実な運用筆の揺るぎない作。書線温かく規模大。

師・曹全碑

貢 王 庭 非 鬼 方 威 布 烈 安
殊 疋 還 陟 旅 臨 槐 里

広洋・下森 昭峰 II 運腕大きくリズムにのり、抑揚ある運筆で情懷豊かな作。

師・曹全碑

貢 王 庭 非 鬼 方 威 布 烈

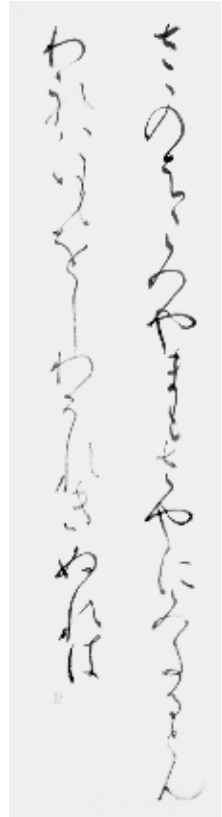
松華・櫻井 浩壹 II 実に伸びやかに悠然と筆を運び、瑞々しい線で温かい作。

師・曹全碑

赴 壘 紀 嗟 送 賊

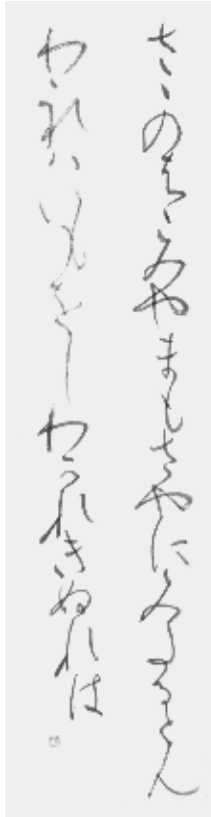
春峰・村上絵里子 II 暢達した書線で躍動感に満ちる。細線加えれば更に良い。

総・金沢本万葉集



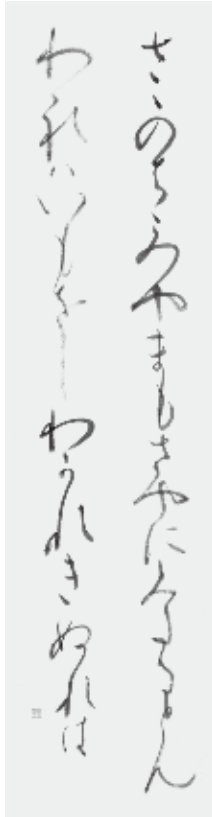
松桜・土屋 節子 二行の呼応美しく白冴える。気負わず淡々と書き上げた。

常・金沢本万葉集



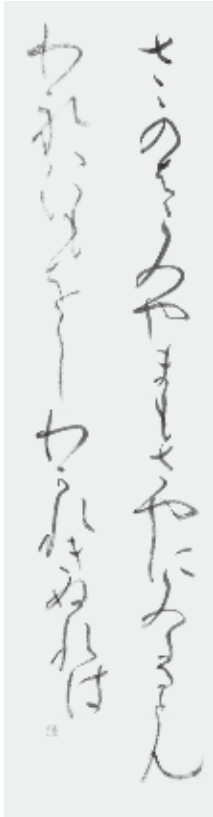
碧流・樫野 陽子 小気味よいリズムで書き進めた。渴筆深く奥行を表現。

常・金沢本万葉集



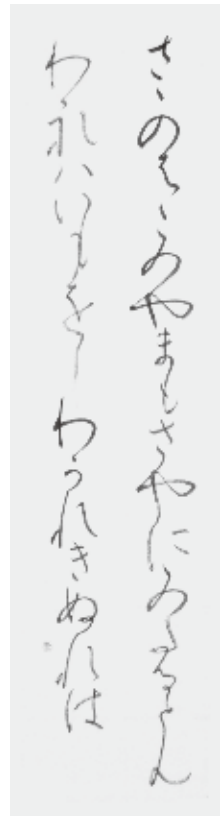
心堂・河口 澄翠 見どころを心得た字の大小、線筆の多様さに技を見る。

理・金沢本万葉集



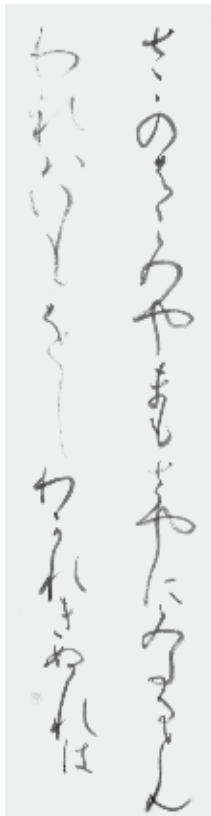
日文・長澤 啓子 圧倒的な筆力。ダイナミックさと繊細さを合わせ持つ。

理・金沢本万葉集



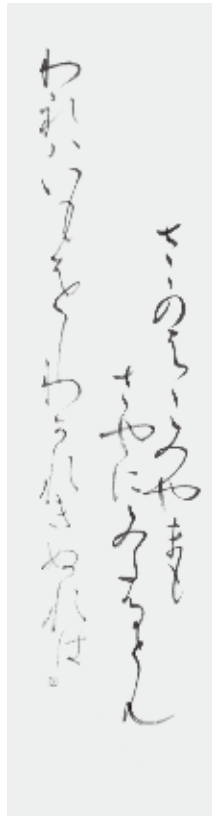
静翠・佐野 翠玲 細身ながら澄んだ線が美しい。渴筆部で筆を開きたい。

理・金沢本万葉集



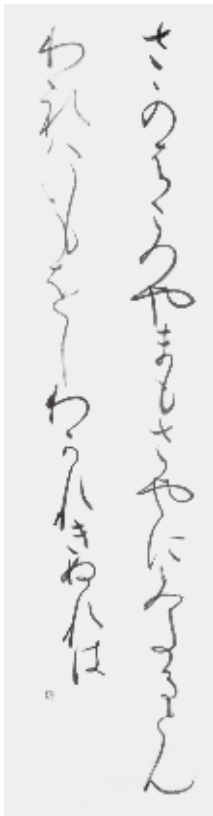
華桂・鈴木 夏子 大きなうねりを感じる行構成。軽やかに纏めた結句憎い。

師・金沢本万葉集



泰成・黒澤 芳澗 美しい三行構成。二行目後半で墨を継ぎ、景色を整えた。

師・金沢本万葉集



春光・内山 結月 澄んだ線で凛とした佇まい。筆の開閉は今後の課題。

漢字創作・做書部条幅作品

評 吉田菁風

養真衡茅下

古谿・木下 紅蘭 隸書に正攻法で向き合い、字形、用筆共完成度の高い作。

日本晁卿辞帝都征帆一片遠蓬壺

鮎川・桑島 令艸 遅滞することなく暢びやかな書線で一貫した堅実な作。

養真衡茅下

双葉・大山 春道 李嶠詩の用筆に習熟し、躍動感に溢れた迫力ある作。

養真衡茅下

良帆・河本 良帆 やや粗い書線だがそれ故、活気ある豪放な作となった。

日本晁卿辞帝都征帆一片遠蓬壺

映雨・鈴木 映豊 古典を忠実に学ぶ姿勢が伺える、真率な作である。

養真衡茅下

谷山・河端 越山 顔法の筆意で取り組んだ重厚にして剛放な作である。

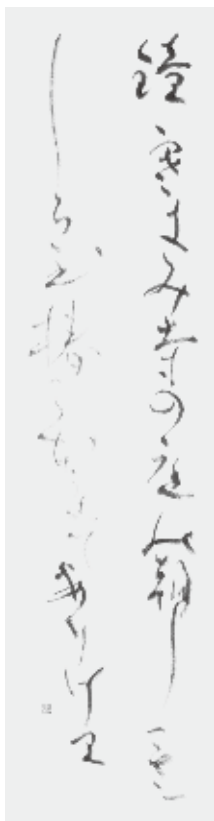
日本晁卿辞帝都征帆一片遠蓬壺

春日・春原 祥華 甲骨文に果敢に挑戦し、刀意を表現した清澄な作である。

養真衡茅下

ベル・布川 知柳 味わい深い線で満酒にまとめ、実力を大いに發揮された。

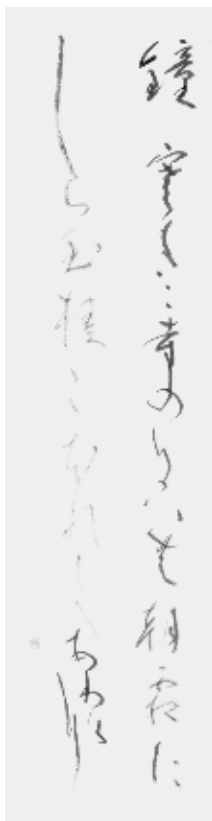
かな創作・做書部条幅作品



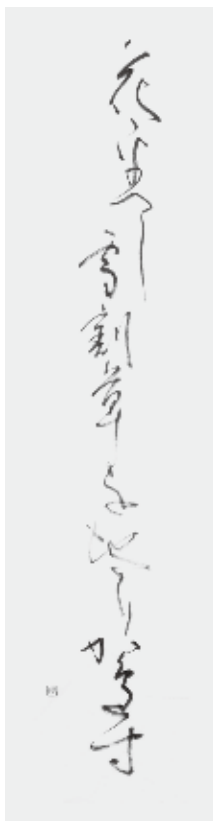
花林・望月 典子Ⅱ典雅な造形、多彩な墨色の变化、王朝美を如何なく發揮。



若二・久保 蕙暉Ⅱ変則的な構成ながら理に叶った複雑な動き、新味に喝采。

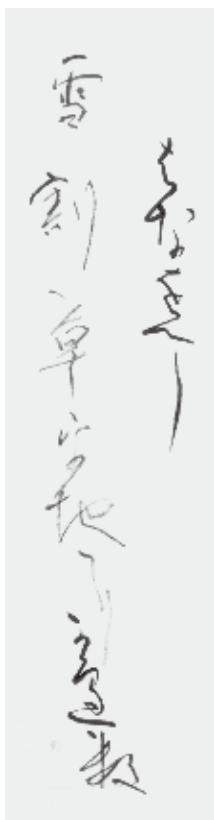


呉竹・堀江 雅子Ⅱ真面目な学書の賜。暢達した呼吸の渴達見事。墨継効果的。

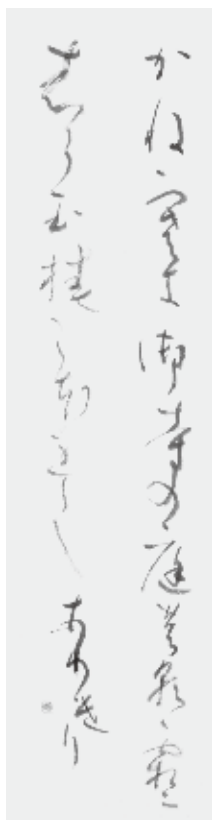


春林・吉田 敦子Ⅱ一直線上を縦に流す斬新な発想。字形・字幅で変相す。

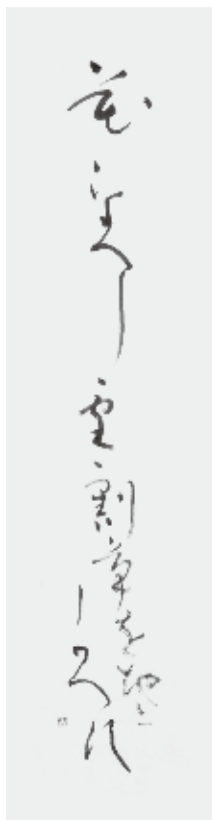
評 杉浦華桂



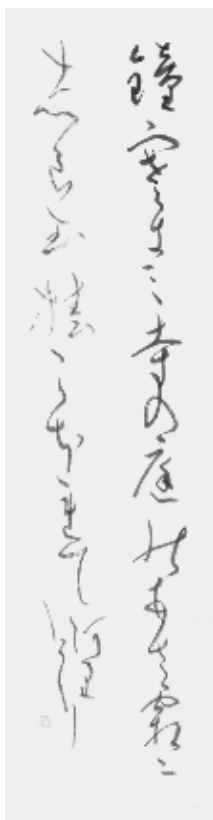
八雲・竹内 煌雪Ⅱ用筆の変化多彩で立体的な線を出す。強い墨継魅力的。



更埴・中村 彩幸Ⅱ大らかな運筆で仮名の王道を歩み、心温かい作品となる。



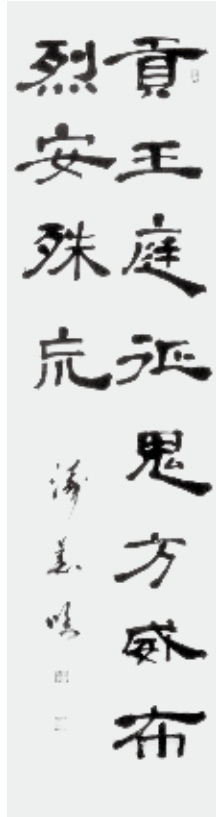
手代・中牟田柳花Ⅱ疎密・字間を考慮して左右に振る構成は努力の跡あり。



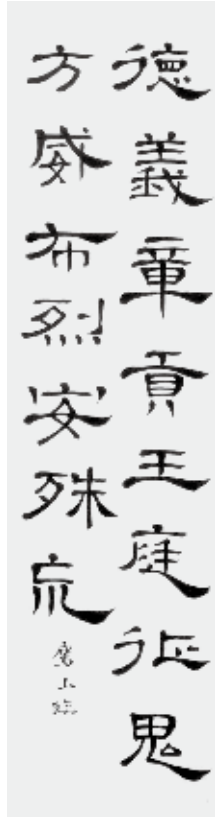
碧流・鈴木 久子Ⅱ所々に懐の大きい字を配し安定す。結句の組立て佳。

準師範漢字部条幅優秀作品

評 大久保樹心



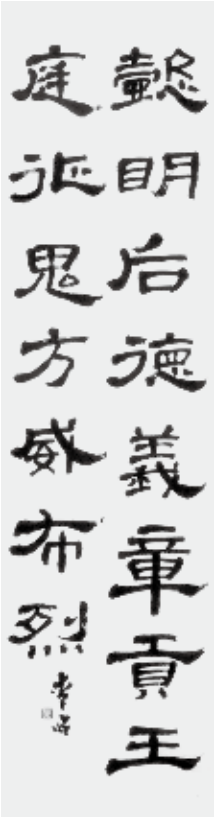
川口・分須 瀟春||文字数少なるも線が余白に響き力あり。波磔の伸び欲す。



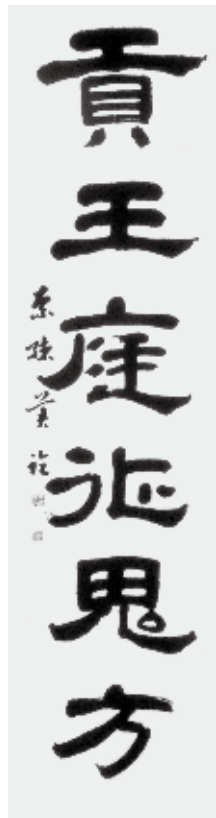
楽心・鈴木 鷹山||線の太細をよく表現し明るい作となる。渴筆表現研究を。



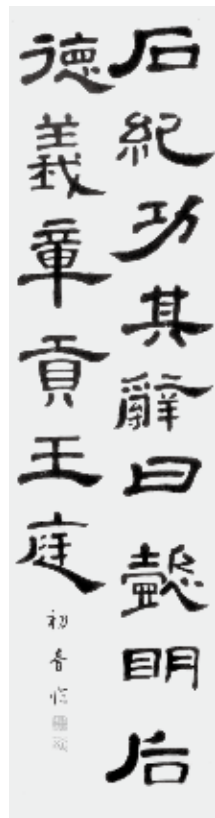
晨洋・細井 愛桜||大胆暢達した二行作品。落款も可。潤渴変化あればなお。



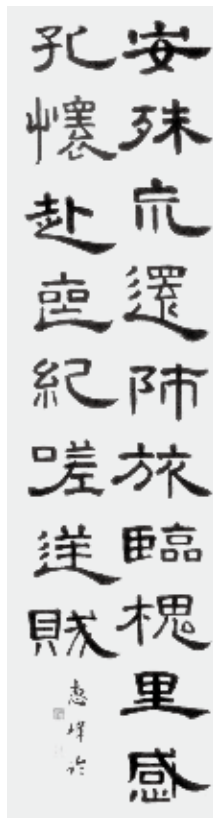
菁松・福元 愛||含蓄ある線に魅力大。上部やや小さいのが惜まれる。



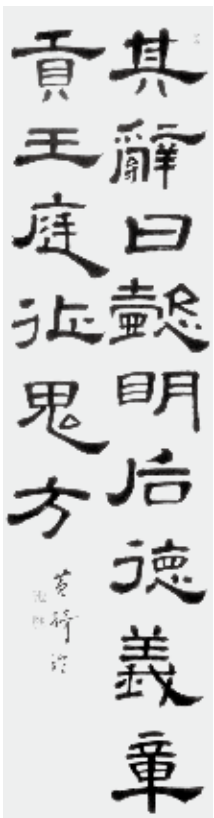
錦嶺・浅香奈緒美||大胆重厚な一行作品。落款含めやや重い。渴筆の表現も。



江月・遠藤 初音||曹全碑の形意をていねいに捉え好感。上部やや苦しい。



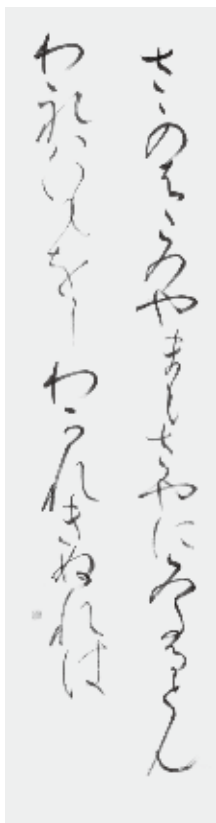
美浜・白相 惠峰||曹全の形意をよく捉え落款含め収まり良し。渴筆表現も。



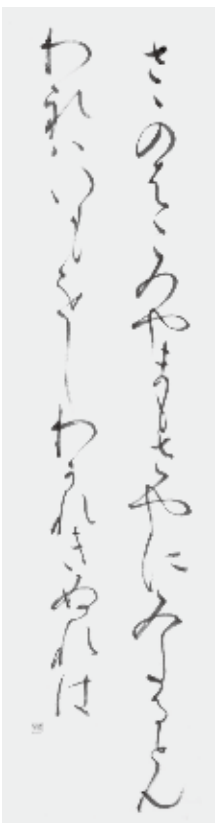
北臨・砥石 黄綺||伸びやかな用筆と確かな結体で好感。印は落款の下で可。

準師範かな部条幅優秀作品

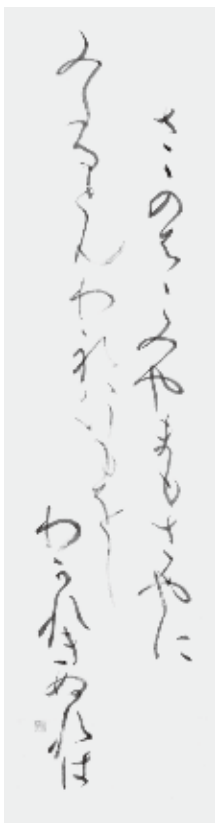
評 大野幸子



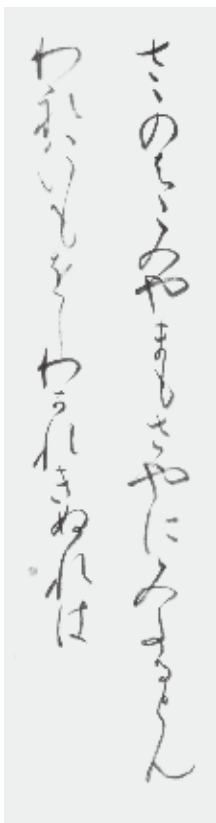
書芸・小林 彩水Ⅱ暢達した線質で潤渇そして墨色も美しく豊かな表現秀逸。



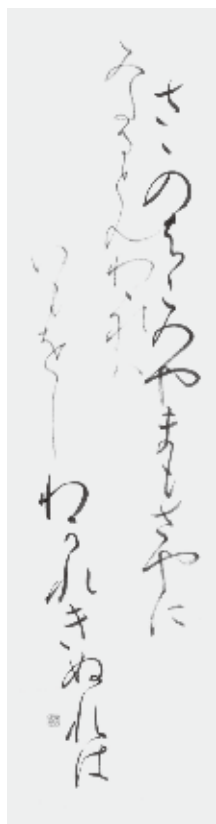
春光・斎藤 俊子Ⅱ原帖に即したリズム感あり。流麗な線にも魅了された。



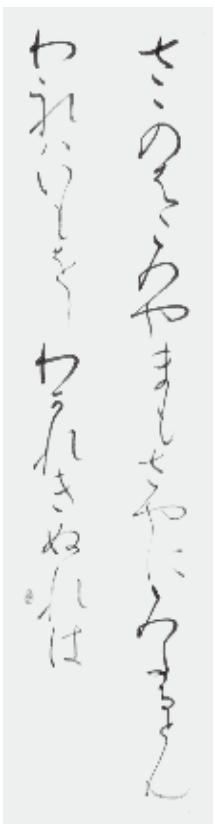
桂浜・松谷 美紗Ⅱ古筆の趣きを損なわず三行構成に纏めた。墨色も美しい。



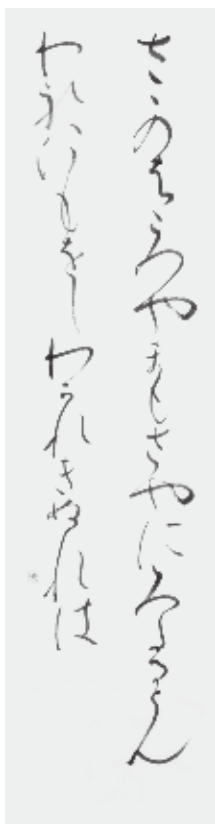
静風・八島 和子Ⅱ筆勢豊かな臨。墨色の変化は殊に自然体で、充実の作。



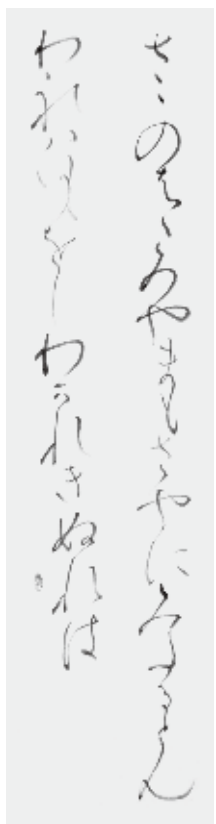
にれ・武森 清香Ⅱ淡々と書かれた中に細やかな配慮が随所に見てとれる作。



黎明・坂本 葉月Ⅱ丁寧な臨。全体に細い線が目立つので渴筆の筆遣い一考。



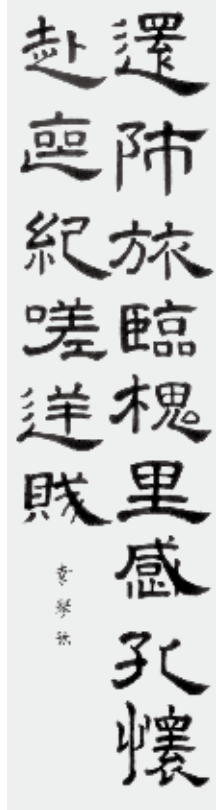
相墨・広木 鶴青Ⅱ軽快なタッチは魅力的。ただし連綿線を浮かせ過ぎない。



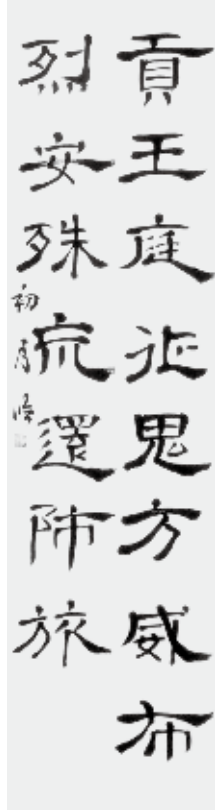
函館・川島 周子Ⅱ線の表現が多彩で美しい。文字の大小の変化が欲しい。

三段漢字部条幅優秀作品

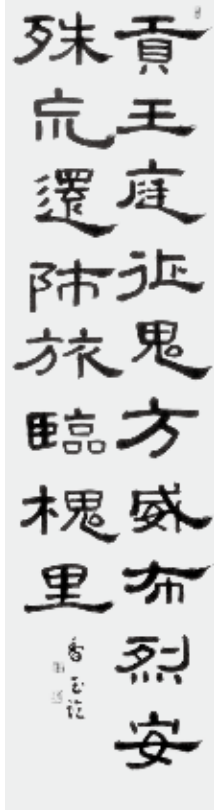
評 片根 萼雨



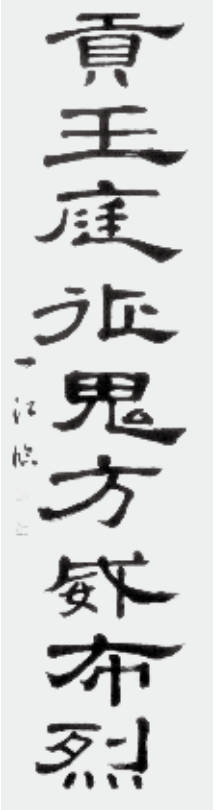
池翠・坂本 幸琴 隸の命波磔安定、堅実な筆致で原帖を捉えた。落款強く。



水月・小幡 初月 前面に出でくる緊張感、繊細さと淀みな美しさを表現。



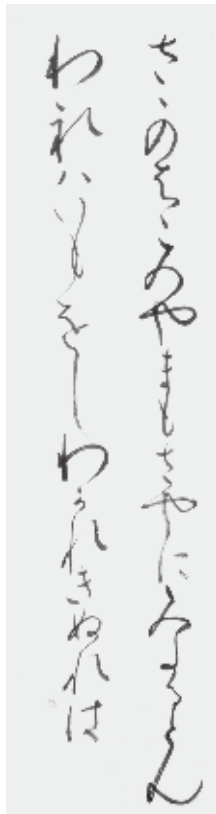
啓玉・鈴木 香玉 横画の延び静と動、迷いのない運筆で原帖を表現した作。



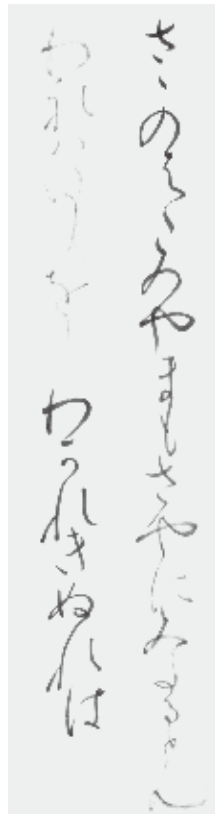
雄山・荒川 一江 規模大きく内蔵された鋒先きを生かし曹全碑に迫る。

三段かな部条幅優秀作品

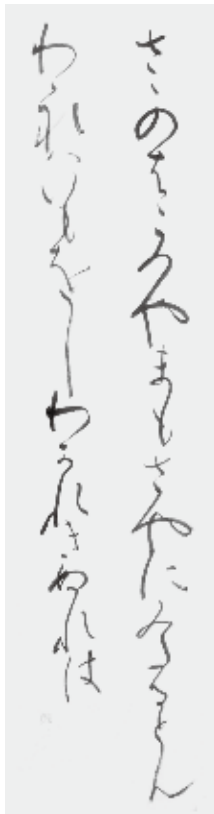
評 田原 芳琴



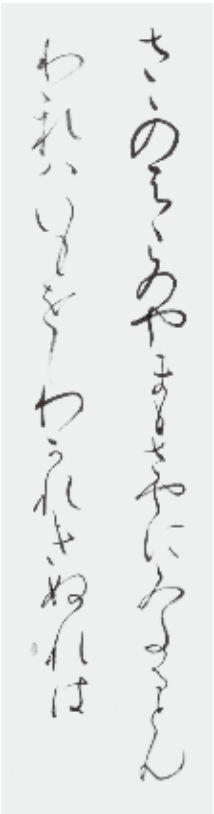
日好・上野 蒼佳 筆力充分にして紙面のとらえ方佳。二行目書き出し渴筆に。



天馬・向山智恵子 丁寧な運筆による全体の調和美しい。原帖の理解を見る。



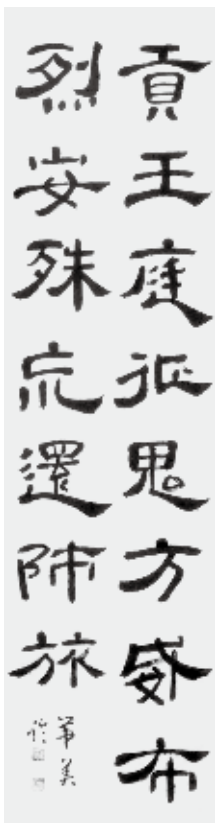
春光・小久保幸子 堂々とした運筆に紙面のとらえ方巧み。行間の響き美しい。



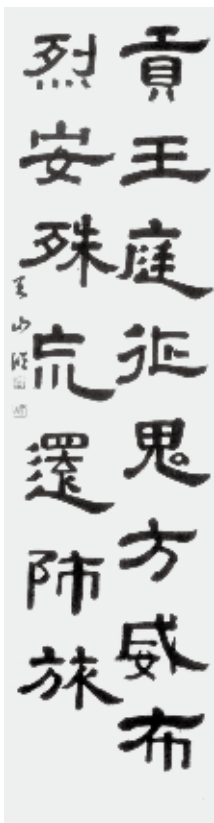
子葉・定國喜巳子 真面目な作に好感。二行目終筆にむけて右側に寄れば尚佳。

二段漢字部条幅優秀作品

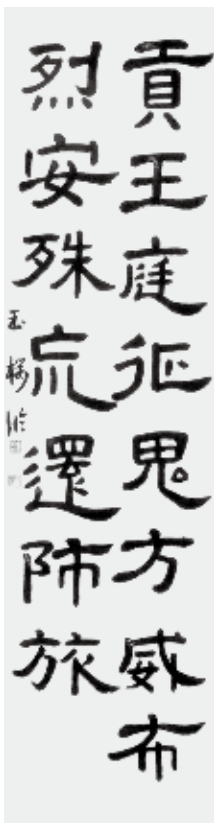
評 片根 菱雨



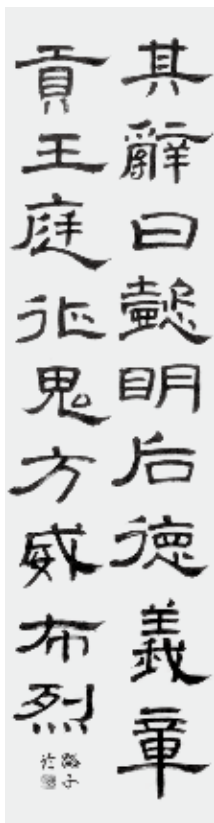
帶泉・南 帶美 細く伸びのある線。ゆるぎない線。程良い空間が生きた。



玉堂・田中 天山 墨量豊かで重量感あり、波傑も慎重丁寧に書き進んだ。



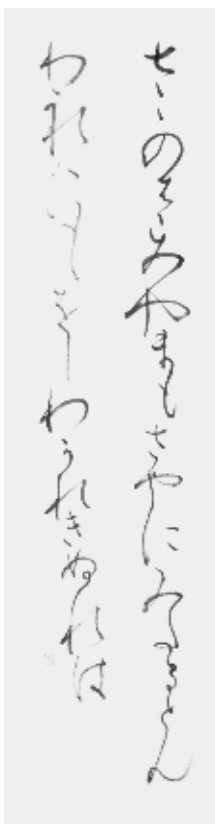
玉堂・土家 王櫻 細線を基盤にゆったりと明るい紙面、首尾一貫の作。



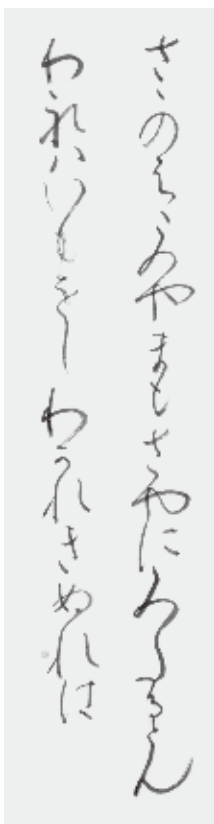
つく・平本 路子 ゆるぎない筆庄、潤筆の深さを生かし無駄なく充実の作。

二段かな部条幅優秀作品

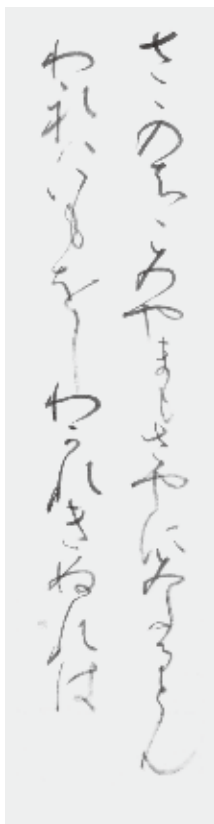
評 田原 芳琴



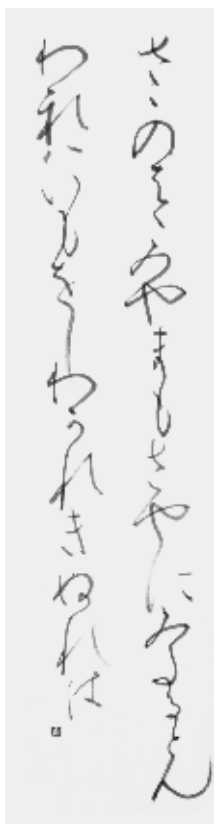
さち・山浦 節子 紙面に展開するリズムは美しい流れを表現。原帖の理解佳。



厚木・若松 弥泉 伸びやかでスケールの大きさが力強く見事な作品となる。

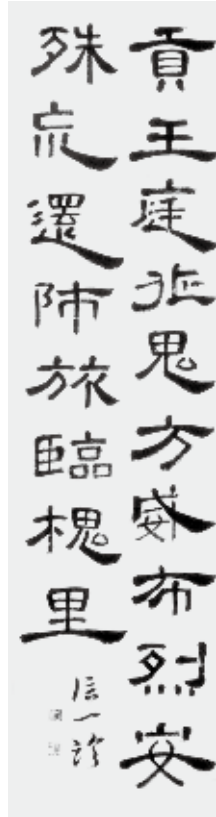


東急・中村 芳子 運筆の速度が程良いリズムを生みさわやか。線質も佳。

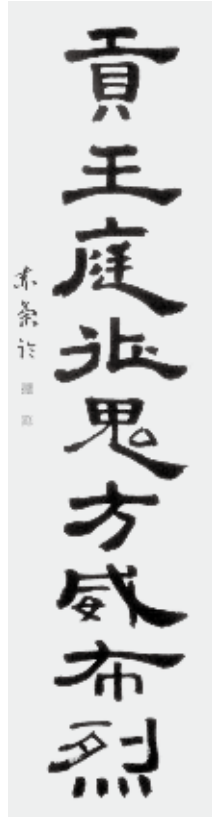


白富・白井千鶴子 気脈の通った練度の高い作、二行目に渴筆が入れば尚見事。

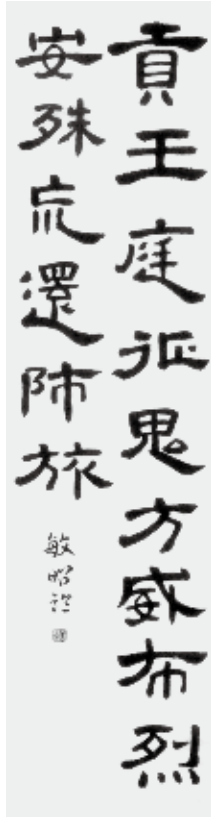
初段以下漢字部条幅優秀作品 評 石川 升心



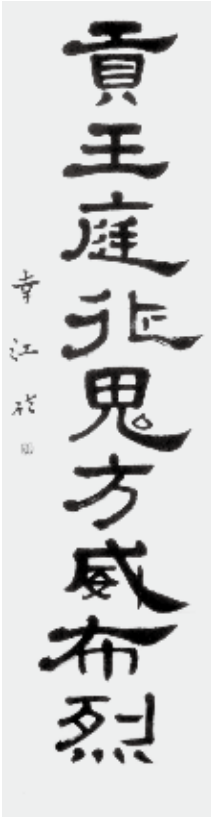
八淳・小山 信一 伸びやかな線、太細の変化で充実の作、落款やや大きい。



北臨・荻野 赤蘭 骨格が確か、筆の弾力を生かし、筆力ある堂々の一行書。

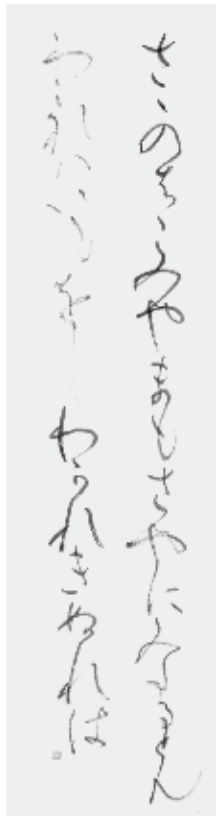


良尚・奥井 敏昭 堅実な筆致、余白を生かした安定感ある作。

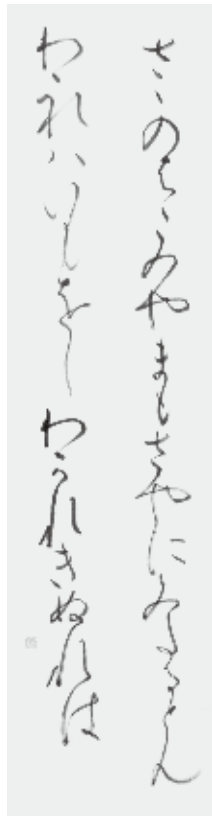


樹心・飯島 幸江 筆勢豊か規模大きく潤渾の変化により趣ある作。

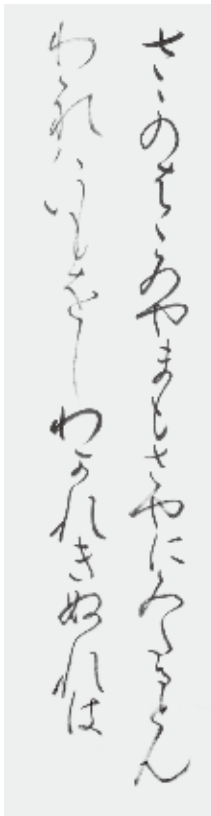
初段以下かな部条幅優秀作品 評 高宮 陽子



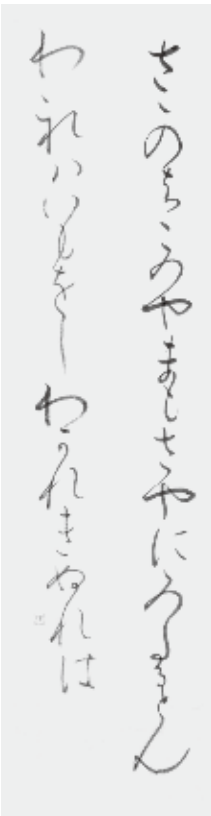
桂浜・平塚 容子 流れ爽やかで線筆も伸びがあって美しくよくまとめた。



春光・森 香 お手本に忠実で流れが美しい、線も滞りなく力あり。



春光・堀 愛美 字の大小が整っていないが、のびがあつて明るい。



蘭雪・櫻井 妙光 少し小粒だが、流れが美しく、最後まで勢いあり。



評 内田 泊雨

溪鶴君 || リズミカルな連筆張りのある線で明るい作
 秀園君 || 運腕大きく思いきりよく紙面を走る。
 綱翠君 || 張りのある線、堅実に運び字形も安定する。
 優泉君 || 厚みのある豊かな線、雄然と運び堂々の作。
 玉堂君 || 骨力ある線で筆路明決テンポ良く進む。
 茲華君 || 各線穂先良く活躍し、引き締まった端正な作。
 翠香君 || 柔らかな書線、自然に流れ堅実にまとまる。
 静秋君 || 力まず素直な線あふなげなく確実に運んだ。
 花瑤君 || ふくよかな線、気脈明快に運び温雅な作。
 真理君 || 穂先の利いた線、歯切れよいリズムで進む。
 恵咲君 || 原帖をよく捉えた伸びやかな線が目引いた。
 紫月君 || 安定した字形、骨格がしっかりした姿が魅力。
 真喜君 || 力みのない自然な運筆、落款に一考あり。
 多加代君 || 原帖をよく観察し筆の動き、形良く捉える。
 彩陽君 || 力強い筆致、動きのある点画が魅力。
 詠峰君 || 沈着な運び、重厚感ある力強い作。



評 内田 泊雨

幸泉君の筆の弾性を生かし抑揚ある運び迫力を生む。春道君の一字一字ゆっくり確実に運んだ線が一貫。功石君のきりりと引き締まった書線、迷いなく進み。翠玉君の軽快で冴えた筆致。小気味よい運筆に好感。深恵君の筆の開閉が効果的。作品に変化をもたらす。恵翠君の軽やかに筆よく動きすつきりと爽やかな作。直美君の切れ味よい線が紙面にくい込み力強い作。晃代君のなめらかな線、ゆつたりと進み穏やかな作。

評 山口 蒼雨

操天君の筆先が小気味よく動いて見事な作となる。紗那君の大きな筆の動きが広く爽やかな世界を作る。良延君の丁寧で正確な運筆。穏やかであたたい。弘美君の運筆のスピード、リズム感ともに良い。慶子君の小ぶりに作りながら迫力を強く感じる作。日和君の大きな流れの中で迷いのない線が美しい。宏君の原帖よく理解し、自信を持って筆を運んだ。夏子君の墨量と運筆のスピードがよく合って深い線。



評 山口 萱雨

佐江子君 紙ににくい込んでいく強い線。迫力の作。とり子君 速度ある運筆ながら迷いなく堂々たる良作。麗 君 結体を締めて作り紙面全体をまとも上げた。俤江君 筆の動き大きく筆先もよく効いて美しい。恵美子君 運筆の緩急が心地良く気宇壮大な作となる。美希君 多目の墨量を見事に駆使して力強く美しい。照子君 優しく穏やかな動きと流れとが魅力的。悦舟君 筆圧の強弱をたくみに使って堂々たる作。貴之君 正確な筆使いが安定した爽やかな作品。由登君 筆捌きが見事で筆先が紙にくい込むようだ。蘭泉君 原帖の理解が深く自信のある運筆。花連君 筆圧強く迫力の作。紙面構成にひと工夫を。美恵子君 原帖の深い運筆と優しい世界を表現出来た。孝子君 原帖の雰囲気を見事にとらえ雄大に表現す。風喜君 筆捌き見事。優しさと穏やかな溢れる作。良志君 やわらかな線質ながら骨力もある快作。



評 片根 菱雨

虹鮮君 潤い豊かで明快な運び、力みなく伸びやか。華昌君 安定した字形、骨格しっかりとした姿魅力。敦子君 各線揺ぎなく字形も整い二字美しい紙面。水煉君 隸の意各線に表現。淀みない姿に惹かれる作。桜花君 伸びやかに雄々と隸の姿無理なく表現した。彩陽君 細い中にも強さを感ずる堅実な書線明るい。啓子君 原帖の姿よく捉え伸びやかな線が目を引く。祥園君 無理なく素直に紙面に配した二字が爽やか。菊華君 味わい、重厚な線の二字に対し落款弱い。万貴君 豊かな各線、余白も生きた隸の姿美しい。鶴泉君 墨量を生かし悠然とした運筆で堂々の作。東朋君 濃墨で各線重厚に運び実に見応えのある作。千翠君 軽快な運び原帖の趣きを表現し確かさ光る。愛 君 骨力と弾力共に表現。強い線が生きた紙面。魏経君 個性豊かな線で曹全に取組んだ異彩な作。鶴千君 素直な各線隸の姿無理なく雄大に書き好感。



評 片根 苳雨

尚子君 〓 やや力が入っているが慎重さが伝わる作。
 美佐君 〓 隸の運びの中にリズムを感じる線が新鮮。
 浩子君 〓 ゆっくり運んだ各線着実さで一貫した作。
 美雲君 〓 墨量豊かで線の深さ遅速も感じる二字充実。
 帯美君 〓 豪快な二字は抜群更に落款にその力を。
 梢月君 〓 各線揺ぎない運び堅実な取り組みで安定作。
 裕美子君 〓 原帖の趣きを暢びやかに表現、確かさあり。
 和子君 〓 長鋒を生かし隸に取り組み繊細さも表現。

評 片岡 苑雨

京花君 〓 結体引き締り波磔延びやかで秀麗見事な作。
 宏章君 〓 扁平、流れ悠然として、潤いがある快作。
 節子君 〓 一実一画、気持を込め優美な線を表現した。
 津美子君 〓 線の太細の用筆、良く特徴を描字した作。
 琉唯君 〓 やや厚みのある沈着したしなやかな線良好。
 帆夏君 〓 大らかで伸々と原帖の筆意を良く捉えた。
 康子君 〓 少し硬さがあるが筆勢、リズム上手に表現。
 園子君 〓 曲線と直線の微妙なバランス練度が高い作。

一般部かな優秀作品(6)



評 飯島 香苑

山村君⇨原帖の雰囲気や良く捉え、紙面が充実した。太田君⇨丁寧な運筆で、細部まで配慮され雅味有り。遠藤君⇨伸びやかな書線で、リズム良く、連綿絶妙。勝田君⇨墨量程良く、転折自然に表現され見事。井口君⇨漢字、かな共に精妙に臨書され、格調有り。前島君⇨線の太細を確かな観察眼で原帖を再現する。中原君⇨鋒先の利いた線で爽やかで清楚な作品。藤田君⇨流れの良い書き振りと墨色が適合している。須藤君⇨繊細な表現力で、古筆の美しさ生まれる。宮川君⇨力強くしつかりとした線質で見応え有り。打良木君⇨細やかで鋭い線があり、字形も美しい作。山内君⇨確かな運筆で、気脈も通り墨色美あり。丸山君⇨墨量や、多いが、大らかな筆線は魅力有り。

評 満田 裕子

中村君⇨伸びやかな線で、紙面が明るい佳作。広木君⇨やや墨量が多いがリズムに乗った運筆。野原君⇨伸びやかな線が魅力。少々字粒大きい。

一般部かな優秀作品(7)



評 満田 裕子
遠藤君 〓 穏やかな線で真摯な書き振りに好感。

見並君 〓 しつかりと書かれたかなが佳い。

永井君 〓 漢字かなのバランス良い。丁寧な臨書。

評 松平 光風

成田君 〓 丁寧で伸びやかな線で明るい雰囲気な優作。

林君 〓 リズミカルな線で空間も美しくまとめ秀作。

渡邊君 〓 切れのある確かな線で美しくまとめあげた。

宮坂君 〓 大らかな線で紙面を豊かに魅せた快い作。

穴倉君 〓 線に深みありバランスもよく美しい。

高田君 〓 真面目な勉強の姿勢が伺える好ましい作。

山岸君 〓 文字の大小上手く表わし後半更に充実した。

江浦君 〓 ゆつたりとした運筆でしかも鋭く見事な作。

樋口君 〓 豊かな線で大らか、運動大きく心地よい作。

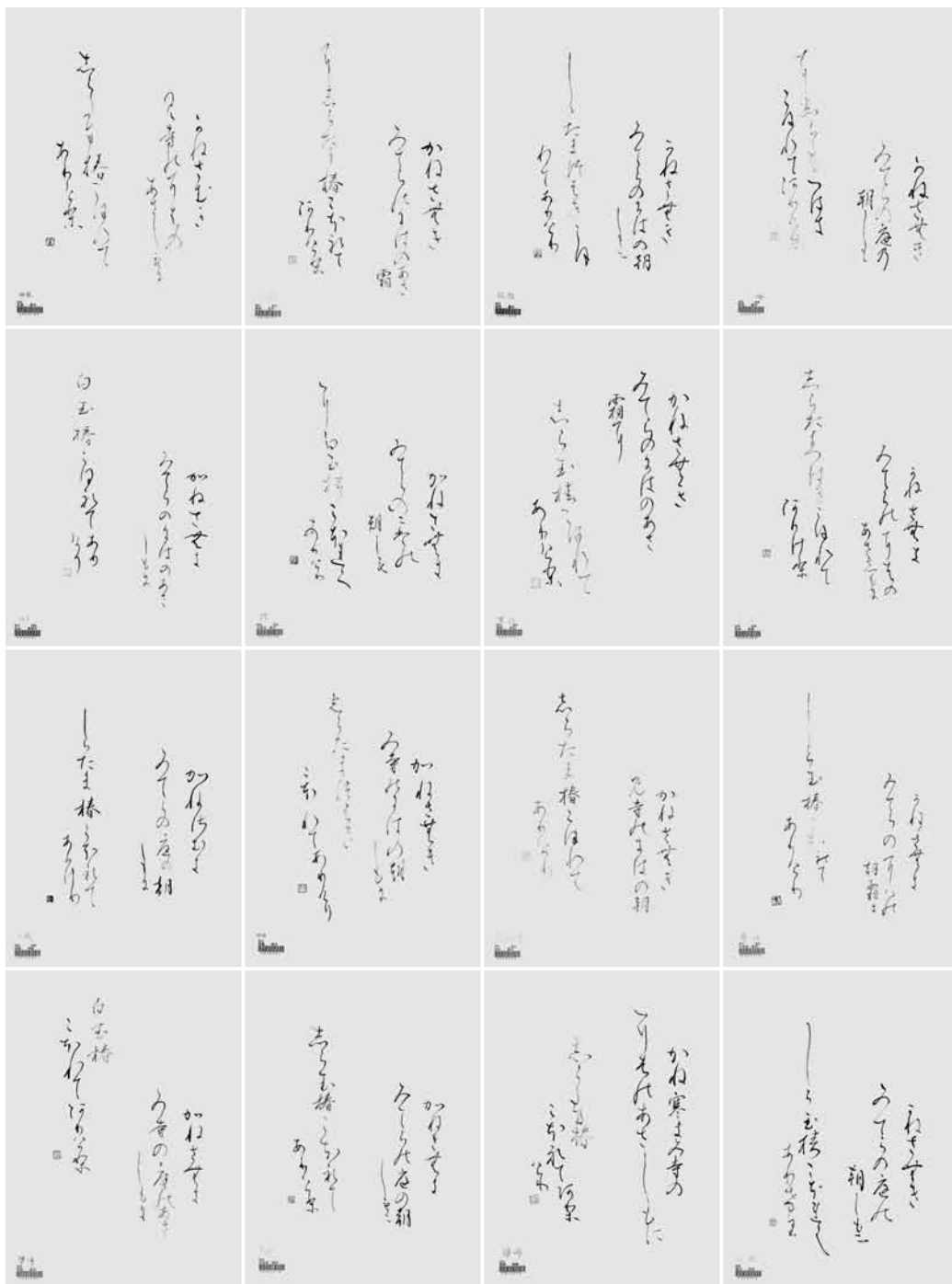
服部君 〓 運筆の速度の差もあり変化のある線が見事。

永島君 〓 軽やかに筆を選びかなの美しさ表現した作。

長瀬君 〓 手本を良く習いしつかりした筆運びに好感。

古谷君 〓 転折正しく、ふくよかな線で温かい作品。

一般部かな倣書優秀作品(8)

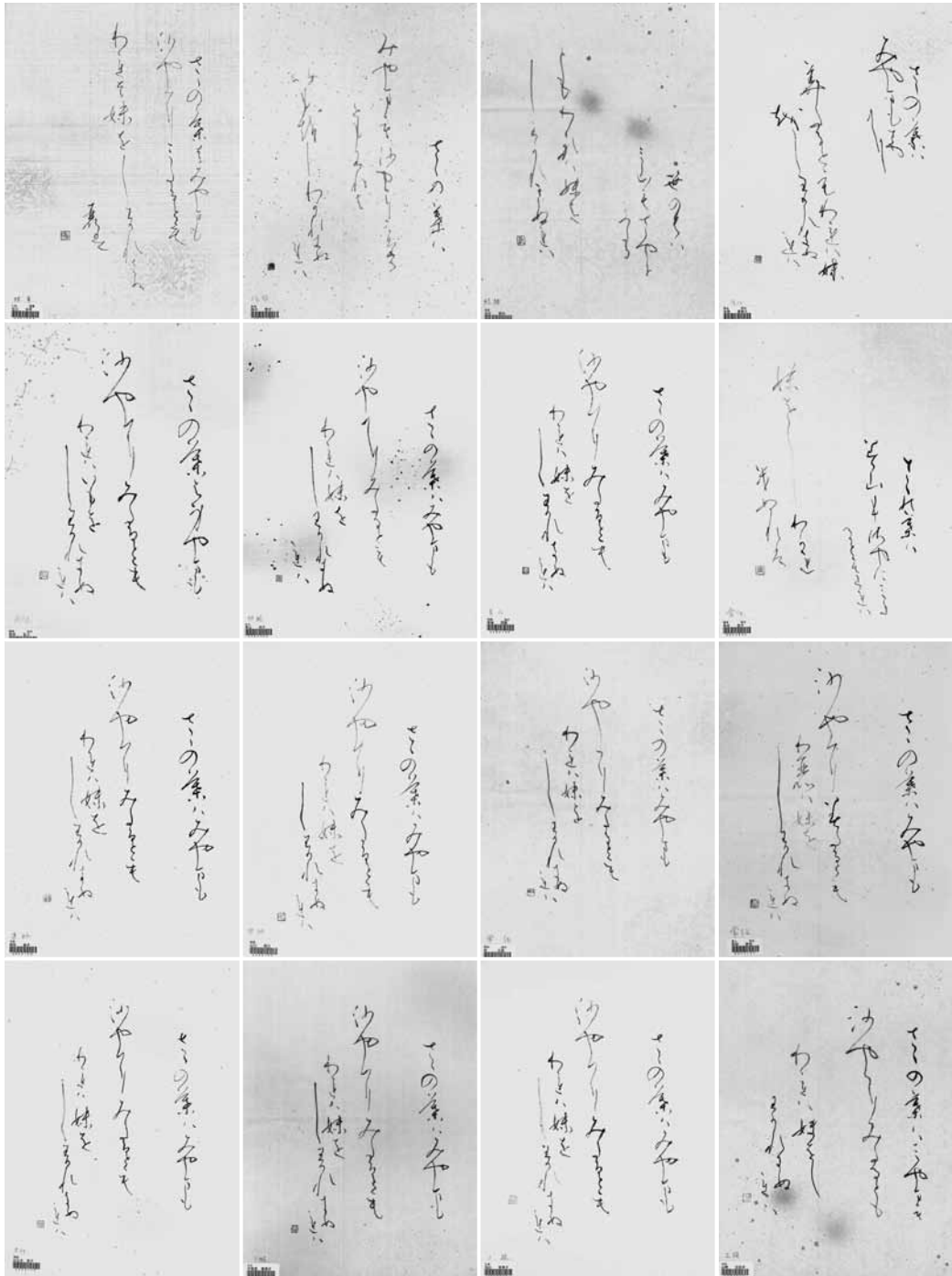


評 飯島 香苑

新城君 墨の潤濁をバランス良く散らし書きされた。為田君 繊細な書き振りで濁筆も美しく表現。薦田君 大らかな運筆は、しなやかな美しさあり。古瀬君 墨色の変化と流麗な筆運びで清々しい作品。松本君 穏やかな筆致で、温雅な作。墨量も佳。福田君 自然の流れの中にかなの美を表現。丸清水君 雅味有る線質と程よい散らしで明るい紙面。永山君 迷いのない運筆で連綿と潤濁が融合する。中牟田君 爽やかな線質が作品を引き立て見事。川口君 手馴れた書き振りでさわやか、行の傾き欲す。斎藤君 淡墨ながら、力強く行の響き合いが見事。遠藤君 真面目で素直な線質。濁筆があれば更に佳。堀口君 大らかな筆線で、呼吸長く安定感あり。高橋君 暢びやかな線で、紙面を明るく魅せた。日江井君 堂々とした深みのある線は良。潤濁の変化を村田君 多彩な線の表現は作品を豊かにできた。

(全書芸 '23.4月号)

一般部かな創作料紙優秀作品(9)



評 満田 裕子

佐藤君＝穂先のきいた線で美しくまとめた佳作。
 為田君＝練れた温かい線筆で格調高くまとめた。
 鈴木君＝穏やかな書き振りが品位を感じさせる。
 吉川君＝美しい線が作品に清涼感を出している。
 長田君＝散らし書きが工夫されて、線も味わいあり。
 恵美君＝墨色の変化で作品に奥行きを作った。
 青山君＝すっきりした線でそつなくまとまった。
 薦田君＝練筆の美しさ、流れのリズムが佳。
 高柳君＝運筆が軽やかで伸びやかな佳作。
 林君＝全体に小ぶりだが澄んだ線でもとめた。
 山口君＝素直な運筆で行間のとらえ方が佳い。
 岡田君＝しつかりとした運筆でまとまりが佳い。
 山崎君＝大らかな筆線でゆつたりとまとめた。
 向山君＝墨色の変化と伸びやかな線でもとめた。
 不死原君＝歯切れの良い運筆で、余白が美しい。
 日江井君＝やや小ぶりだが自然な書き振りが佳い。

琴詩酒友皆掩我
雪月花時寂憶君
北野常任 北野照石

北野君 原帖の筆意を良く心得てまず明快な快作。

琴詩酒友皆掩我
雪月花時寂憶君
更垣 常任 中村彩幸

中村君 線緩むことなく氣力充分。品格のある作。

琴詩酒友皆掩我
雪月花時寂憶君
秋桜 理 佐藤亮子

佐藤君 起筆強く、流れが自然。首尾一貫した良作。

琴詩酒友皆掩我
雪月花時寂憶君
墨芳 準師 糸島 次

鳥居君 筆峰を良く利かせ力強く、リズムのある作。

琴詩酒友皆掩我
雪月花時寂憶君
糸島 師 福島

渡辺君 筆の弾力を良く生かしメリハリのある作。

琴詩酒友皆掩我
雪月花時寂憶君
糸島 初段 佐藤 愛佳

佐藤君 用筆自然で、筆脈よく、温和な作。

琴詩酒友皆掩我
雪月花時寂憶君
筆泉 理 松村 朝史

松村君 氣持を込め温和で清澄。心温まる佳作。

琴詩酒友皆掩我
日文 一級 不死原 直美子

不死原君 大きく堂々とした躍動感のある作。

東風 紅梅 芳香
不忘春 金空 鶴聲
千草 理 高木 翠竹

高木君 端然として清々しく、立体感のある快作。

東風 紅梅 芳香
不忘春 金空 鶴聲
松華 理 兼舟

華舟君 線良く暢び、大らかで爽やかな良作。

東風 紅梅 芳香
不忘春 金空 鶴聲
春墨 準師 村上 悠雲

村上君 軽快で、素直で伸びのある明るい作。

東風 紅梅 芳香
不忘春 金空 鶴聲
東急 二級 中村 芳子

中村君 一点一画力強く、字形整い生氣ある快作。

「条幅出品専用シール」及び、「バーコードシール」を出品券に必ず貼って下さい。事故扱いとなります。

川雅芳春松広春 津堂峰華洋峰 中小最村櫻下佐 島笠上上井森藤 原 絵 聡充華里浩昭玲 美德月子壹鳳花	師 範 水薰夕下松綾一聖菁芳八清慕千函八向八深香絃永茨能旭靜靜祥芹芳入川乾乾墨花川行行水香北緑函翠 元 カ川風秋个母松厓雲里別峯桃鳳山鶴川春邦谷城登川鳳凰紅田池木上外外華園上雲雲仙豊野洲館汀 松井関小大蘇山中川白小田川野清遠岩土竹井井坂浅矢津高木武北鈴笠島平平赤村會近清路河架下熊掛 島上 原崎木口條島子松瀧瀧島鳥山田井中上股本野波村橋内田村木間津井井塚田澤藤宮 井田田坂札 花春紅美芳信惠滿蕙俊清岳水景桃妙素八 佳瑞輝春貞幸節惠愁代彩智栖靜響舞海昭憲正和榮麗緑香翠 峰風葉和春子節夫舟子香邦嶺都香鳳邨佳幸惠邦紅水舟雄鳳凰岳子香惠翠光山鳳雲子子江子豊華洲風心
--	---

笹越映靜靜靜柏百幽さ書広山一蝶長水水水水舟光千英英靜蘭一大松蘭越函苑泰白鳩梅子玲雨利茂日茜 下舟雨翠翠翠翠葉代華さ清島崎般秋友月月月紅村登雪雪高宮船華雪舟館雨洞澄山扇葉光館別坂文会秋 引山篠谷山口副宮遠上平阪齋西高池村植小内大五山二萩橋石原佐大渡鹿横木早川眞上木猪平廣常鈴新渡 田本田口山下藤田林本藤沢木田上村林山田月津宮原本澤 藤成辺野山下坂口砂條村田池瀬泉井井邊 多 千少映翠翠礼岳紫玲恵利育由美慧加浩和恵直清美陽秋笑希翔敦千福翠弘愛優高鳩沙韻華菊文久知抱澡 明華溪柚江翠水香子子光子香枝秋峰月月月美泉峰雪香翠有亭子紗泉玉子華子子宗子子邑華月泉子山葉	以上秀作 日山小蘭朱谷幽 文崎山峰夏山峰 青安岩八根河大 山達谷木岸端村 美智彩純美越竹 尚智彩純美越竹 子代月風子山峰
---	---

樂王玉玉玉北菁綾鼠湘大唐八春春松松春ひ蒲東玉靜子潔網鳩啓オ玄玄靜大函双茂八八成八八芳大東東良良大玄八日草映朱 心蘭蘭泉泉洲堂花山南船川雲峰峰華華榮ろ生方堂風葉秋走鳥玉北峰峰翠吉館葉坂雲雲知知王池成方方心心心巨鳥王月加松夏 豊黒伊遠橋潮浜早森杉近渡五中川鷹小石由茂鈴田美高櫻神山戸吉三植五福中堀門田永茂小金岡高白眞平竹吉荒積水菅堀室山 高田藤藤井田崎河川田藤邊十村島野池塚井木口馬森井保崎谷田松十屋島越間中井木山中桑川壁嶋中永木田城沼江井田 美 川 村 風 雅忠恵杏華真菁澄満青佐真厚香彩華秀芳暢さ香明永平澡寿苔真北和聖翠壽照鳳詠章朱美洋碧春清輝江良良悠智翠蓮珠松 鳳凰玉泉泉理紀水醉翠子風子翠乃苑道春江子苑室健城恵山石弓琴穗心美子春泉子紅子子照臨泉雲月邨清仙翠子香容真華綠	紫神大幽澡澡靜騰八柏緑芳白玉香 風泉和峰秋風峰淳徳洲雨代鳥蘭心 荒佐宮川齋古松青班水松安佐牧勝小 明藤川原藤屋尾池目野澤七藤野又倉 多 喜暢加和美澡景穂幸靜美朋玉 蘭豊 湖史子穂澡華心湖子枝舟芳泉山葉
--	--

【師範位以上の常任理事・理事・師範位への出品について】

●漢字・かな共師範の方

- ・常任理事、理事に委嘱されている方はそれぞれ「常任」⇒漢字・かな共「常任理事部」で出品ください。「理事」⇒漢字・かな共「理事部」で出品ください。
- ・委嘱されていない方は「師範部」として漢字・かな共出品ください。

●漢字・かな、どちらか師範を取得している方

師範を取得している部門（漢字又はかな）はそれぞれ「常任理事部」「理事部」「師範部」にて、師範を取得していない部門（準師範以下）は準師範・三段・二段・初段以下の部門に出品してください。

白鈴西東桂朱八心碧 澄懸友急紅夏淳童流 川小水遠下谷松河櫻 口林落藤田原口野 美 高雪紀美智久千澄陽 子峰子樹子代鶴翠子	常任理事 静朝東松春小終り寿花朝祥北 翠美岳桜日菅 ヤ桂林美園臨 山鈴杉盛小見加高柴茨北山 木本 田宮上崎藤原山原見岸 山 晃艶東芳祥恵桃龍真青哇虹 翠子苑子翠峰翠子貴峰翠紅絳	以上秀作 長柙詠松 谷 峰 桜 荒上土屋 川丸 万成詠節 陽紅峰子	総務 幽朱宮朝富に菁秋網芳志 峰夏園美土れ堂山房匡峯 高櫻須村川松雀柳久村山 橋田田松嶋木 田瀬口 喜 春東千美坡光菁杏房菓松 陽紅哇子景慧園秋子菜光	担当 原田 弘琴 運営総務	かな臨書部
--	---	---	--	------------------	-------

手手紫に広花芳光池秀二紅蒲千祥百祥祥百玉小玉子鼠宮尚石K 芳花 代代代竹れ島建硯風田風軒業生珠園代園園代堂千泉葉山園香蘭S 匡林 根中黒萩岡田中渡上飯中森三茂清恵中高田牛高吉戸富森黒森田鈴上望 本牟澤原田村原辺口島山田木水水美嶋橋中山橋村塚田川川田中木田月 田 淳柳愛良光翠文朗京翠秀柏徳さり翠西奏奏青玉松玉静北寿翠翠葉玲典由 子花子子蘭華窓秋子苑風舟子子子蘭徑香風蘭堂韻泉葉斗蕙香舟軒風子紀	以上秀作 花遊葉葉葉桂網萃小網八春良春手子春鈴 林人月月月風房竹子走淳雪心林代葉林懸 佐高藤大木藤薦及関藤大小浅林藤竹吉八 々柳村谷虎野田川 本和山野 田内田尋 美木 野禮袖節和弘聃祥杏彩柳良北道豊敦成 香子子子子子風蘭波雪香醉子穂子峰	以上秀作 静子翠葉 石河須賀子 五須賀子
--	---	-------------------------------

Y草東飛宮千一淡子東北秋桂炉谷千水苑朱幸靜泰八綾香鯉Y草松足碧群八松筆筆入水椋子子相小長武春函春八鶴鮎W 加岳二園民翠海葉岳野山風峰口珠木雨夏萃翠成雲秋園城W加茂寄流象淳代泉泉開木 葉葉模千谷豊光館雪淳峰川 鳩前若矢工大吉河松松北青子中大白神松松芦橋小幸牧渡的小河山林鈴高佐根川秋田繁猪鎌祖中和風吉渡桶若内熊桑飯 山野林沢藤城川合村本野木葉澤貫田保澤本澤野黒村の邊場口田下 木宮藤本山中友川田父川田間田邊本林田沢島田 え り香東華琴千伯由ル美照簫美歌玉典翠苑桂裕翠玉秋夏美翠曉彩智恵久幸昭秀恵 道蕙恵優春玲桃聖汀孝香遊倅蒼令華 子風真昌靜民雲紀ニ 苑碩秋子山扇子苑彩子子子佳玲麗錦峰風子映子酔子風雪翠子馨子風影泉翠翔水泉華子蘭翠琴月艸香	以上秀作 さ手丹星春清旭春下た子長星船東華靜日 ち代心 風里川蓄川か葉友月川急桂翠文 牧杉田鈴横田今佐林前八井永幸宮鈴佐長 野本中木山測田藤 島田口山福崎木野澤 美 恵 祥信登民和岳彩ゆ美由順加保啓美夏翠啓 香子里代子邦水子智佳子扇子嬰子子玲子	以上秀作 理 事
--	---	-------------

南下紅浜清鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎鮎尚双函長玄星雨芳港芳小釧遊小 林川葉銀富川川川川川川川川川川洋葉文谷峰 桃硯 漣諸路心菅 伊小武金谷和岩石滝迫神結庄鈴奥小山大南滝笠松清後関金小山中指 藤原山屋口田崎川 田永柴 木山杉形藤山 沢原本水藤根子山下本田	以上秀作 さ手丹星春清旭春下た子長星船東華靜日 ち代心 風里川蓄川か葉友月川急桂翠文 牧杉田鈴横田今佐林前八井永幸宮鈴佐長 野本中木山測田藤 島田口山福崎木野澤 美 恵 祥信登民和岳彩ゆ美由順加保啓美夏翠啓 香子里代子邦水子智佳子扇子嬰子子玲子	以上秀作 理 事
---	---	-------------

条幅審査総評

写真版掲載の方はゴシック表示しています。月例条幅部の写真版(最新号掲載分)のみ五百円にて返却いたします。(返信用封筒に切手を貼り同封して下さい)

漢字一般部 臨書 評 大久保 樹心

- 師範受験の課題です。隸書の特徴を確認し、半紙で用筆法に習熟しましょう。特に始筆終筆転折を。
- 一字毎に墨をつけている作品が多い。半紙より墨量多くして書き出し、最低三文字は書きましょう。
- 条幅作品に段級は不要。優秀作品の写真・批評を見て他の会員の良い所を積極的に取り入れましょう。

かな一般部 創作 評 大野 幸子

- 今回の臨書は師範試験に該当となる古筆故、真摯に向き合い学ばれていらっしゃる事が紙面に現れている作品が多かったと思います。臨するには、書く前の十分な理解が欠かせません。掲載の中の参考手本はあくまでも参考です。古筆を見て、自分なりの解釈を作品の中に組み入れることが必須です。

半紙部成績発表 (2月21日締切り分)

- 各段級の氏名は順位ではありません
- 成績発表中の○印は昇級者です
- 昇級者は上がった級を記入して出品のこと
- ※ホームページで確認可

- 必ず作品に段級を記入のこと
- 半紙部は、バーコードシールを作品の左下にはって出品のことシールのない作は審査外となります
- 出品規定を精読の上、出品のこと

り雨棍芳越小春幽秋布 や虹原雨舟菅日峰山川 加佐市小渡見小磯石天 藤川作部上宮部川野 山 龍智慧晴朱惠祥李洛彩 子子泉芳瓊峰翠峰秋流	丹幽幽大宮相 崖峰竹巨美墨 若風森山宮江 井卷 崎川坂	芳窓華幽北秋貞幽秋富網青松幽泰古志 崖友桂峰洲山城峰山土房堂風峰 松峯 村呉樋高平柳木小根川久窪萩田藤小山 瀬田口橋山 野山岸嶋田 原宝野松口	運管 総務	漢字部規定 審査 内田 泊雨 山口 萱雨
--	--------------------------------------	--	----------	----------------------------

菁祥谷八江映苑玄函大八丹玉至 堂山亭淳別雨雨峰館成淳崖崖葉 大松保佐松河古吉桶戸實小高鎌 高永呂藤江口川田本浪方泉橋田 田 菁祥彩昭光映苑知香靜翠玆玉優 衣玉園雪夏紅靜翠蘭秋香華堂泉	華丹大茜十芳芳長北松幽墨西幽映大案大大玉東映松松十桃松幽鶴鳩鳩雅面萩越北越 桂崖巨会二厓崖谷臨梭峰仙船峰水国書巨蘭岳岳雨梭二園邑竹峰山山峯沙台舟洲舟舟 小田佐井北杉小荒山土田武東八大坂玉秋西小杉青盛石吉遠米佐三三藤長上石長三柴由 田中藤上見崎泉川岸屋口貞海嶋島之村山村川 沼田家沼藤倉々浦浦井谷田井澤上田井 桐 華紫麗茜琇蘭紫万虹節窓墨千紅映翠鳳影幽玉東映芳永祥史松萌史掬翠紅尤蕙光陽影靜 鏡水翠聲紅芳扇陽鮮子峰仙春霞水邨春翠圃泉苑桃子子紅邑竹鶴水仙衣華風遙舟苑	常任 理事
---	---	----------

竹華小鶴惺子綠天長清千松松幽西い紫北幽葉尚宮 亭桂室峰々葉葉應嶺谷石穗華華峰会ず峯野峰花園 山長吉熊田松富中岡風荒小茂北加檜本櫻北川神森工 村田山沢中村田嶋本間美宮原川藤垣間井野崎田田藤 ハ 煌宣敦著蘇ル靜綠啓聖煌清華華紅李郁紫照影智翠琴 竹子子子星葉應祥泉石峰陽秀紅莠泉松頌夏華香靜	久玲華鳩幽草菁茜八大釧旗小鮎三梅大碧ひK華丹正丹光八雨華鳩 下湖桂鳥峰加堂會淳巨南台千川不扇宮流ろS桂崖雪崖風淳城桂鳥 坂吉龍小関河松福岩遠山山関桑鴨加野河佐鈴石松楠宮金松伸井石 本田野山口田居田本藤口林 鳥田藤本合藤木毛元本田澤原村上井 美 珠朋朋雅殊彩菁慕翠翠翠 祥令浪妙理俊煌葉澄淡天素薰千花智芳 扇華子康惠映紅西雪蘭花昇園岬子鳳菓果籽翠靜峰秋風鶴城枝水	以上 秀作
--	--	----------

華川梅東鶴相相小松筆八峰雅良良松松良心西茜池丹網札苑まま香秋玉相相大茅玲幽香綾桂土葉葉一一石華柏千小鳩鳩谷華 桂口扇岳香模模千代泉峯合峯淳淳華華心会会田屋走暈雨くく風英泉墨墨谷 湖峰蘭秋風日月泉泉蘭桂美民千鳥鳥口桂 西赤上松陸平中吉根川八田日内山清岩久小小中飯渡藤太松三高北池飯戸加杉佐野十柿田保藤音大木森脇田勝高大和小牧大柳 田石條本 木川村本田峠辺高田科水岡保西川埜島邊本田澤山野村内嶋塚藤本野地倉沼中坂野田谷虎 田中田倉城田侯野貫澤 あ	亮西美美岳香玲松秀惠華房青偉良琴秀良龍愷霞翠美杏苑美蓬翠湖麻や玉鶴鶴華春詠珠友友和柏旭節錦香翠鶴玉千桃紫香玉睦 子雲翠苑苑雅韻翽翠子紅靜波翠堂舟華倅泉西茜苑峰波扇彩生香雲里子泉風峰秋翠香園子翠子葉子子楓泉舟子秀民水香風扇子
---	--

秀秋子網八綾綾落綾豐二花子茂Y天景鯉越秋矢思思一落広丹唐Y幽墨鳩鳩丹子幽幽幽八映映蘭東靜靜日大一越書関釧紫紫 風山葉芳淳秋秋秋美軒建葉坡W嶺峰城舟山代港港翠合島崖舟川W峰友山山崖葉峰竹竹雲雨雨雪岳鳳鳳野巨翠舟芸石路峯芳 中加宮鷹大牧大栗井多森中竹風鳩永安的石小渡小森村箱田小北渡小内會内宮宇石飯輿上幸鈴木小前秋武山犬中林田駒高齊藤 山藤武田和之内原之田田原内戸山堀部場田室邊林下上根村口原辺口館田内崎野河田山田村木口林田山部田飼尾田中形橋藤波 千 田内 脇 え や 須 秀穆珠弘彩夏民葉一豊柏文豊恵り賜景翠よ朗紅侃幽織一翠溪友喜曉稀東志翠樂賀明曉竹秋映映雪東西白溪翠仙小亞見淡紫紫 風秋子子雪錦子靜水美舟窓穂泉子子峰峰風い秋蘭草亭雪靜華霞紀舟子峰鶴秋鳩山子翠鶴秀麗豐越月秋鳳鳳琶亭桃葵紀石月苑芳

双厚幽墨 三函港玲北鮎 葉木峰書 ウ館南光洲川 大丸井今 長吉大森潮神 山山上井 谷野澤 田永 多川	春幸詠彩 真紫惠真花 道泉峰陽代 喜月咲瑠瑠	光玄玄丹光T華華華華華東朱紅鼠百百芳妒ひひ墨碧碧碧飛にに池靜八綾更桂群芳遠葉葉越 風峰峰崖風F桂桂桂桂桂岳夏夏萌山代代屋峰ろろ書流流流二れれ上鳳鳳秋暈 象雨人花花卉 山吉吉奥石持磯須松大刈若松谷松鈴森中牛上中佐佐玉壘增鈴矢岡丹橫高河石中小高新宮神飯 内田田野堂丸崎藤本森園林本 鈴木嶋山田澤藤藤川野井木沢田羽山原野崎村出宮井柳島田島 真 昭仁聖香雙雙綾直南裕惠東桂如佐北青玲耿翔幽陽美久華光香裕蓉西香紫紫幸啓野楊彩秀 光貴生風風魚子扇哉翠果真子山子斗徑蘭風山玉葉隼子保子昌蘭翠子鳳鳳鳳幸園風之香華峰
--	---------------------------	---

～師範部月例半紙出品について(規定・臨書・かな)～

●半紙作品左側に「師範」とご記入いただいていた箇所「常任」「理事」「師範」のご自分の役職のいずれかをご記入下さい。

Table with columns for author names and roles. Roles include 総務, 運営総務, and 一般かな部. Authors listed include 華松綾, 窓に幽芳, 窓に幽芳, etc.

Table with columns for author names and roles. Roles include 常任理事. Authors listed include 八落八鯉, 淳合峙城, 内田八の, etc.

※月例半紙出品には段級を記入してください。特に常任理事・理事の方は師範と記入せず、ご自分の役職を記入してください。

Table with columns for author names and roles. Roles include 常任理事. Authors listed include 二紫綾西, 軒竹秋友, 森萩井水, etc.

Table with columns for author names and roles. Roles include 理事, 常任理事. Authors listed include 香采芳萌, 友南静彩, 倉宮須藤, etc.

Table with columns for author names and roles. Roles include 常任理事. Authors listed include 忘華八文, 桂桂鳳京, 岡志萩遠, etc.

Table with columns for author names and roles. Roles include 常任理事. Authors listed include 双鮎鮎鮎, 妙綠紫閑, 落玉芳瑞, etc.

Table with columns for author names and roles. Roles include 常任理事. Authors listed include 尚な小べ, 中奏中久, 鳥野村保, etc.

Table with columns for author names and roles. Roles include 常任理事. Authors listed include 梅春日向, 上石片岩, 條塚山田, etc.

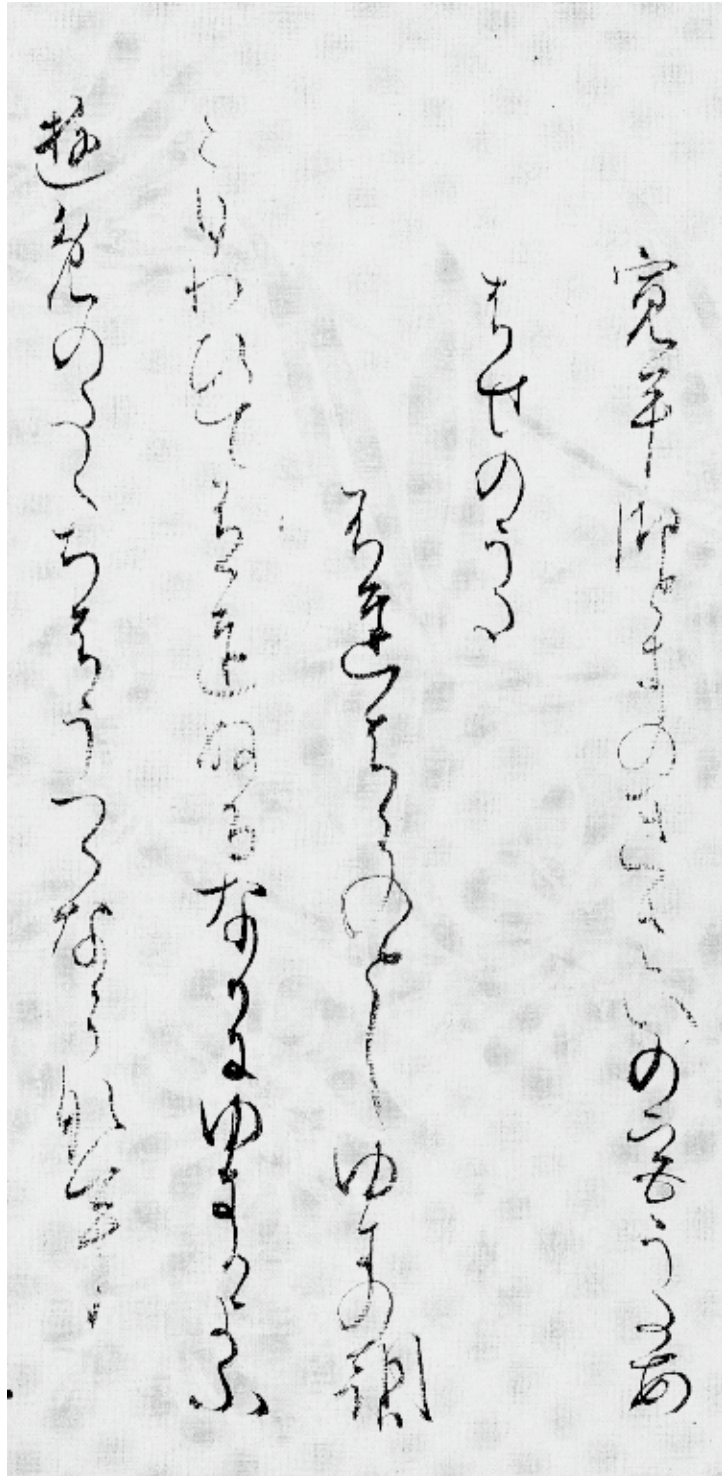
Table with columns for author names and roles. Roles include 常任理事. Authors listed include 梅春日向, 上石片岩, 條塚山田, etc.

【よみ】

寛平御ときかんびょうのきさいの宮みやうたあ
 はせはのうたうた
 ふぢふぢはらはらのとしゆとしきの朝臣あそ
 こひこひびびててうちうちぬぬるるななかにかにゆゆききかかよよふ
 ゆゆめめののたたぢぢははううつつななららななむむ

【大意】

寛平御時后宮の歌合の歌
 藤原敏行朝臣
 恋の思いに苦しんで、そのまま寝てしまった夢の中で、あの人
 のもとへ行き通うまっすぐな道が、現実のものであつてほしい。

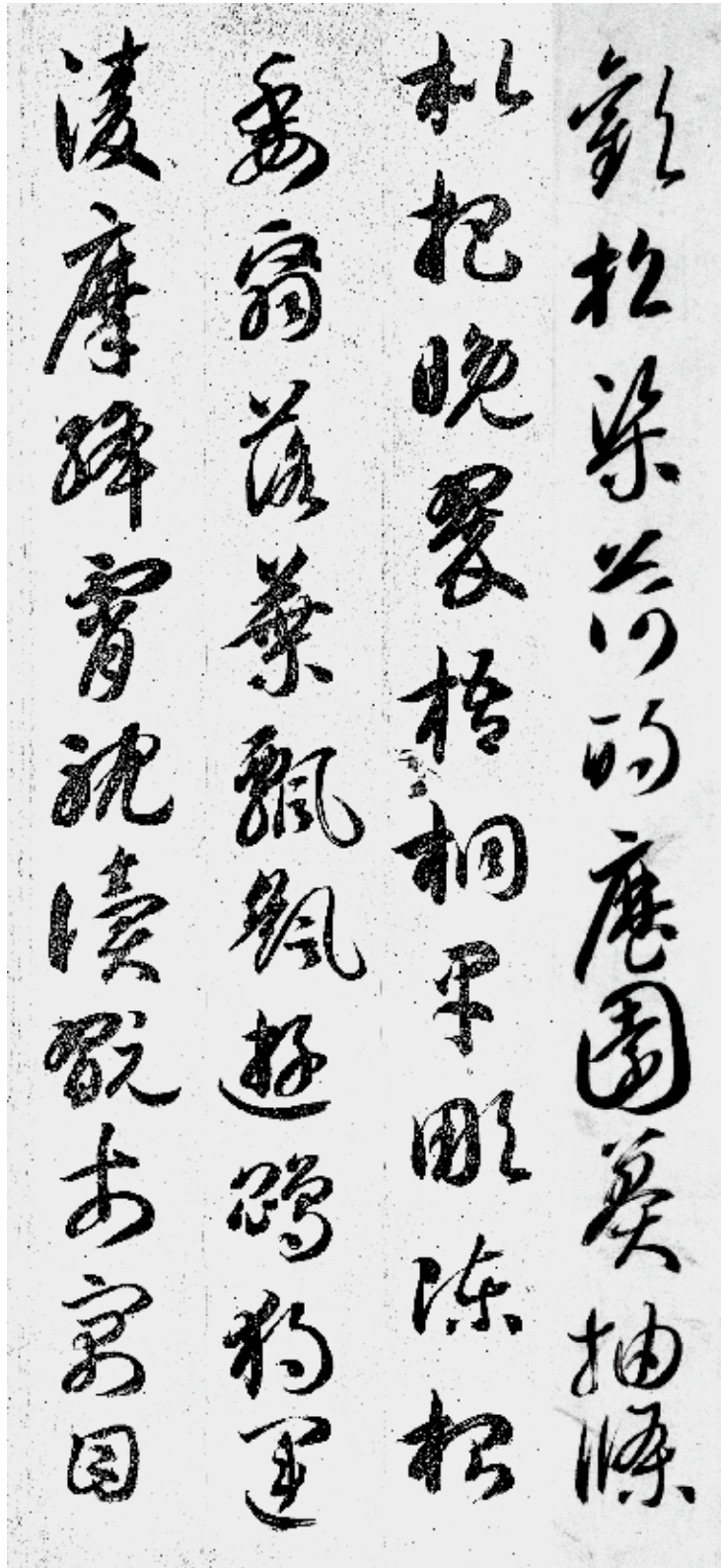


【筆路】

朝あららののううたた
 寛平御ときかんびょうののききさいさいののみやみやううたたああ
 朝あららののううたた
 朝あららののううたた
 朝あららののううたた

- ◎条幅臨書課題 (運営総務～新規)=[よみ]の太字部分を臨書してください。
- 半紙課題 (運営総務～準初段)=たて 19.8 cmよこ 9.6 cmの罫線を鉛筆で書いて 図版全部を臨書してください。
- 半紙課題 (一級～新規)=各級の一般部かな規定手本により出品して下さい。

积文Ⅱ：歡招。渠荷的歷。園莽抽條。枇杷晚翠。梧桐早彫。陳根委翳。落葉飄颻。遊鷗獨運。凌摩絳霄。耽讀翫市。寓目
 よみⅡ：歡よろこび招まねく。渠きよ荷かは的たつ歷れきとして、園えん莽まうは条じょうを抽ひんず。枇ひ杷わは晚おそく翠みどりに、梧こ桐とうは早はやく彫はむ。陳ちん根こん委い翳えいあり、落らく葉やう飄ひょう颻ようす。
 遊ゆう鷗おうは独ひとり運めぐり、絳けい霄せうを凌りまほす。耽たんとく讀とくして市いちに翫あそび、目めを〔囊のう箱しやうに〕寓くす。



的歷園莽條枇杷晚翠梧桐早彫陳根委翳落葉飄颻
 遊鷗獨運凌摩絳霄耽讀翫市寓目

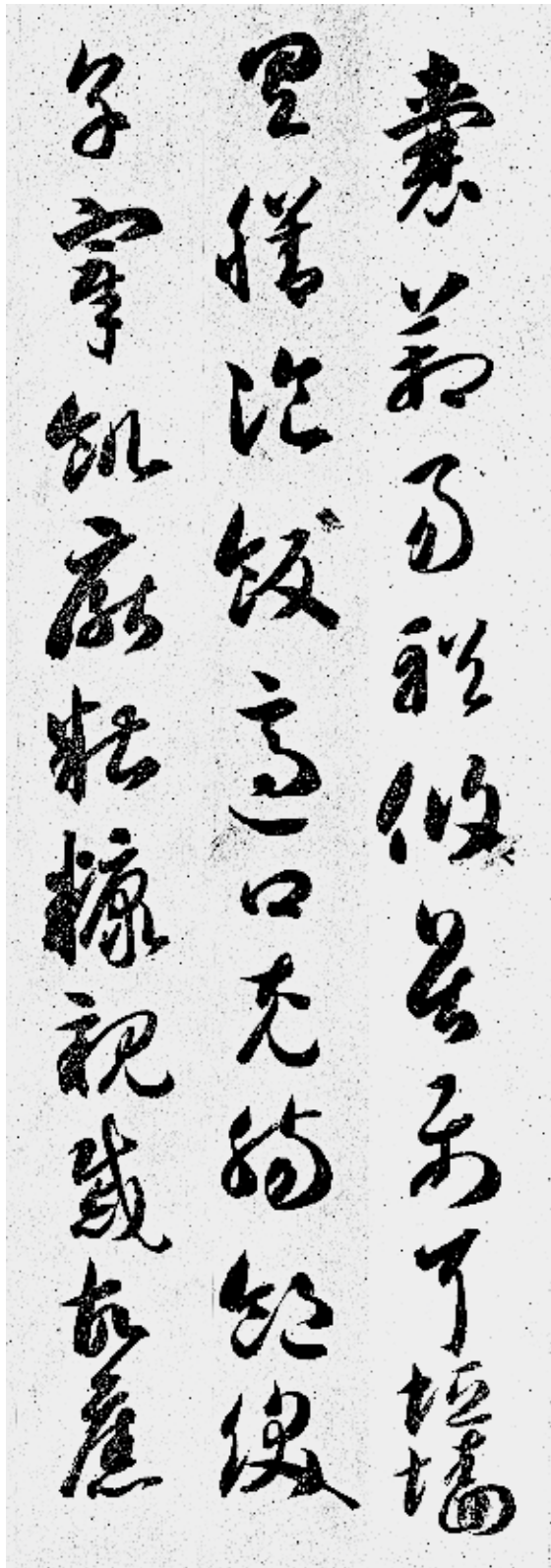
○漢字師範条幅部＝臨書部は本誌図版又は各種古碑法帖（選択自由）の臨書作品とする。

○漢字条幅臨書部＝準師以下は本誌図版中の字句（字数自由）に限る。

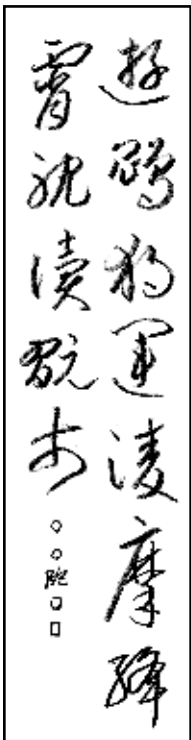
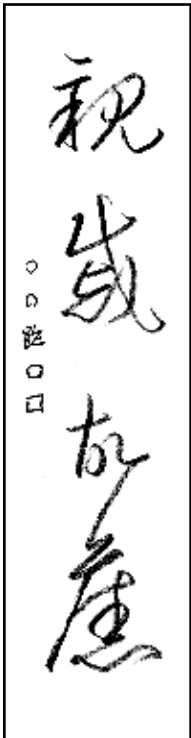
○創作倣書部は規定課題語句による創作または倣書作品のみとする。

註・出品規定熟読のこと。条幅出品料は本院発行の「条幅出品専用シール」をお使い下さい。 ※半紙臨書課題「適口充腸」

積文ニ囊箱。易輶攸畏。屬耳垣墻。具膳飲飯。適口充腸。飽飫享宰。飢厭糟糠。親戚故舊。
よみニ囊箱に〔寓す。〕易輶は畏るる攸、耳を垣墻に屬す。膳を具之飯を餐い、口に適い腸に充つ。飽けば烹宰に飫き、飢えれば糟糠にも厭く。親戚故旧、



素若可爾彼也矣了垣墻
糖親戚舊
①半切に書くときは図版を見て線の太さ等を補う
②このほかの箇所も、鉛筆等で文字の大小等のバランスを心掛ける。



※図版は「中国法書選27」p40～p43使用

一般部4月の創作・做書条幅課題

《締切り》裏表紙に掲載

漢字

① 閑中信歩花留住 醉後高歌月送歸

(毛宗文)

(かんちゆうほにまかせてはなりゆうじゆうし、すいごこうかしてつきかえるをおくる。)

大意 Ⅱ つれづれに足の向くままに歩めば、花はひきとどめてくれ、一杯きげんで高らかに歌えば、月は帰りを見送ってくれる。

② 造化鍾神秀

(杜甫)

(ぞうかはしんしゆうをあつむ。)

大意 Ⅱ 造物者は最高にすぐれた気を集めてこの泰山を作ったのである。

かな

① 海は帆に埋れて春の夕べかな

(吉分大魯)

大意 Ⅱ 春の夕べ、薄暗くなりはじめた海上に、白い帆が一面に浮かんでいる。

② 河原の白きがみえてきぬやなぎ垂れたる方に水音きこゆ

(松村英一)

大意 Ⅱ 河原に生える絹柳が白い花をつけている。その枝の垂れた方から、早春の川が流れる水音が聞こえる。

かな料紙創作

おろかなる涙ぞ袖に玉はなす我はせきあへずたぎつ瀬なれば

・漢字部・かな部の各部門に出品できる。

・①、②の課題語句のうちいずれか一方とする。

・半切たて書きとする。

・出品券にバーコードシール、条幅出品シールを貼付のこと。

※参考資料により語句の読み方、送りがな、筆者については異なることがあります。

出品方法

《次号予告》

《翌月以降の締切り》裏表紙に掲載

5月の創作・做書条幅課題

漢字

① 鳥聲山路静

(真山民)

(ちようせいさんろしずかなり。)

大意 Ⅱ 鳥の声がひびいたあとの山路はいつそう静かである。

② 雪如紈素煙如柄 白扇倒懸東海天

(石川丈山)

(ゆきはがんそのごとくけむりはえのごとし、はくせんさかしまにかかるとうかいのてん。)

大意 Ⅱ 富士山の雪は白い練り絹のようで、立ち上る煙は柄のようだ。まるで白い扇を東海の空に逆さにしてかけてあるように見える。

かな

① わが門のあふちの花の咲きそめて散るまで晴れぬ五月雨の空

(加藤枝直)

大意 Ⅱ わが家の門べの棟の花は咲き始めてから、とうとう散るまで晴れなかつた五月雨の空であるよ。

② 咲きみちて庭盛り上る桜草

(山口青柳)

大意 Ⅱ 庭一面に植えた桜草が、すべて可憐な花を咲かせた。ぐつと庭が盛り上がったようである。

かな料紙創作

恋ひわびてうち寝るなかに行きかよふ夢の直路はうつつならなむ

【 令和5年度 年間予定課題 】

月	古碑法帖・臨書		規定・有段		規定・1～4級		規定・5～新規		細字	
	智永千字文(小川本)	庶幾中～遺感謝 庶幾中庸 欲招渠～威故舊 適口充腸 老少異～詳骸垢 老少異糧 想浴執～魄環照 並皆佳妙	忽披帖	忽披枉書	孫秋生造像記	新城	九成宮醴泉銘	九成	美人董氏墓誌銘	春秋一～ 於秦醫
5月		御香兩裊		石像		長廊		徒有～ 悴傷茲		
6月		過此法期		弟子		百尋		葬于龍～ 塵故愛		
7月		因還信奉		聖歳		炎景		於重泉～ 神見空		
8月	光明皇后樂教論	也不屑～牧民明 樂生方恆	史晨後碑	升堂	枯樹賦	九成宮醴泉銘	微風	蘭亭序	群賢畢～ 領茂林	
9月				玄靈			斯之謂矣		武功	所以遊～ 可樂也
10月				東門			金谷滿園		以爲	夫人之言～ 夫抱悟之
11月				相樂			昔年移柳		可惜	俛仰之～ 興之懷
12月	乙瑛碑	高第事～牒平惶 至孝	雁塔聖教序	玄奘法師	書譜	九成宮醴泉銘	閑歩	伊予切	紫藤露～ 暮鳥聲	
1月				智通無累			翰不虛動		日新	書窓有～ 未奉行
2月				照東域而			俯習寸陰		萬物	年長每～ 守庚申
3月				三藏要文			其神奇咸		清波	雖觀秋～ 夢裏名

※ 予定課題は、予告なしに変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

月	古筆の研究・有段		做書	料紙	1～4級	5～6級	7～新規
	本阿弥切	つめどもそでにたまらぬしらたまは人を みぬめのみだなりけりかへしこま おろかなるなみたぎてにたまはなす 我はせきあへずたぎつせなれば	河原の白きがみ えてきぬやなき 垂れたる方に水 音きこゆ	おろなるなみだ ぎてにたまはな す我はせきあへ ずたぎつせなれば	はるたつといふばかりに やみよしのやまもかすみ てけふは見ゆらむ	わかうらに さして たつ	いろはに ほへとち
5月		寛平御ときのささいの宮うたあはせ のうたふちはらのとしゆきの朝臣 こひわびてうちぬるなかにゆきかよ ふゆめなたごはうつゝならなむ	河原の白きがみ えてきぬやなき 垂れたる方に水 音きこゆ	こひわびてうちぬ るなかにゆきかよ ふゆめなたごは うつゝならなむ	よしのやまみねのしらゆき いつきえてけふはかすみ のたかははらむ	そらに たる かな ありけ	りぬるを わかよた
6月		いとせめてこひしきときはむばた(まの)よる のころ(を)かへしてぞきるそせいほうし あきかぜのみにさむければつれもなき 人をぞたのむくるよごと	雪残る富士の 裾野の若葉占 め啼き遊ぶ鳥に 我もまじりぬ	あきかぜのみに さむければつれ もなき人をぞた のむくるよごと	やかずともくさはもえなん かすがのをたはるのひ にまかせたらなむ	きのふこそ よに あきか	れそつね ならむう
7月		月かげに我みをかふるものならばおほ はぬ人もあはれとや見ん こひしなばたがなはたじよのなかに つねなきものといひはなすとも	雪残る富士の 裾野の若葉占 め啼き遊ぶ鳥に 我もまじりぬ	こひしなばたが なはたじよのな かにつねなきも といひはなすとも	よのなかにたえてさくらの さかざらばはるのころは のどけからまし	こゑきぞ かなし けふ	るのおく やまけふ
8月		ほりかいはの院のおほむときだいらのう ただいはいひ いはひつしめゆふたけのいろみれば いまのけしきはそらにしるしも	蟬のこゑにはか かに止みて山峡の 夜明けもとす 狹霧のうき	いはひつしめゆ ふたけのいろみ ればみよのけし きはそらにしる しも	かみやまいざたちより みてゆかむとしへぬるみ はおいやしぬると	やなぎ なり けれ はるの	こえてあ さきゆめ
9月	小色紙	よをうらみてかつらのいへにこもりてはべりし ころ九月十三夜おのこもつたよみしついで ながめする心のやみもはるばかりかつら のさとにすめる月かな	蟬のこゑにはか かに止みて山峡の 夜明けもとす 狹霧のうき	ながめする心の やみもはるばか りかつらのさとに すめる月かな	すみよしのきしひめま つひとならばいよかへし とふべきものを	みれば ひに けり まどは	みしゑひ もせすん
10月		をしむ心を よのうきをいとながらもふるものを しばしめぐるはなもあれかし 八条のいへのうたあはせに	おく山にいま残 れる一むらのあ づきの紅葉雲に 句へり	よのうきをいとひな がらもふるものを しばしめぐるはな もあれかし	かくしつよをやつさむ たかさごのをのへにたて るまつならなくに	てふ おくつ かしを なみ	いろはに ほへとち
11月		はなのもとにて人々うたよみ日だいいひ をこえてはなをみる あふさかのせきちにほふ山ざくらも るめにかぜもさはらましかば	おく山にいま残 れる一むらのあ づきの紅葉雲に 句へり	あふさかのせき ちにほふ山ざ くらもるめにか ぜもさはらましか ば	たがうたにおりてさら せぬのなればよをへてみ れどるひとのなき	なかを けむ はな いでに	りぬるを わかよた
12月	和泉式部続集切	しのぶれどしのびあまりぬいまはたさかり けり君なぞたつべきおなじようなる人に ひとよはなによりてぞたふべきあや しきまでもぬるそでかな	枇杷の花さかむ 夕べを頻降りて みだる雪は笹 の葉の上に	しのぶれどしの びあまりぬいま はたさかり君な ぞたつべき	あきをおきてときこそあり けれさくの花うつるふか らにいろのまされば	あまび われ とる いまは	れそつね ならむう
1月		かたらふ人にあひみてのち見そめず はといひたるに のちまではおもひもかけずなりにけり たゞ時のまをなくしませ	枇杷の花さかむ 夕べを頻降りて みだる雪は笹 の葉の上に	のちまではおも ひもかけずなり にけりたゞ時の まをなくしませ	さほやまのはそもみ ぢりぬべみよるさへみよ とてらすきかけ	ひかりもの なし なれば	るのおく やまけふ
2月		まいりきたりしを、心うぐなどいひたる よ よひのまをぎふく風にうらみねどぶき かへさるたよりとぞみし	春最も蛙鳴きそ め幾夜さか真闇 つつきて月ほそ く出ぬ	よひのまをぎふ く風にうらみね どぶきかへさる たよりとぞみし	たつたがりはもみぢみだれ てながめりわたらばし きなかなやたえなむ	わが いはほ こひし かと	こえてあ さきゆめ
3月		ひごろありて、返歌とおもふにものう くおほゆれば みやこにはいへかすみかへだつ おもひたつべきかたもしられず	春最も蛙鳴きそ め幾夜さか真闇 つつきて月ほそ く出ぬ	みやこにはいへ かすみかへだつ 眺おもひたつ べきかたもしられ ず	こひしはみてもしのばも みぢばをふきなきならしそ やまおろしのかぜ	おもひ ゆき はる おもへ	みしゑひ もせすん

一般漢字部

一般かな部

◎=昇段級試験添削可・手本可 ○=昇段級試験添削可・手本不可

添削規定

◎半紙部

- 一、添削及び参考手本はその月の号に掲載された手本語句に限る。
- 一、自分の住所氏名を書いた返送用封筒に所定額の切手を貼り同封する。
- 一、添削料として半紙一点につき千円を添えること(細字部を含む)。作品には添削券を貼付する。
- 一、参考手本(朱書がほしい人は一点につき二千円を添えること)。(かな部古筆臨書を除く)
- 一、封筒に添削清書と朱書のこと。

◎条幅部

- 一、添削及び参考手本はその月の号(含予告)に掲載部分の古筆、古碑法帖の課題語句に限る。漢字は二十字以内、かなは原則として歌一首のこと。
- 一、添削料は一点につき二千円を添えること。作品には添削券を貼付する。
- 一、自分の住所氏名を書いた返送用封筒に所定額の切手を貼り同封のこと。
- 一、参考手本のほしい人は一点につき五千円を添えること。
- 一、封筒に添削清書と朱書のこと。

●右記以外の場合(昇段級試験、全書芸展等)は、直接希望の先生に問い合わせること。

(●印はかな担当)

- 榑崎 華祥◎112-0012 文京区大塚4-2-15
- 堀 天鶴◎232-0056 横浜市南区通町4-97
- 秦 大猷 337-0053 さいたま市見沼区大和田町1-953-13
- 梶田 越舟◎343-0022 越谷市東大沢1-34-2
- 黒田 祥園◎183-0056 府中市寿町2-14-1
- 目良 丹崖◎270-0035 松戸市新松戸南1-442
- 吉田 菁風◎270-0101 流山市東深井865-195
- 水越 幽峰◎409-0112 上野原市上野原3974-1
- 小林 幸子○173-0016 板橋区中板橋10-12
- 高橋 蒼玄◎245-0063 横浜市戸塚区原宿2-10-6
- 服部 大超◎232-0072 横浜市南区永田東1-7-9
- 貝瀬 芳雨◎357-0005 飯能市原町257
- 片根 琴雨◎185-0011 国分寺市本多3-9-12
- 杉浦 華桂◎102-0073 千代田区九段北1-9-5 朝日九段マンション910号
- 富永 鳩山○747-0813 防府市東三田尻1-5-29
- 長澤 華飛◎243-0213 厚木市飯山3162-2
- 松山 紀雨◎165-0026 中野区新井1-13-1
- 山田 北翠◎085-0042 鉦路市若草町17-2
- 大澤 尚洋◎053-0031 苫小牧市春日町1-1-13
- 片岡 苑雨◎340-0017 草加市吉町3-1-16
- 木口 映雨◎121-0816 足立区梅島3-30-14
- 後藤 菁雨◎162-0831 新宿区横寺町37-11
- 友岡 秋英◎144-0053 大田区蒲田本町1-1-2-1410
- 中川 泰峯◎359-0032 所沢市若松町1087-7
- 牧 尚苑◎364-0035 北本市西高尾1-142
- 吉野 大巨◎180-0003 武蔵野市吉祥寺南町2-11-18-201
- 古谷 春峰◎343-0041 越谷市千間台西6-21-5
- 小泉 移山◎134-0085 江戸川区南葛西6-18-16
- 中村 一誠◎299-5235 勝浦市出水1296
- 石川 升心◎299-5263 勝浦市赤羽根1265
- 菊池 李佳◎222-0032 横浜市港北区大豆戸町834-2大倉山ハイム6-805
- 加藤 泰玉◎336-0026 さいたま市南区辻1-25-15-702
- 金子 閣亭◎244-0813 横浜市戸塚区舞岡町1968-3
- 田原 芳琴◎271-0068 松戸市古ヶ崎736-29
- 大久保樹心◎290-0142 市原市ちはら台南6-25-11
- 原田 弘琴◎168-0073 杉並区下高井戸3-21-7
- 福山 行雲◎274-0072 船橋市三山1-15-4

添削券

姓名	添削券 (全書芸)
師範 段	級(○で囲む)

姓名	添削券 (全書芸)
師範 段	級(○で囲む)

姓名	添削券 (全書芸)
師範 段	級(○で囲む)

姓名	添削券 (全書芸)
師範 段	級(○で囲む)

(全書芸 '23.4月号)

【5月～10月の締切り日(予定)】

締切り	5月号	6月号	7月号
条幅	5月8日	6月5日	未定
半紙	5月22日	6月20日	未定
締切り	8月号	9月号	10月号
条幅	未定	未定	未定
半紙	未定	未定	未定

※予定ですので変更になる場合があります。

月例競書出品規定

◆条幅師範部（運営総務）師範位）

- 規格：半切たて書き（35cm×135cm）
- 臨書部と創作・做書部の両方に出品可。
- 臨書部は本誌図版又は各種古碑法帖、古筆の臨書作品とする。
- 月例条幅出品専用シールを出品券に貼付すること。

◆条幅一般部（準師範から新規）

- 規格：半切たて書き（35cm×135cm）
- 臨書部と創作・做書部の両方に出品可。
- 臨書部は本誌「古碑法帖研究」
- 「古筆の研究」に掲載された課題部分とする。
- 月例条幅出品専用シールを出品券に貼付すること。

◆半紙部（25cm×34cm）

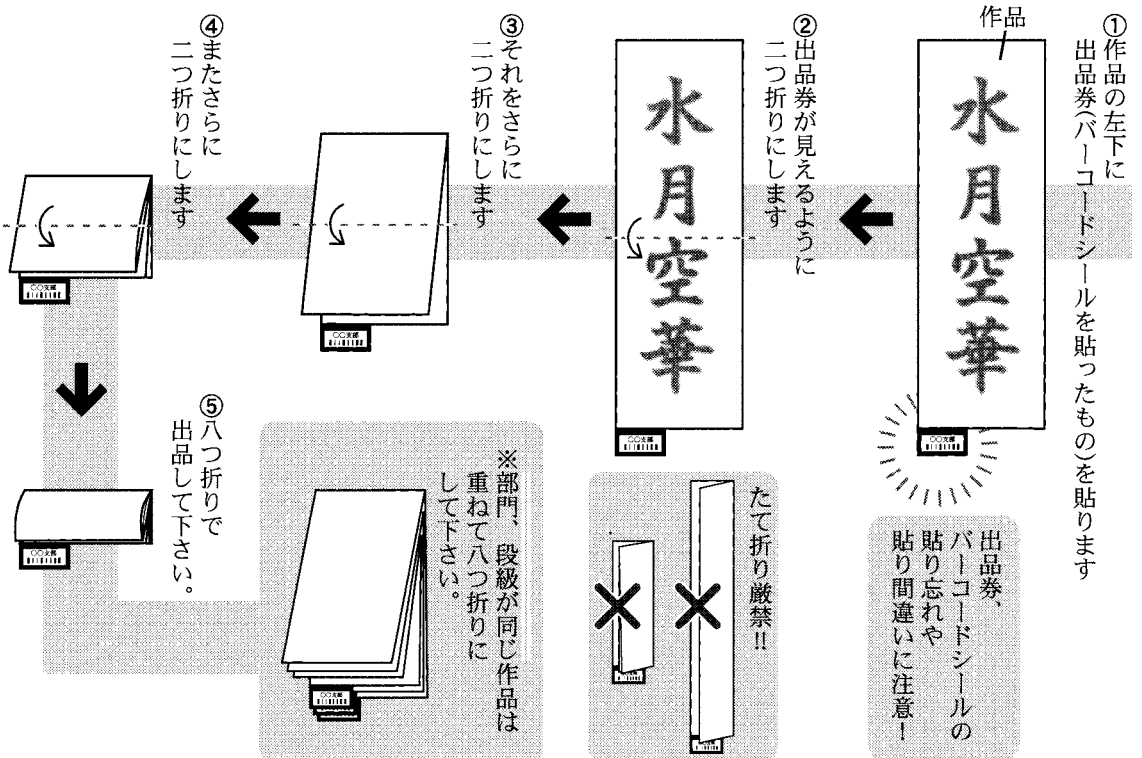
- 規格：半紙たて書き（細字部は半紙半分たて書き）
- 規定・臨書・かな・做書・料紙・細字それぞれに出品可。
- 自分の段級課題を出品すること。
- 細字部はA・B両部門に出品できます。
- ※規定、臨書の上位の級が自分の段級位となります。

◎注意事項

- 次の作品は審査されません。
 - ・条幅部・半紙部は**白の無地**に限る。（料紙部は除く）
 - ・メ切日に事務局へ到着しないもの、又は当月課題外の作品
 - ※メ切当日、メ切日を過ぎてからの投函、発送はご遠慮ください。名簿に掲載されない場合もございます。
- ・出品券不備（貼り忘れ、貼り違い、記入間違い）
- ・月例条幅出品専用シール（条幅部）不備
- ・バーコードシール不備（貼り忘れ、貼り違い）
- ・段級位の無記入や記入間違い
- ・重複作品（同じ部門に重複しての出品は不可）
- ・課題違反（自分の段級位以外の作品）↑前月の昇級は考慮
- 最新号の写真掲載となった**条幅作品**のみ、五百円にて返却いたします。返却期限は本の発行から1ヶ月以内です。（返信用封筒に切手を貼り同封して下さい）
- 添削を受けたい方は添削規定を熟読の上、添削講師の先生に直接送ること。

条幅作品の出品時の折り方

◀各部門には1点ずつ出品できます▶

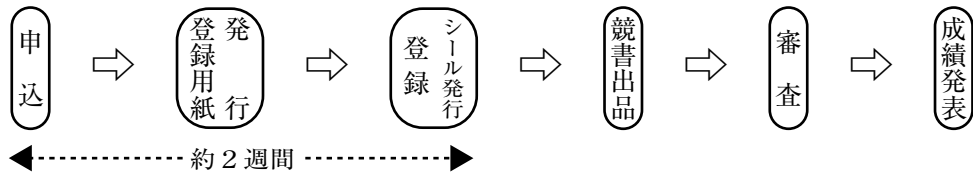


一般部全会員必読

(全書芸一般部 入会から出品まで)

本院では『全書芸』一般部の発行を迅速かつ正確に行うため、会員登録制を採用しております。競書出品の際、作品にバーコードシールを貼って提出するための登録です。

入会申込・競書出品に関して、間違い・不備等なき様、以下を熟読の上ご協力下さい。



- ①入会申込後、登録用紙を支部会員は支部長に、個人会員は本人宛に送ります。
必要事項を記入し本院へ返送して下さい。(新規入会者は登録用紙を請求のこと)
 - 購読一冊につき、登録は一名に限ります。
 - 未登録者及び新入会の方は年間購読料と別に、初回のみ登録料として一名につき700円を申し受けます。(登録料は700円分の切手を登録用紙に同封または、購読料に加算して下さい)
- ②会員登録をされると、会員のバーコードシールが届きます。
1年間(3月迄)毎月使用するので紛失しないよう保管して下さい。
万一、紛失した場合は事務局に連絡し再発行の手続きを行って下さい。(再発行料700円)
毎年1月～3月頃に新たに送付致しますが、前年度以前のシールもご使用できます。
- ③競書出品に必ずバーコードシールを貼付する。
 - 条幅部・・・作品左下に出品券を貼り、出品券の所定位置へバーコードシールを貼る。
※条幅出品の場合、条幅出品専用シールが別途必要となりますのでご購入下さい。
 - 半紙部・・・直接バーコードシールを作品左下に貼る。(出品券は不要)
- ④競書出品の際、以下のものは審査対象から外されます。
 - ・自身のバーコードシールを貼っていない作品(登録をしていない方も含む)
 - ・出品券・条幅専用シールを貼っていない作品(条幅部)
 - ・支部名・段級位・姓号を書いていない作品(半紙部)
- ⑤審査対象から外された場合、発表されません。
- ⑥登録した内容に変更が出た場合、はがきで変更届けを出して下さい。
 - ・住所変更
 - ・姓名の変更(雅号への変更)
 - ・退会・休会
 - ・支部から個人、個人から支部への変更
 - ・その他

※変更の際、必ず該当する方のバーコードシールを1枚はがきに貼って下さい。

※雅号で戸籍文字など対応できない文字もあります。

⑦段級位

漢字の段級				かなの段級			
条幅	臨書	書	共通	条幅	臨書	書	
	創作	倣書				創作	倣書
半紙	規定	書			半紙	規定	書
	臨書	書				倣書	書
	細字	字				創作	書
						倣書	創作

※準初段～準師範は昇段級試験でのみ昇段します。

※漢字は半紙の規定・臨書、かなは半紙の規定でのみ昇級・昇段します。

従って、漢字・かなの段級は別とし、いずれかが昇級すれば同じ段級となる。

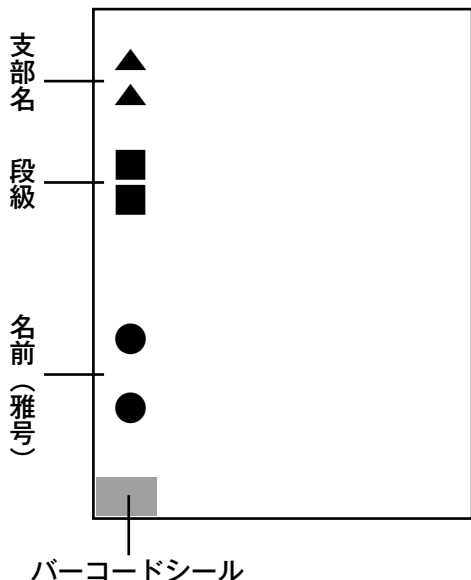
例：漢字の臨書が3級→2級へ昇級すれば、漢字の規定・条幅も2級となる。

※出品の際、他の書類は同封しないこと。支部・団体の方は支部長が一括してご送付下さい。

本誌購読者のみ月例競書出品が可能です。冊数と会員登録者の確認を随時行い、冊数に合わない方の分は追加請求します。(例5冊購読8名登録→3冊追加請求、または3名の退会の届出を行なって下さい) 尚、無効会員は競書出品できません。

バーコードシールと月例条幅出品専用シールについて

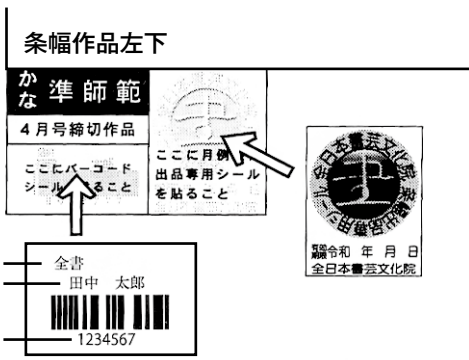
(半紙部)



- バーコードシールは上図の通り作品の左下に直接貼って下さい。
- 作品の左側には、必ず支部名・段級位・雅号をはっきりと書いて下さい。
- ※段級位を書いていないと審査されません。

(条幅部)

- 条幅部は出品券、バーコードシール、月例条幅出品専用シールが必要です。
- バーコードシール、月例条幅出品専用シールは、必ず下記のように、出品券の所定の位置に貼って下さい。
- 月例条幅出品専用シール申し込みシート(12枚綴り) 三、〇〇〇円
- ※有効期限は発行日より三年
- 希望シート数、お名前、ご住所、会員番号を明記し、ご入金下さい。
- 郵便振替口座
001501712351
- 座名 全日本書芸文化院
- お届けに2週間〜3週間を要します。
- ※次号の本に同梱の場合もあります。
- 余裕をもってお早めにお申込下さい。



月例条幅出品専用シールの料金 1シート 3,000円 (税込・送料込)

- 新規会員の方=必ず登録用紙をご提出下さい。バーコードシールが届きましたら、作品の左下に貼付してご出品ください。お手元に届くまで2週間程度かかりますことをご了承ください。 ■全書芸HPからも登録できます
- バーコードシールを紛失された方は必ず事務局にご連絡ください。再発行には700円(切手可)が必要になります。
- 登録内容の訂正・変更は、ハガキに現在のバーコードシールを1枚貼り、訂正事項を記入の上、本院事務局へお送りください。お手元のバーコードシールはそのままご使用になれますが、訂正済みのシールを希望の場合は再発行料700円分の切手添えて封書にて事務局にご郵送ください。



バーコードシールのない作品は審査されませんのでご注意ください。

創作倣書出品券

注：月例条幅専用シールを貼っていない作品は事故扱いとなります。必ず事前に月例条幅専用シールを購入して下さい。

※創作・倣書部について…総務以下は同一審査・結果発表です。運営総務は別審査・発表になります。

キリトリ

ノリシロ

条幅出品券 締切り 4月5日

4月号締切り作品

師範部 条幅かな 創作倣書部

錦町
社印 十郎
ここにバーコード
シールを貼ること
0 0 7 7 7 7 7

創作 倣書 (法帖名)

による

運営総務 / 師範・理事・常任・総務部
必ずいずれかに○をつけてください。

条幅かな創作倣書部

キリトリ

ノリシロ

条幅出品券 締切り 4月5日

4月号締切り作品

師範部 条幅漢字 創作倣書部

錦町
社印 十郎
ここにバーコード
シールを貼ること
0 0 7 7 7 7 7

創作 倣書 (法帖名)

による

運営総務 / 師範・理事・常任・総務部
必ずいずれかに○をつけてください。

条幅漢字創作倣書部

キリトリ

注：創作倣書部の出品券です！

ノリシロ 条幅出品券 締切り 4月5日

4月号締切り作品

条幅かな 創作倣書部【準師範以下】

錦町
社印 十郎
ここにバーコード
シールを貼ること
0 0 7 7 7 7 7

創作 倣書 (法帖名)

による

条幅 **かな** 創作倣書部【準師範以下】

キリトリ

注：創作倣書部の出品券です！

ノリシロ 条幅出品券 締切り 4月5日

4月号締切り作品

条幅漢字 創作倣書部【準師範以下】

錦町
社印 十郎
ここにバーコード
シールを貼ること
0 0 7 7 7 7 7

創作 倣書 (法帖名)

による

条幅 **漢字** 創作倣書部【準師範以下】

キリトリ

運営総務・総務条幅出品券

キリトリ

ノリシロ

条幅出品券 締切り 4月5日

4月号締切り作品

総務部 かな 臨書部

錦町
社印 十郎
色つきバーコード
シールを貼ること
0 0 7 7 7 7 7

出典 (法帖名)

運営総務/総務部

必ずどちらかに○印をお願いします。

キリトリ

ノリシロ

条幅出品券 締切り 4月5日

4月号締切り作品

総務部 漢字 臨書部

錦町
社印 十郎
色つきバーコード
シールを貼ること
0 0 7 7 7 7 7

出典 (法帖名)

運営総務/総務部

必ずどちらかに○印をお願いします。

※月例競書出品規定を熟読の上、出品下さい。

条幅かな臨書

条幅漢字臨書

師範条幅出品券

注：月例条幅専用シールを貼っていない作品は事故扱いとなります。
必ず事前に月例条幅専用シールを購入して下さい。

※違う部門・段位の作品はそれぞれ八つ折りにしてから重ねて下さい。
※出品券は作品下の左隅に貼り、作品は内折りに重ねて下さい。

ノリシロ 条幅出品券 締切り 4月5日		ノリシロ 条幅出品券 締切り 4月5日	
4月号締切り作品 師範部 常任 かな 臨書部	ここに月例条幅 出品専用シール を貼ること	4月号締切り作品 師範部 常任 漢字 臨書部	ここに月例条幅 出品専用シール を貼ること
ここにバーコード シールを貼ること		ここにバーコード シールを貼ること	
出典 (法帖名)		出典 (法帖名)	

常任理事部条幅かな臨書 常任理事部条幅漢字臨書

ノリシロ 条幅出品券 締切り 4月5日		ノリシロ 条幅出品券 締切り 4月5日	
4月号締切り作品 師範部 理事 かな 臨書部	ここに月例条幅 出品専用シール を貼ること	4月号締切り作品 師範部 理事 漢字 臨書部	ここに月例条幅 出品専用シール を貼ること
ここにバーコード シールを貼ること		ここにバーコード シールを貼ること	
出典 (法帖名)		出典 (法帖名)	

理事部条幅かな臨書 理事部条幅漢字臨書

ノリシロ 条幅出品券 締切り 4月5日		ノリシロ 条幅出品券 締切り 4月5日	
4月号締切り作品 師範部 師範 かな 臨書部	ここに月例条幅 出品専用シール を貼ること	4月号締切り作品 師範部 師範 漢字 臨書部	ここに月例条幅 出品専用シール を貼ること
ここにバーコード シールを貼ること		ここにバーコード シールを貼ること	
出典 (法帖名)		出典 (法帖名)	

師範部条幅かな臨書 師範部条幅漢字臨書

条幅部（臨書）出品券

注：月例条幅専用シールを貼っていない作品は事故扱いとなります。
必ず事前に月例条幅専用シールを購入して下さい。

※違う部門・段位の作品はそれぞれ八つ折りにしてから重ねて下さい。
※出品券は作品下の左隅に貼り、作品は内折りに畳んで下さい。

キ	リ	ト	リ	キ	リ	ト	リ
ノ		リ		ノ		リ	
シ		ロ		シ		ロ	
条幅出品券 締切り 4月5日				条幅出品券 締切り 4月5日			
4月号締切り作品		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		4月号締切り作品	
ここにバーコードシールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここにバーコードシールを貼ること	
漢字 準師範		かな 準師範		漢字 準師範		かな 準師範	
キ	リ	ト	リ	キ	リ	ト	リ
ノ		リ		ノ		リ	
シ		ロ		シ		ロ	
条幅出品券 締切り 4月5日				条幅出品券 締切り 4月5日			
4月号締切り作品		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		4月号締切り作品	
ここにバーコードシールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここにバーコードシールを貼ること	
漢字 3 段		かな 3 段		漢字 3 段		かな 3 段	
キ	リ	ト	リ	キ	リ	ト	リ
ノ		リ		ノ		リ	
シ		ロ		シ		ロ	
条幅出品券 締切り 4月5日				条幅出品券 締切り 4月5日			
4月号締切り作品		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		4月号締切り作品	
ここにバーコードシールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここにバーコードシールを貼ること	
漢字 二 段		かな 二 段		漢字 二 段		かな 二 段	
キ	リ	ト	リ	キ	リ	ト	リ
ノ		リ		ノ		リ	
シ		ロ		シ		ロ	
条幅出品券 締切り 4月5日				条幅出品券 締切り 4月5日			
4月号締切り作品		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		4月号締切り作品	
ここにバーコードシールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここに月例条幅出品専用シールを貼ること		ここにバーコードシールを貼ること	
漢字 初段以下		かな 初段以下		漢字 初段以下		かな 初段以下	

—本院役員並びに支部長の先生方に—

書展・書道イベントの本誌掲載について

本院では近年諸先生、支部長並びに会員のため、さらに書道文化の発展に向け、種々改革を試み、よりよい全書芸誌作りに取りくんでいます。

その一環として先生の個展、社中展のご予定を本誌及びホームページ（SNS等）に掲載し、より一層の会員相互の親睦が計られることを期するものです。（書道イベントも可）

下記の記入欄にご記入の上お送り頂ければ幸いです。
また、ホームページからも情報入力が可能です。 →



※展覧会の案内ハガキ、作品集等の作成も承りますので、ご相談下さい。

展覧会名	
期日・時間	令和 年 月 日 () ~ 月 日 () 時 分 ~ 時 分 (最終日 時まで)
会 場 (交通手段等)	(会場名)
	(住 所)
	(電 話)
代 表 者	(代表者名)
	(住 所)
	(電 話)
	(Eメール)
そ の 他 ・ご挨拶文 ・協賛 ・全書芸誌対する ご意見等	
広 報	全書芸誌への案内ハガキの同封 希望あり・なし
	会場での全書芸見本誌の設置 可・不可
	その他の展覧会サイトへの告知 希望あり・なし

└こちらを希望の場合、作品の画像データ(写真)3点をお送り下さい。
info@z-shogei.co.jp

『全書芸』教室登録用紙

*該当部分に○および記入をお願いします。

①教室登録に…… 承諾する ・ 承諾しない（会員番号 ）

②「承諾する」に○の方は、下記にご記入をお願いします。

- 情報公開可能な範囲でご記入をお願いします。
- 教室が複数ある場合には、コピーの上、ご記入をお願いします。



*下記の記入事項は右記のQRコードを読み込んでいただきますとスマートフォンからでもご登録いただけます →→→

会員番号		支部コード	
------	--	-------	--

支部名または 教室名	
---------------	--

代表者姓号	
-------	--

性別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女
----	--

代表者の生年	大正・昭和・平成 年（西暦 年）生まれ
--------	---------------------

教室所在地	〒 ー 都・道・府・県 区・市・郡
-------	-------------------

電話番号	
------	--

MAIL	
------	--

ホームページ	
--------	--

アクセス	
------	--

*例：JR山手線●●駅徒歩●分

会員数	
-----	--

会の特徴	
------	--

*お稽古の曜日・時間・月謝・オンライン対応可など

指導部門	*該当部分に○	毛筆		ペン字 (硬筆)	対象学年など特記事項があれば記入
		漢字	かな		
■一般（高校生含む）					
■学生（幼児・小学・中学）					

師範・一般受験昇試課題

曹

全碑 (師範)

※この中より字数・句切れ等を考えて書くこと
※月をまたいでの語句の選定は不可です。

(昨年度十二、一、二、三月号)
古碑法帖掲載部分に限る

12月号

1月号

獄卿明而治庶使
學者李儒學規程
寅寺不獲人爵之

出民設不平時
下掾王啟録事
王早王簿王庶乃

張寧廣聽事官舍
廷雷廊閣并降楹
讓朝觀之階費不

曹塚奉尚書曹史
王穎等嘉慕慕斯
赤甫之美乃井刊

2月号

3月号

石紀少其辭曰
戴明后護義章賈
王廷孤鬼方感布

亦持更命理殘紀
笈不臣寧黔首結
官寺開幸門關嗟

烈女殊荒還師旅
臨槐里盛孔懷赴
庭紀嗟道賤燔城

峨望華山卿明治
惠沾澤史年以民
給足君高升極鼠

智永

千字文 (師範・一般条幅部)

※この中より字数・句切れ等を考えて書くこと

(本年度四、五、六、七月号)
古碑法帖掲載部分に限る

4月号

5月号

塵珠中磨乃海浮初韻音
察理疑難極色珠麻嘉缺
魁主袒極岩所階滅龍塔
抗極昭乃上死林華羊々

欽拉染苧的磨園憂抽條
私把晚翠格桐平暇陈松
為窮落榮飄飄越跨約運
凌摩碎習沈續既亦窮目

方流允楷形阻僅通奈在
不更沈點雲梁承古為冷
致直道意似莫不並或山

素箭可形似名亦了增端
里借沈飯志口允的飽俊
字掌飢厥壯穠視感在庭

6月号

7月号

老少莫能毒由積幼幼中
性居既爾黃涼銀灼梓燈
直毗夕寐蓬夢象床程既
泊海搖杯未詢暢手既已

抑以孰聽紅涼聽深換指
頰濯紅灑法新坐道捕殺
較亡布討蒼丸醜其玩唱
任華於鳥詞乃任釣釋孫

悅像且麻鳩沒嗣續繁祀
蓋若魏新香打棟怪上理
枋標管為顧差望洋報取

而佳益法佳妙毛純涉海
王壯研嘆年生海僅蕪暉
酌醒於珠懸折幽眼珠照

句 語 作 創

師範部 釈文Ⅱ 一聲山鳥曙雲外 萬點水螢秋草中 (許渾)

よみⅡいつせいのさんちようしようんのそと、ばんでんのすいけいしゅうそうのうち。
大意Ⅱ山鳥が朝焼けの雲のむこうで一声鳴き、水辺の螢はほの暗い秋草の中に数多く点滅する。

(楷) 聲山鳥曙雲外萬點螢草

(行) 聲山鳥曙雲外萬點水螢草

一般条幅部 釈文Ⅱ 小窓半夜青燈雨 幽樹一庭黃葉秋 (眞山民)

よみⅡしょうそうはんやせいとうのあめ、ゆうじゅいつていこうようのあき。
大意Ⅱ夜半の小窓に降る雨は灯の光をしめらせ、しずかな木々は庭一面の黄葉を呈して秋もさなかである。

(楷) 窓夜青燈雨幽樹庭黃葉

(行) 窓夜青燈雨幽樹庭黃葉秋

※ 作品制作の参考となるよう「新書源」(二玄社)から字を拾いました。

(このまま書いても作品にはなりません。字形の参考として下さい。)

※ 師範部は、曹全碑・智永 千字文、創作語句を楷・行で計四種を書き、出品のこと。

※ 一般部は、智永 千字文、創作語句を楷・行で計三種を書き、出品のこと。
三段で飛び級受験者は、不合格の場合は三段に据え置きとなります。

師 範 受 験 昇 試 課 題

① 金沢本万葉集

（昨年度十二、一、二、三月号古筆）
（かな条幅手本部分からに限る）

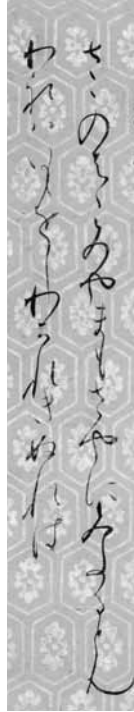
12月号



1月号



2月号



3月号



創作語句

② 《短歌》

吹きのぼる夕川風に小簾巻けば
雲居をかけて蛩とぶなり

（加納諸平）

大意 川下から吹き上がってくる夕方の川風に、すだれを巻きあげると、空の彼方を目指して蛩が飛んで行くよ。



③ 《俳句》

松風に誘はれて鳴く蟬一つ

（日野草城）

大意 松風の音にさそわれるように蟬がひとつ鳴いた。



※・印は必ず漢字を使用のこと。

※ 「二玄社 和様字典」「大書源」などから字を拾いました。参考にして下さい。

※ 師範受験者は①②③の三種を書き、出品規定を熟読の上出品のこと。

※ 三段で飛び級受験者は、不合格の場合は三段に据え置きとなります。

一般条幅部

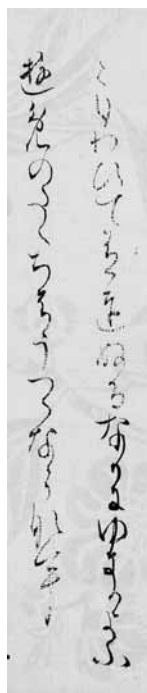
㊤本阿弥切

（本年度四、五、六、七月号
古筆かな条幅手本部分に限る）

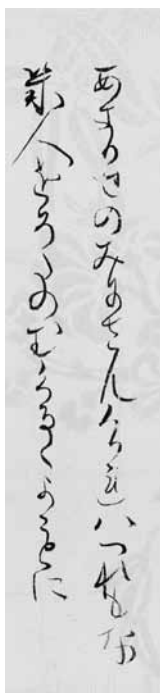
4月号



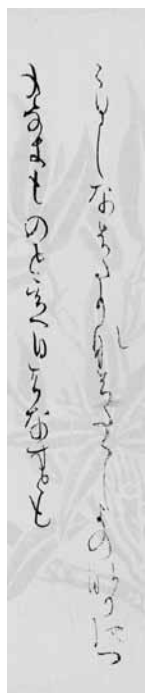
5月号



6月号



7月号



創作語句

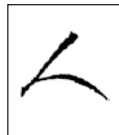
㊤《短歌》

夕^{ゆふ}さればいにしへ人の思^{おも}ほゆる

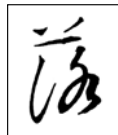
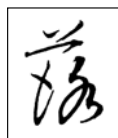
杉^{すぎ}はしづくを落^おしそめけり
（中村憲吉）

大意「夕ぐれになると遠い昔の人のことが思われる。山の杉の木は、しずかにしづくをおとしはじめた。」

人



落



※・印は必ず漢字を使用のこと。

※「二玄社 和様字典」「大書源」などから字を拾いました。
参考にして下さい。

※一般条幅部は㊤本阿弥切・㊤短歌の計二種を書き、出品規定を熟読の上出品のこと

半 紙 部 昇 試 課 題

= 創 作 =

楷書 〓 庶幾中庸
行書 〓 庶幾中庸

釈文 〓 庶幾中庸
読み 〓 庶幾中庸

= 臨 書 =
智永 千字文



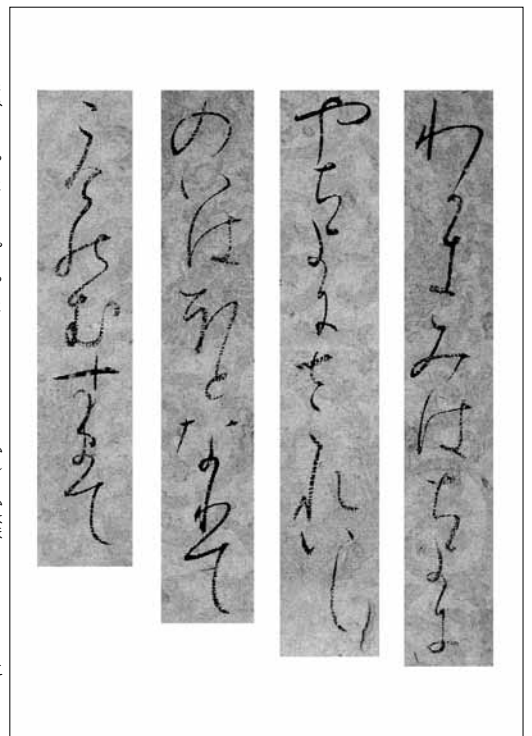
(4月号図版の中より)

〈漢字〉

= 創 作 =

= 臨 書 =
元暦校本万葉集

〈かな〉



※4行に書くこと

よみ 〓 わが君は千代に八千代にさざれ石の巖となりて苔のむすま
で

《短 歌》

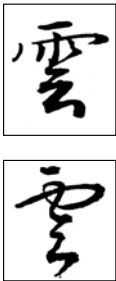
みづうみに雲も匂ひてうつろへば

恋しきものの限りしられず

(斎藤史)

大意 〓 湖に雲も美しく映えて次第にうつろってゆくのを
見ていると、この世は恋しいもので限りなくいっ
ぱいのような気がする。

雲



※・印は必ず漢字を使用のこと ※計二枚を書いて出品のこと
※「二玄社 和様字典」「大書源」などから字を拾いました。
参考にして下さい。
◎作品の左に、支部名・現在級・氏名を書くこと

※計三枚を書いて出品のこと
◎現在1級の方は条幅部でないと受験できません。

要 項

実行委員長＝小泉移山

実行委員 ＝奥村静香・内田泊雨・北山成子・満田裕子

本講習では、本院の代表をはじめ役員が講師として指導にあたり、主に昇段級試験対策を中心とした実力の向上をはかります。本年度、本院師範対象の師範位取得者研修の実施はありません。

◎期日＝五月十三日(土)～十四日(日)

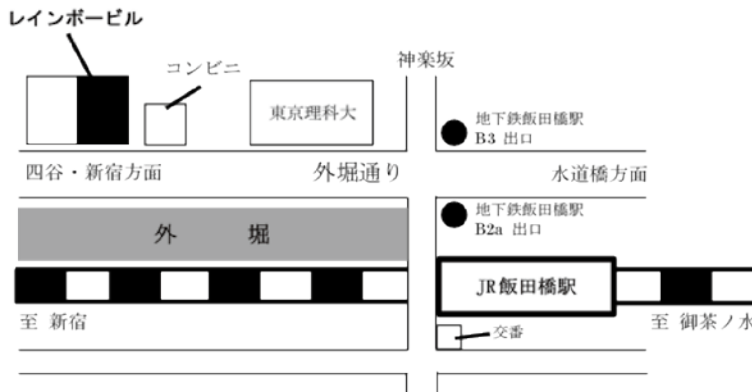
◎会場＝飯田橋レインボービル 〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町十一
電話番号03-3260-4971

◎対象＝本会員で、本年度昇段級試験の師範部・条幅部受験希望者(支部長・指導者可) ※半紙部受験希望者は不可

かな部	漢字部	部門
45名	45名	定員
20,000円 (1日参加は 15,000円)	20,000円 (1日参加は 15,000円)	受講料
半切 臨書2講座(本阿弥切・金沢本万葉集) 創作2講座(短歌・俳句) ※昇段級試験課題と異なる講座もありま すが、教養講座として受講ください。	半切 臨書2講座(智永 千字文・曹全碑) 創作2講座(楷書・行書) ※昇段級試験課題と異なる講座もありま すが、教養講座として受講ください。	講 座 内 容
月例条幅出品2回分 (1日参加の場合は 1回分) 受講者用出品券を付与 (2日間参加者のみ)	月例条幅出品2回分 (1日参加の場合は 1回分) 受講者用出品券を付与 (2日間参加者のみ)	特 典

◎注意事項

- ※「漢字部」「かな部」を、またいで受講はできません。
- ※受講者には事前に、受講証等の書類を送付致します。
- ※筆・墨・硯・紙・下敷・文鎮等、用具は各自でご持参ください。
- ※反故紙用のビニール袋をご持参ください。
- ※マスクは必ずご着用ください。
- ※状況により定員数を変更する場合がございます。
- ※入金後のキャンセル等による返金は致しません。ご了承ください。
- ※会場宛に荷物を送ることはできません。



2023年度書道講習会

◎ 配当予定表 ※開講式は初日の九時四〇から十時、閉講式は二日目の十五時四〇分から十六時

かな部		漢字部	
5月14日	5月13日	5月14日	5月13日
9:40~11:50	10:10~12:20	9:40~11:50	10:10~12:20
○小林幸子・坂東保枝・稲葉淳子・奥山裕美子 創作（課題語句 短歌）	○北山成子・高宮陽子・原田弘琴・大野幸子 臨書（本阿弥切 四月号〜七月号）	○服部大超・福山行雲・小池白亭・内田泊雨 創作（課題語句 楷書）	○小泉移山・水越幽峰・大久保樹心・柳杏秋 臨書（智永 千字文※小川本 四月号〜七月号）
昼		食	
12:40~15:30	13:10~16:30	12:40~15:30	13:10~16:30
○加藤泰玉・牧尚苑・飯島香苑・満田裕子 創作（課題語句 俳句）	○平澤琬子・齋藤宮子・星知子・板倉里佳 臨書（金沢本万葉集 十二月号〜三月号）	○吉田菁風・金子閣亭・片岡苑雨・佐藤游翠 創作（課題語句 行書）	○古谷春峰・奥村静香・児玉玲湖・鈴木幸風 臨書（曹全碑 十二月号〜三月号）

◎ 創作課題語句

かな部		漢字部	
条幅部	師範部	条幅部	師範部
夕 <small>ゆふ</small> さればいにしへ人の思 <small>おも</small> ほゆる杉 <small>すぎ</small> はしづくを落 <small>お</small> しそめけり （中村憲吉）	吹 <small>ふ</small> きのぼる夕川風 <small>ゆふがわかぜ</small> に小簾 <small>せま</small> 巻 <small>ま</small> けば雲居 <small>くも</small> をかけて螢 <small>ほたる</small> とぶなり （加納諸平）	小窓 <small>まつかぜ</small> 半夜青燈雨 <small>さそ</small> 幽樹 <small>な</small> 一庭黄葉秋 <small>ひと</small> 「しょうそうはんやせいとうのあめ ゆうじゆいつていこうようのあき」 （眞山民）	一聲山鳥曙雲外 <small>いっせいのさんちようしやうんのうち</small> 萬點水螢秋草中 <small>ばんてんのすいけいしゆうそうのうち</small> 「いっせいのさんちようしやうんのうち ばんてんのすいけいしゆうそうのうち」 （許渾）

●は、漢字使用

2023年度 書道講習会申込書

下記の申込記入欄にご記入いただき、受講料に添えて現金書留にてお支払い・お申し込みください。

※定員になり次第、締め切りとさせていただきます。

※申し込み入金後のキャンセル等による返金は致しません。ご了承ください。

※状況により、中止・変更になる場合があります。

●受講料

漢字部：20,000円（1日参加は15,000円）

かな部：20,000円（1日参加は15,000円）

バーコードシールを
貼付ください

●支払い方法

現金書留にてお支払いください。

●申込先

〒101-8715 東京都千代田区神田郵便局私書箱 37号

全日本書芸文化院 書道講習会 係

電話番号 03-3294-3551

●申込記入欄

住 所	
フリガナ	
姓名（姓号）	
性 別	男 ・ 女 どちらかを○印で囲んでください
生 年 月 日	大正 昭和 平成 年
電 話 番 号	
FAX 番 号	
受講希望部門	どちらかを○印で囲んでください 漢 字 部 / かな 部
1日参加の方	どちらかを○印で囲んでください。2日間とも参加の方は記入しないでください 13 日 / 14 日
段 位	準師範の方は○印で囲んでください。段級位の方は段級をご記入ください 準師範 / () 段 / () 級
書道講習会 参加回数	今回で () 回目

全日本書芸文化院認定教場の看板

本年度師範位合格者に大変好評です！

本院では、全国各地でご活躍の支部指導者並びに師範取得後、後進の指導にあたられる先生方に、是非、書文化の継承・発展のためにお力添えいただきたく、表記の「看板」を作成し、多くの方々々に好評を得て迎えられております。
左記の内容をご覧いただき、ご希望の方はお申し込み下さい。

 【大きさ】 (小) (大)
 縦 60 cm 縦 78 cm
 横 17 cm 横 22 cm
 厚さ 2.4 cm 厚さ 2.4 cm
 【価格】 (小) (大)
 三〇、〇〇〇円 三五、〇〇〇円
 (含送料・消費税)
 【材質】 木材(タモ材)
 【揮毫者】 本院元代表 富永秋山先生



(大)



(小)



(小)



(大)

官製はがきに大・小の希望と必要枚数を明記しお申し込み下さい。

看板は宅配便にてお送りいたします。その中に振替用紙を入れておきますので、届き次第で送金下さい。(メール申し込み、UFJ銀行振込でも受け付けます)

尚、〒番号、住所、氏名、大・小の区別、枚数は必ず楷書でお書き下さい。

申込先 = 〒101-8715 千代田区神田郵便局私書箱37号

全日本書芸文化院

info@z-shogei.co.jp

銀行振込の場合は、ホームページの【お支払い方法】をご確認ください。

他の会から「全書芸」に入会を希望される方

■一般部

一般部の編入審査は有料です。以下の要領で課題作品、審査料 1,000 円、返信用封筒（84 円切手を貼る）を同封の上、本院編入審査係宛お送り下さい。

※既にバーコード登録済の方は作品左下にシールを貼って出品下さい。

1. 作品課題

作品左下に付箋を付けて赤で「編入審査」と記入し、所属していた会、又は本院の課題と、所属していた会での段級を書き、現在までの書歴を半紙大の別紙に明記する。

段位の方：条幅（半切）にその会での課題又は本院の課題を書く。

級位の方：半紙にその会での課題又は本院の課題を書く。

2. 審査結果を受取りましたら

a) バーコードシール登録をしていない場合

本院指定の登録用紙の『段級位』の欄に審査結果の段級を記入し、『合格者』の欄には「編入審査」と書いて郵便または FAX にて本院にお送りください。

バーコードシールが届いたら、次回の出品よりその段級位で出品できます。

b) 編入審査前にバーコードシール登録済の場合

ハガキにバーコードシールを貼り「編入審査による段級の訂正」と書いて本院にご郵送ください。この届出が無いと本来の段級で審査されず事故となる場合があります。

※本院の一般部段級位構成は下記の通りです

師範・準師範・三段・二段・初段・準初段・1級～10級の各級・新規

■学生部

学生部の編入審査は無料です。以下の要領で課題作品、返信用封筒（84 円切手を貼る）を同封の上、本院編入審査係宛にお送りください。

1. 作品課題

作品左下に付箋を付け赤で「編入審査」と記入し、所属していた会、又は本院の課題を書いてください。

a) 毛筆：所属していた会での課題、又は本院の課題と、その会での段級を半紙に書く。

b) 書き方：所属していた会での課題、又は本院の課題と、その会での段級をその会の用紙又は本院の用紙に書く。

2. 審査後、結果を通知致します。

編入審査結果が届いたら、次回の出品よりその段級位で出品できます。

<https://www.z-shogei.co.jp>

北海道函館かな講習会

主催 「全日本書芸文化院」

共催 北海道函館かな講習会実行委員会（実行委員長 工藤 文園）

昨年の北海道帯広市での講習会に引き続き、北海道函館市において次のとおり「かな講習会」を開催する運びとなりました。本講習は、全日本書芸文化院の役員が講師として赴き、実技を主体として指導に当たり実力向上を図るためのものです。主に昇段昇級試験に対応した課題を中心に、師範位の方には創作作品、展覧会作品制作の指導等も行います。みなさま奮ってご参加ください。

- ・ 日 時 令和5年4月29日（土）～4月30日（日） 2日間
- ・ 会 場 函館市芸術ホール
所在 〒040-0001 函館市五稜郭町37-8
TEL 0138(55)3521
- ・ 講 師 本院役員 人数は未定
- ・ 定 員 50名（全書芸会員を対象とし、申し込み順に決定） ※定員になり次第締め切ります。
- ・ 内 容 昇段昇級試験課題、全書芸誌月例課題、全書芸展作品制作その他
- ・ 受講特典 月例条幅出品2回分（1日出席の場合は1回分）
講習会参加者用昇段昇級試験出品券付与（師範部受験者で2日間出席した者）
- ・ 受講料 2日間 15,000円 1日のみ 10,000円
（2日間受講が原則ですが、1日受講だけでも可）
- ・ 申込方法 下記の申込用紙に必要事項を記入の上、ハガキに貼り付けて、申込先へ送付ください。
講習会の詳しい内容、受講料の振込用紙等を郵送いたします。
- ・ 申込締切 令和5年3月31日（金）
- ・ 申込先 全日本書芸文化院 北海道函館かな講習会事務局 工藤 文園
〒041-0807 函館市北美原3丁目26-7
TEL・FAX 0138(47)1569
- ・ ホテルの申し込みにつきましては各自で行ってください。

切り取り線

平成5年度 「北海道函館かな講習会」申込書

私は、貴院主催、「北海道函館かな講習会実行委員会」共催の講習会に参加したく申し込みます。

（※ 必要事項を楷書で書き、該当に○印をつけてください。）

支部名		支部長名	
支部長・指導者	昇段級試験受験(師範部・条幅部)	現段級(段・ 級)	
1日だけ希望(日)	男・女	歳	電話

住 所	〒		
フリガナ		会員番号	
姓 号			

※ ハガキに貼り付けて、申込先へ送付ください。

「北海道札幌における講習会（漢字）」

主催 「全日本書芸文化院」

共催 北海道における講習会（漢字）実行委員会（実行委員長 村上勝則）

北海道札幌市において書道講習会を開催する運びとなりました。

本講習は、全日本書芸文化院の本部役員の講師の方々を招き、実技を主体とした指導を受けることで、実力向上を図るための催しです。昇段級試験、師範取得試験（7月）、コンクール（9月）及び全書芸展（12月）に向けて技術の向上を目指します。みなさま奮ってご参加ください。

（※ 新型コロナウイルス感染症の状況により、講習会を中止する場合があります。）

- ・ 日 時 令和5年5月20日（土）～5月21日（日） 2日間
- ・ 会 場 北農健保会館（JR札幌駅から徒歩5分）
〒060-0004 札幌市中央区北4条西7丁目1-4 TEL (011) 261-3270
- ・ 講 師 本院役員 人数は未定
- ・ 定 員 30人（昇段級・師範受験者を優先し申込順に決定） 対象者：全書芸会員
- ・ 内 容 全書芸昇段昇級試験課題、全書芸誌月例課題、全書芸展作品制作、その他
- ・ 受講特典 月例条幅出品2回分（1日出席の場合は1回分）
講習会参加者用昇段級試験出品券付与（師範受験者で2日間出席した者）
- ・ 受講料 2日間 15,000円 1日のみ 10,000円
（2日間が原則。1日だけでも可）
- ・ 申込方法 現金書留にて、下記の申込用紙と受講料を同封し申し込みください。
それ以外での申し込みは受け付けません。（後日資料等を送付します。）
※支部単位による申し込みをお勧めします。
- ・ 申込締切 令和5年3月31日（金）
- ・ 申 込 先 全日本書芸文化院事務局
〒101-8715 東京都千代田区神田郵便局私書箱37号
TEL. 03 (3294) 3551 FAX. 03 (3291) 1238

〈宿泊等のご案内〉

講習会参加申込者への資料送付時に必要書類を同封しますので、希望する方は、直接、お申し込みください。

切り取り線

令和5年 「北海道札幌における講習会（漢字）」申込書

私は貴院主催、「北海道札幌における講習会（漢字）実行委員会」共催の講習会に参加したく、会費と申込書を同封し現金書留にて申込みます。

※必要事項を楷書で書き、該当に○印を、計算表にはチェックを入れてください。

支部名		支部長名	
支部長・指導者	昇段級試験受験(師範部・一般部)		現段級 (段・ 級)
住 所	〒	電話	
フリガナ		男・女	歳
姓 号			
			会員の方は バーコードシール を貼って下さい

受講料	懇親会(20日)	昼食	各項目の希望に☑ を入れ、金額を計 算してください。 合計 円
<input type="checkbox"/> 2日間 15,000円 <input type="checkbox"/> 1日のみ 10,000円 └─(<input type="checkbox"/> 20日 <input type="checkbox"/> 21日)	<input type="checkbox"/> 参加 6,000円 <input type="checkbox"/> 参加しない	<input type="checkbox"/> 2日分必要 2,000円 <input type="checkbox"/> 1日分必要 1,000円 <input type="checkbox"/> 必要ない	

全書芸（高校・一般版）・ペン全書芸 新規会員登録申込書

本誌購読者のみ会員登録および競書出品が可能です。

購読1セット（①全書芸 ②全書芸+ペン全書芸 ③ペン全書芸）につき登録は1名様に限ります。

① 登録歴（高校生・一般会員として）

- 今回はじめて登録する
- 以前に登録したことがある

② 登録料として700円を申し受けます

- 切手同封
- 購読料に加算(登録料納入日 /)

③ 購読種別

- 全書芸（高校・一般 毛筆）
- ペン全書芸（高校・一般 ペン字）

④ 購読区分

- 個人購読（ご自宅に本の送付を希望の方）（購読料納入日 / ）
- 支部購読（支部長より本を購読される方）

● 支部コード

--	--	--	--	--	--	--	--

● 支部長名 _____ バーコード番号

--	--	--	--	--	--	--	--

以前のシールをお持ちの方は 貼付又は番号をご記入下さい							

⑤ 氏名（姓号）・支部名

氏名	フリガナ		
	漢字部	姓	名(号)
	ペン字部		
氏名	フリガナ		
	かな部	姓	名(号)

支部名	フリガナ		
	漢字部		
	ペン字部		
	フリガナ		
支部名	フリガナ		
	かな部		

*支部に所属していない個人の方は、お好きな2文字の支部名を決めてご記入下さい。

⑥ 生年：大正・昭和・平成

--

 年生まれ

⑦ 新規会員の住所・連絡先

フリガナ			
〒	—	都道 府県	市区 郡
TEL ()		FAX ()	
携帯 ()		E-mail	

⑧ 現在の段級位

	段級位	合格年
漢字部		
かな部		

* 新規入会者は「新規」と記入してください。
* 本誌で段級位を認定されたことがある方は、最高段級位と何年度の昇級試験で昇段されたかを必ずご記入ください。

第四十六回

桂紅会書展

主宰 榑崎華祥

会期 令和五年四月十四日(金)～十六日(日)

時間 午前十時～午後六時(最終日は午後四時まで)

会場 セントラルミュージアム銀座

中央区銀座三一九一 紙パルプ会館5階

(TEL・〇三―三五四六―五八五五)

御多用のことと存じますが、御高覧、御指導くださいますようお願い申し上げます。

桂紅会

〒112-0012 文京区大塚四―二―一五 榑崎華祥方

第五十七回 純正書道展

会長 堀 天鶴

会期 令和五年四月十二日(水)～十六日(日)

時間 午前九時～午後六時(最終日は午後四時まで)

会場 神奈川県民ホール ギャラリー2・3・4・5室

(みなとみらい線日本大通り駅3番出口/JR関内駅)

ご多忙中恐縮に存じますが、ご高覧の上、ご批正賜わたく、ご案内申し上げます。

主催 純正書法連盟

〒232-0017 横浜市南区宿町二―三―八一

TEL 〇四五―七四二―八四一六

白井富代懐古展

会期 令和五年四月四日(火)～九日(日)

時間 午前九時半～午後五時

※最終日は午後四時半まで

会場 高松市美術館一階 市民ギャラリー

高松市紺屋町一〇―四

TEL 〇八七―八二三―一七二一

事務局 TEL 〇八七―八三三―九二七六

第三回 雄山書院展

※書展案内は、3月号に掲載

令和五年三月二十二日(水) 会場都合により休館

全書芸誌三月号【珠玉集】掲載のお詫び

無鑑査漢字 準奨励賞 山口県 尾崎鳩月

(誤) P 59頁 ↓ (正) P 19頁に掲載

無鑑査漢字 香川県 大比賀千鶴子

(誤) P 19頁 ↓ (正) P 59頁に掲載

掲載場所(頁)に誤りがございました。お詫びし訂正いたします。

全日本書芸文化院